

檜葉町復興のための
町民アンケート調査結果報告書

平成23年9月

檜 葉 町

目 次

1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
(4)	本調査結果報告書の留意点	1
2	調査結果	2
2. 1	回答者の属性	2
問 1	あなたのご家族のことについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んで1つに○印をつけてください。	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	3
(3) - 1	職業（避難前）	4
(3) - 2	職業（避難後）	6
(4) - 1	現在の住まい（避難先）	8
(4) - 2	住まいの住居種別（避難先）	11
(5)	避難先を選んだ理由	13
(6)	家族構成（避難前・避難後）	15
2. 2	調査結果	19
2. 2. 1	避難先での生活	19
問 1	避難前と比べ今の収入（世帯の合計）はどうなりましたか。	19
問 2	現在の収入で、あなたの世帯の暮らしむきはどのような状態ですか。	23
問 3	今後の生計の見通しはどうですか。	27
問 4	経済面で考えたとき、今のような状態をどれくらい続けられると思いますか。	30
問 5	あなたの仕事についておたずねします。	33
問 6	避難生活が続く中で現在の体の調子はどうですか。	38
問 7 - 1	現在、病院・診療所にかかっていますか。	41
問 7 - 2	問 7 - 1 で「2.治療が必要だがかかっていない家族（自分を含む）がいる」「3.治療を中断している家族（自分を含む）がいる」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。	44
問 8	ご家族（自分を含む）に次のような方がいますか。	47
問 9	子どもの教育についてお困りのことはありますか。	51
問 1 0	現在の住宅についてお困りのことはありますか。	55
問 1 1	被災者の支援情報や町の情報について、どのような手段で知らせて欲しいですか。	60
問 1 2	今後どのような情報を知りたいですか。ご自由にお書きください。	63
問 1 3	生活環境についてお聞きします。	66

問 1 4	今、行政に要望したい内容についておたずねします。	70
2. 2. 2 檜葉町への帰町		73
問 1 5	あなたは、檜葉町へ戻ろうと考えていますか。	73
問 1 6	問 1 5 で「戻りたい」と答えた方にうかがいます。あなたは、檜葉町がどのような状況になったら戻ろうと考えていますか。	75
問 1 7	問 1 5 で「戻りたい」と答えた方にうかがいます。檜葉町へ戻りたい理由を教えてください。	79
問 1 8	問 1 5 で「戻りたい」と答え、且つお子さんがいる方にうかがいます。あなたの家族に、就学しているお子さんはいますか。（こども園含む）該当する区分番号を○で囲み、区分ごとの人数をご記入ください。また、該当する学年等を○で囲んでください。	83
問 1 9	問 1 5 で「わからない」と答えた方にうかがいます。あなたは、どのような状況になったら檜葉町への帰町が判断できますか。	85
2. 2. 3 津波による被災状況（津波により家屋等が被災された方を対象）		87
問 2 0	今後、住宅を再建する時は移転を考えていますか。	87
問 2 1	住宅の再建するうえで、どのようなことが重要と考えますか。	89
問 2 2	今後の住宅の再建について、どのようにお考えですか。	91
問 2 3	津波被災地の再建のあり方についてどうお考えですか。ご自由にお書きください。	93
2. 2. 4 町の復興		96
問 2 4	今後、町の復興にどのようなことを希望されていますか。	96
問 2 5	あなたは町の復興のために何をすることができますか。	100
問 2 6	現在お困りのこと、今後の町の復興に関する意見や要望など、ご自由にお書きください。	104

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、東日本大震災、並びに東京電力㈱福島第一原子力発電所の事故により避難生活を余儀なくされている町民の現状や心境などの実態を把握するとともに、町の復興計画を立てるにあたり、町民の要望を把握することを目的に実施した。

(2) 調査対象及び調査方法

項 目	内 容
調査対象	全世帯
調査方法	郵送による配布、回収
調査時期	平成23年8月

(3) 配布数及び回収結果

配布数	2,900
有効回収数	1,995
有効回収率	68.8%

(4) 本調査結果報告書の留意点

本報告書を理解する上で、次の点に留意する必要がある。

- 比率は百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100%を上下する場合もある。
- 質問の終わりに「複数回答可」とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合がある。
- 文中、グラフ中の選択肢の文言は一部簡略化している。
- 問の中には「～に○をつけた方にうかがいます。」などいろいろな制限があり、また、属性別での職業別など回答者数が少なく、有意性の低いものも含まれる。

2 調査結果

2. 1 回答者の属性

【設問】

問1 あなたのご家族のことについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んで1つに○印をつけてください。

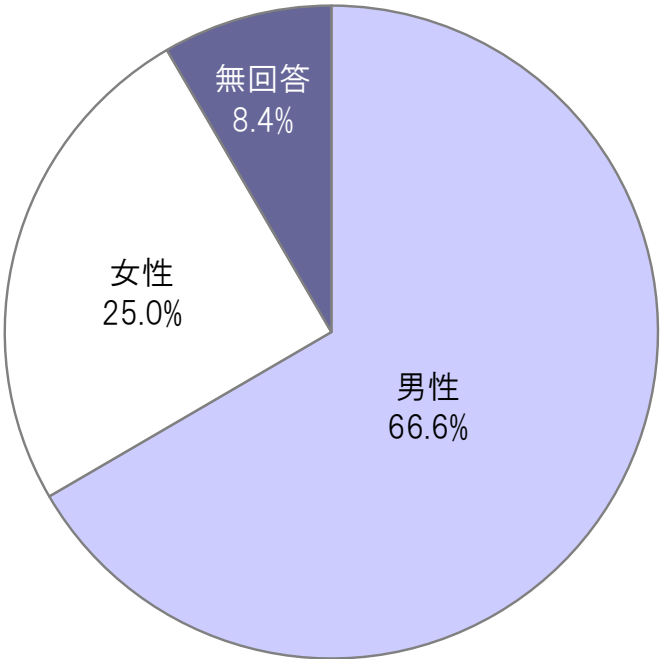
【回答状況】

(1) 性別

■ 結果の概要

- ・ 今回のアンケート調査は、世帯主へ調査票を送付したこともあり、回答者の2/3を男性が占め、女性の占める割合は1/4程度になった。

◆ 単純集計結果



◆ 集計表

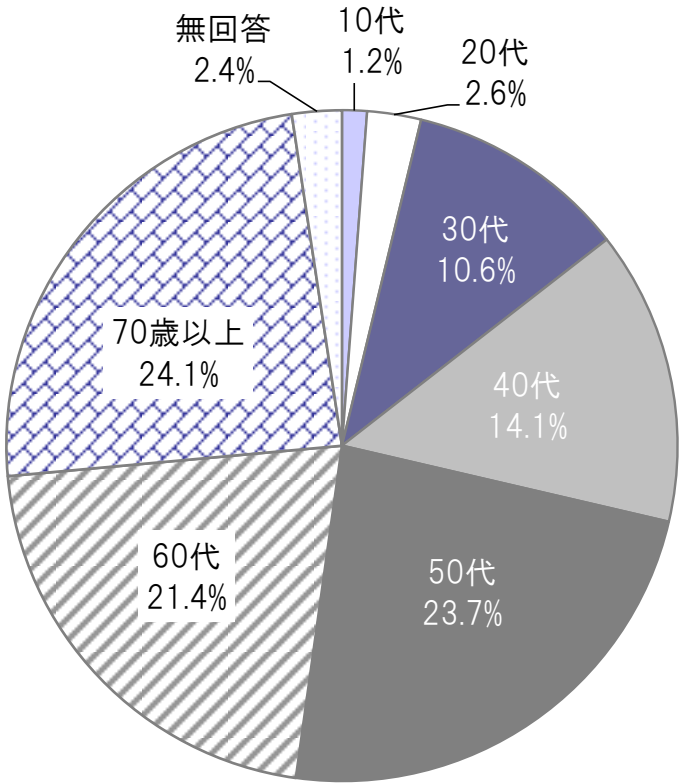
回答選択肢	回答数	割合 (%)
男性	1,329	66.6
女性	498	25.0
無回答	168	8.4
合計	1,995	100.0

(2) 年齢

■ 結果の概要

- ・ 回答者の年齢は、中高年層の回答者が多くを占め、60代以上の回答者が全体の約半数(45.5%)を占める。
- ・ 10代の回答者がいるが、これは、ほとんどが学生である。

◆ 単純集計結果



◆ 集計表

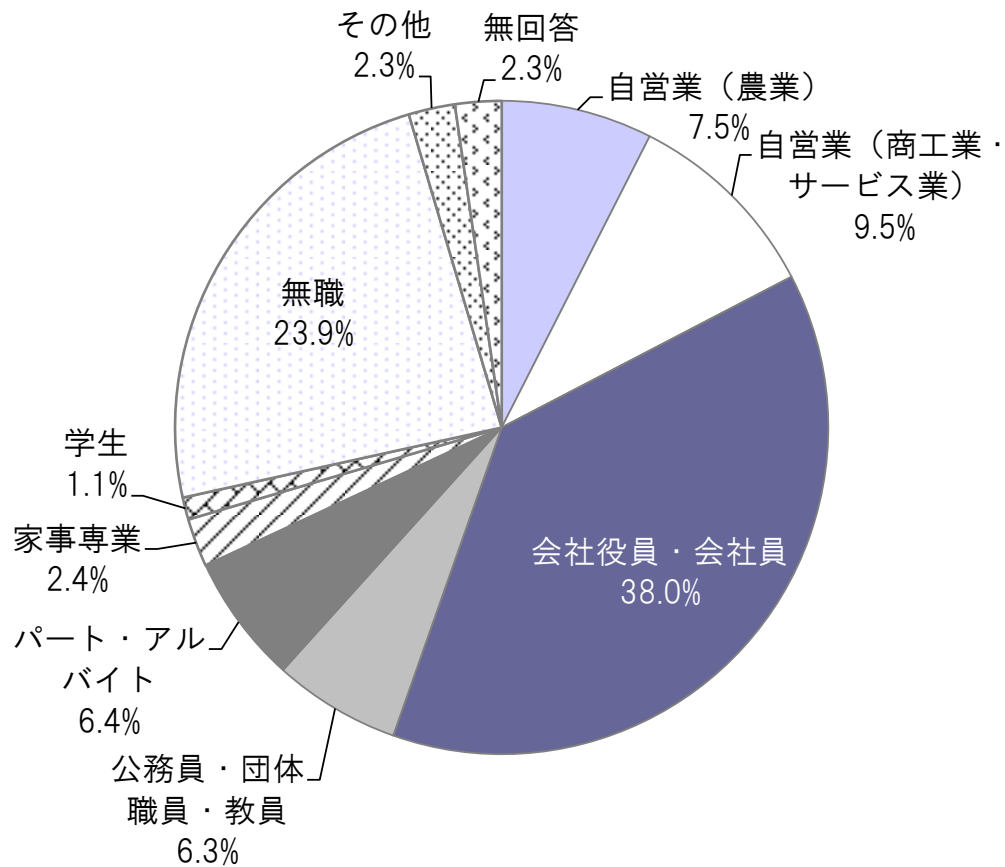
	回答数	割合 (%)
10代	24	1.2
20代	51	2.6
30代	213	10.7
40代	284	14.2
50代	470	23.6
60代	426	21.4
70歳以上	480	24.1
無回答	47	2.4
合計	1,995	100.0

(3) - 1 職業（避難前）

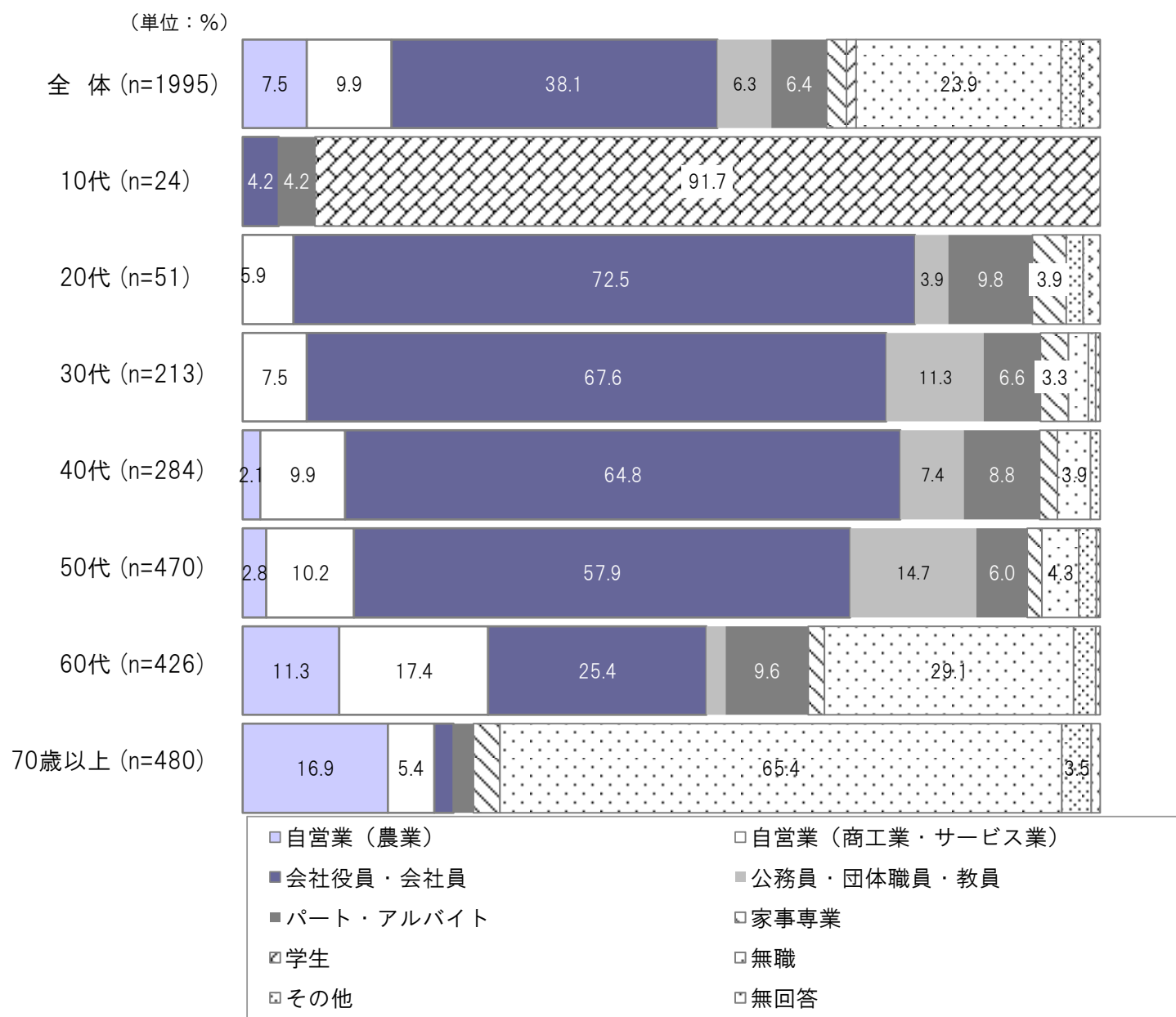
■ 結果の概要

- ・ 避難前の職業は、「会社役員・会社員」が回答者の1/3超を占めて最も多く、次いで「無職」が約24%、「自営業（商工業・サービス業）」が約10%、「自営業（農業）」が約8%の順になった。
- ・ 年齢別には、20代から50代までの各世代において「会社役員・会社員」が最も多い。「無職」については、60代では約30%、70歳以上では約65%を占めていた。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	自 営 業 （ 農 業 ）	自 営 業 （ 商 工 業 ・ サ ー ビ ス 業 ）	会 社 役 員 ・ 会 社 員	公 務 員 ・ 団 体 職 員 ・ 教 員	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト	家 事 専 業	学 生	無 職	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	149 7.5	197 9.9	760 38.1	126 6.3	127 6.4	47 2.4	22 1.1	477 23.9	45 2.3	45 2.3
10代	24 100.0	- -	- -	1 4.2	- -	1 4.2	- -	22 91.7	- -	- -	- -
20代	51 100.0	- -	3 5.9	37 72.5	2 3.9	5 9.8	2 3.9	- -	- -	1 2.0	1 2.0
30代	213 100.0	- -	16 7.5	144 67.6	24 11.3	14 6.6	7 3.3	- -	5 2.3	2 0.9	1 0.5
40代	284 100.0	6 2.1	28 9.9	184 64.8	21 7.4	25 8.8	6 2.1	- -	11 3.9	3 1.1	- -
50代	470 100.0	13 2.8	48 10.2	272 57.9	69 14.7	28 6.0	8 1.7	- -	20 4.3	10 2.1	2 0.4
60代	426 100.0	48 11.3	74 17.4	108 25.4	10 2.3	41 9.6	8 1.9	- -	124 29.1	11 2.6	2 0.5
70歳以上	480 100.0	81 16.9	26 5.4	11 2.3	- -	11 2.3	15 3.1	- -	314 65.4	17 3.5	5 1.0

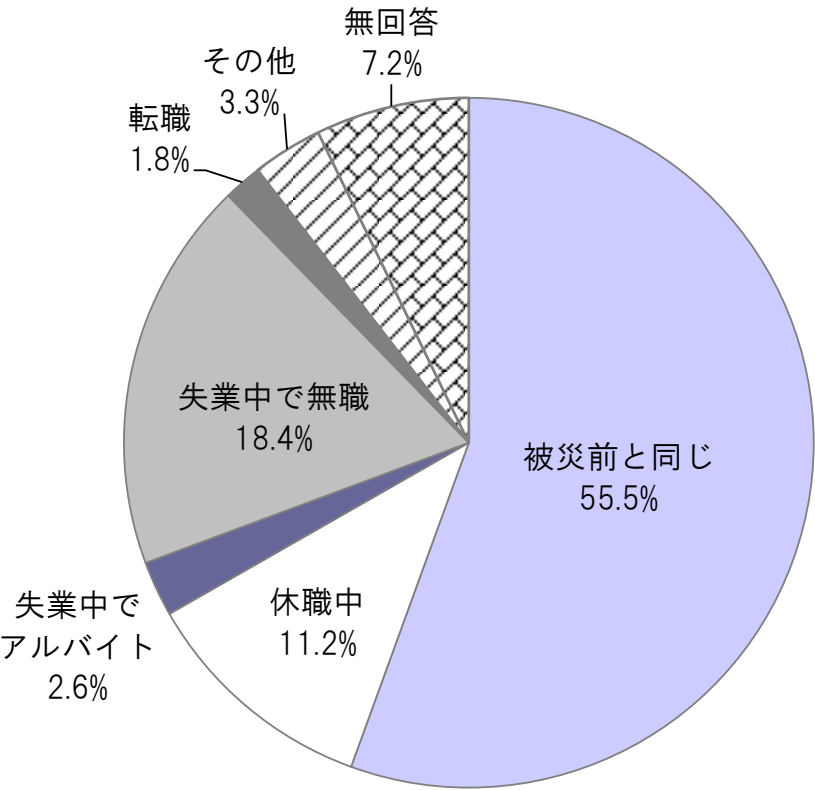
◆ 「その他」における自由記述

・医療関係(2件) ・結いの里(生活訓練) ・鳶(原発の仕事) ・町臨時職員 ・リンベルハウス ・きりえ作家 ・委託員 ・就職内定中

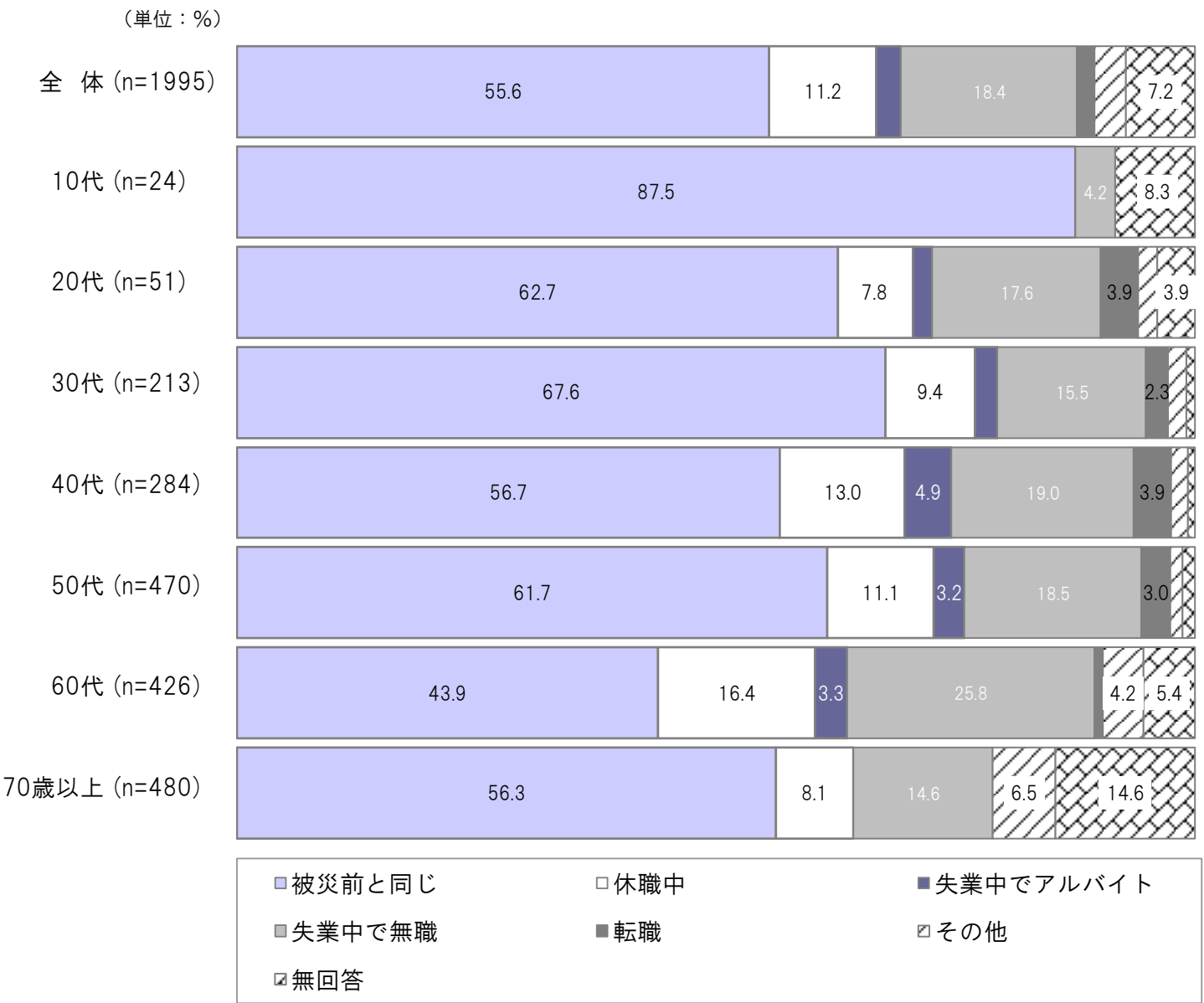
■ 結果の概要

- ・「休職中」「失業中でアルバイト」「失業中で無職」「転職」など、災害により大きな影響を受けている回答者が約4割にのぼる。特に年齢層としては60代で影響が大きい。
- ・被災前の職業から転職した人は少なく(約2%)、新たな職を見つけられていない現状がわかる。
- ・年齢別では、60代において「失業中で無職」が約1/4を占め、他の世代よりもその割合が高い。
- ・避難前の職業別で見ると、パート・アルバイト、自営業(農業)では「被災前と同じ」が14～15%しかおらず、「失業中で無職」「休職中」が合わせて6～7割となっている。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	被災 前と 同じ	休 職 中	失業 中で アル バイト	失業 中で 無職	転 職	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	1110 55.6	223 11.2	51 2.6	367 18.4	36 1.8	65 3.3	143 7.2
10代	24 100.0	21 87.5	- -	- -	1 4.2	- -	- -	2 8.3
20代	51 100.0	32 62.7	4 7.8	1 2.0	9 17.6	2 3.9	1 2.0	2 3.9
30代	213 100.0	144 67.6	20 9.4	5 2.3	33 15.5	5 2.3	4 1.9	2 0.9
40代	284 100.0	161 56.7	37 13.0	14 4.9	54 19.0	11 3.9	5 1.8	2 0.7
50代	470 100.0	290 61.7	52 11.1	15 3.2	87 18.5	14 3.0	6 1.3	6 1.3
60代	426 100.0	187 43.9	70 16.4	14 3.3	110 25.8	4 0.9	18 4.2	23 5.4
70歳以上	480 100.0	270 56.3	39 8.1	- -	70 14.6	- -	31 6.5	70 14.6

クロス集計（職業【避難後】×職業【避難前】）

	全 体	被災 前と 同じ	休 職 中	失業 中で アル バイト	失業 中で 無職	転 職	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	1110 55.6	223 11.2	51 2.6	367 18.4	36 1.8	65 3.3	143 7.2
自営業（農業）	149 100.0	23 15.4	35 23.5	8 5.4	57 38.3	2 1.3	11 7.4	13 8.7
自営業（商工業・サービス）	197 100.0	70 35.5	53 26.9	12 6.1	46 23.4	7 3.6	6 3.0	3 1.5
会社役員・会社員	760 100.0	480 63.2	108 14.2	18 2.4	129 17.0	13 1.7	11 1.4	1 0.1
公務員・団体職員・教員	126 100.0	106 84.1	6 4.8	- -	6 4.8	3 2.4	4 3.2	1 0.8
パート・アルバイト	127 100.0	18 14.2	15 11.8	10 7.9	73 57.5	7 5.5	3 2.4	1 0.8
家事専業	47 100.0	33 70.2	1 2.1	1 2.1	5 10.6	- -	2 4.3	5 10.6
学生	22 100.0	20 90.9	- -	- -	- -	- -	- -	2 9.1
無職	477 100.0	347 72.7	1 0.2	1 0.2	37 7.8	2 0.4	17 3.6	72 15.1
その他	45 100.0	12 26.7	3 6.7	- -	13 28.9	2 4.4	11 24.4	4 8.9

◆ 「その他」における自由記述

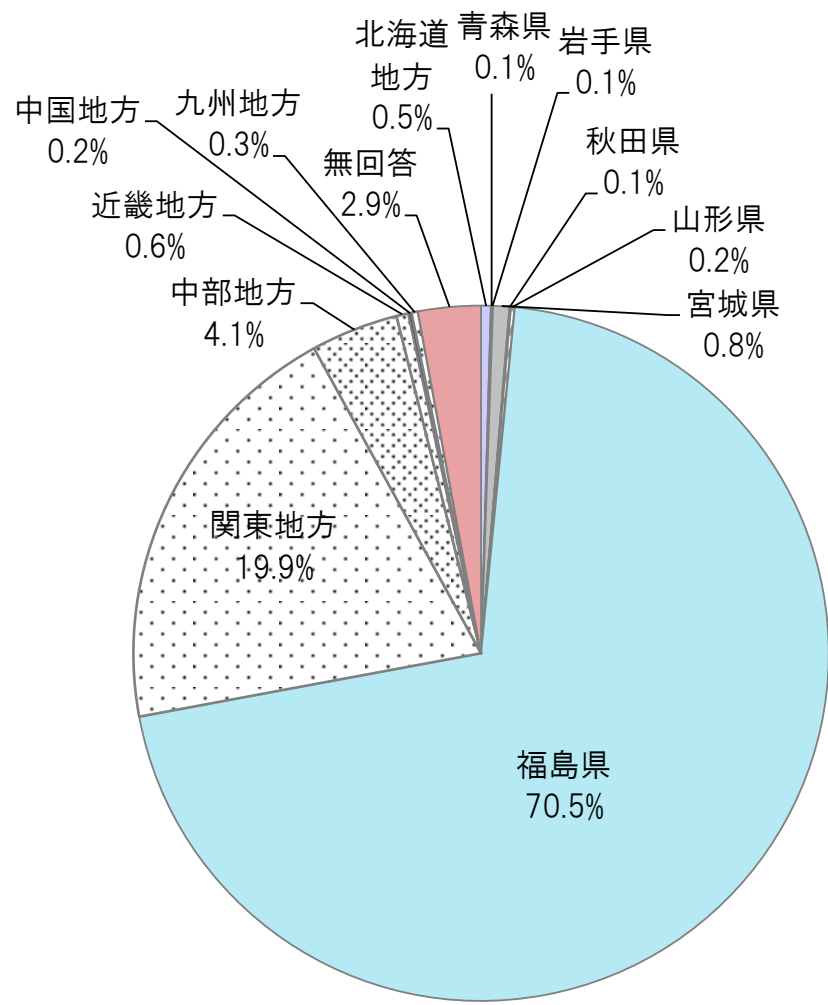
・年金受給者(2件) ・運送業(転職) ・非常勤 ・ふたばの里・りんべるハウス ・杜のどーなつ ・職業訓練中 ・勤務地移動 ・職種は同じだが会社から仕事を頂いてる ・7月より事業再開 ・食堂 ・3月31日退職予定 ・早期退職 ・定年退職 ・都立高校 事務 ・東電を辞めて会津へ ・入院中 ・運転手 ・団体臨時職員 ・取手市臨時職員 ・津波で流出

(4)-1 現在の住まい(避難先)

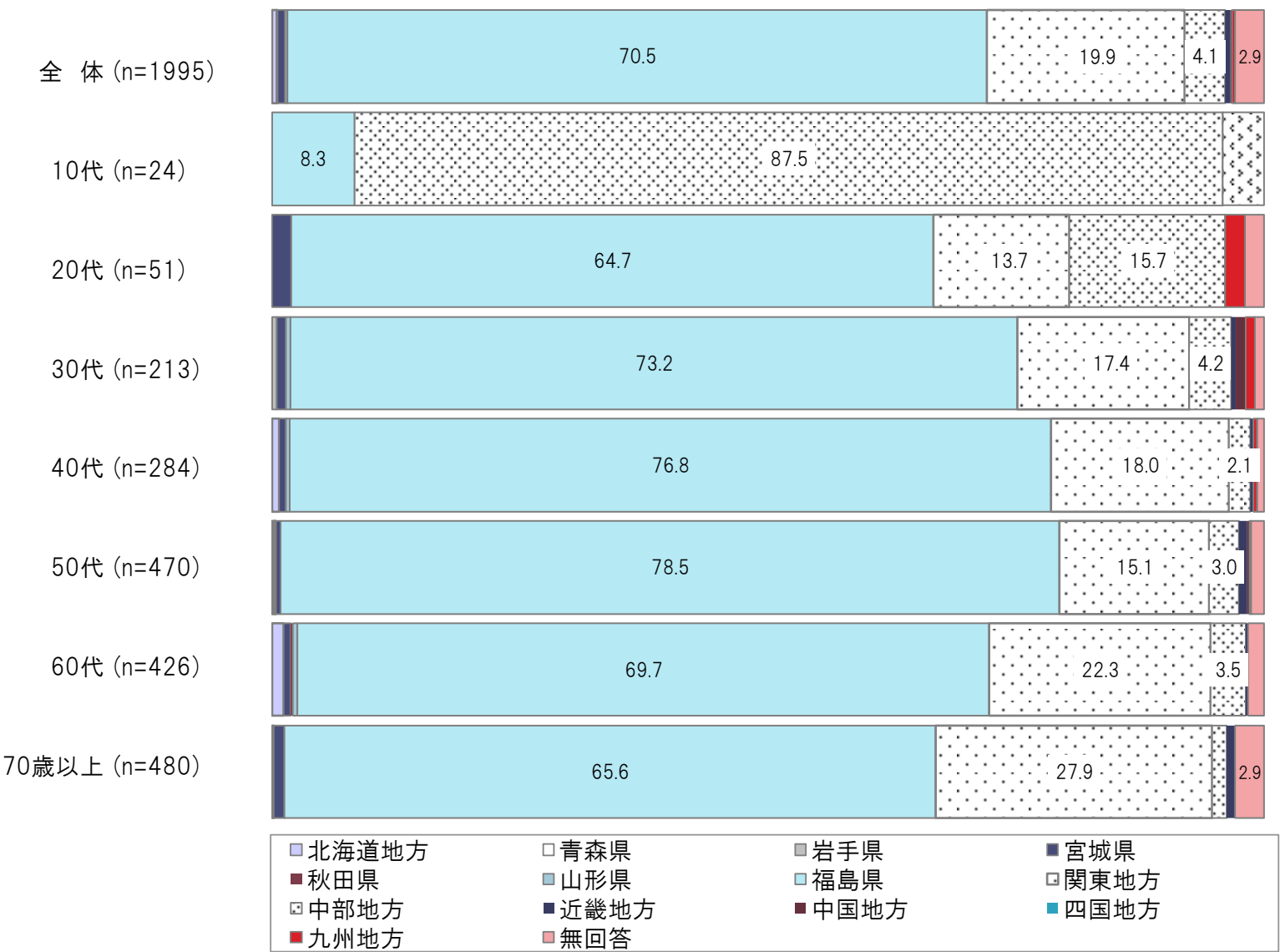
■ 結果の概要

- ・ 福島県内に避難している町民が全体の7割を超えている。このうち、いわき市内は約7割(全体の約半数)、会津美里町が1割(全体の約7%) と多い。
- ・ 20代、30代は、会津美里町へ避難している世帯の割合が高い。小さな子どものいる世帯が比較的多いためではないかと考えられる。

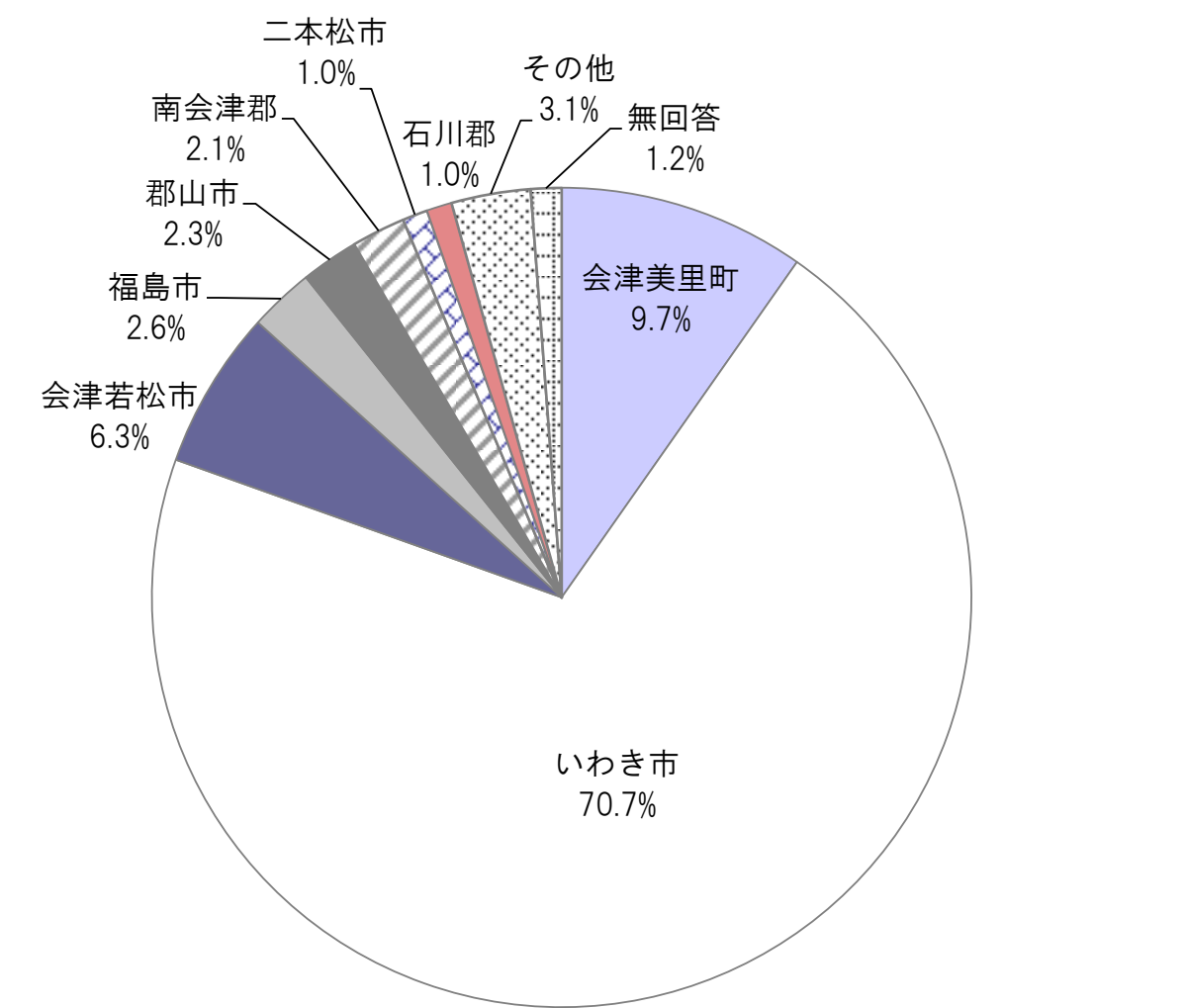
(i) 地方別
◆ 単純集計結果



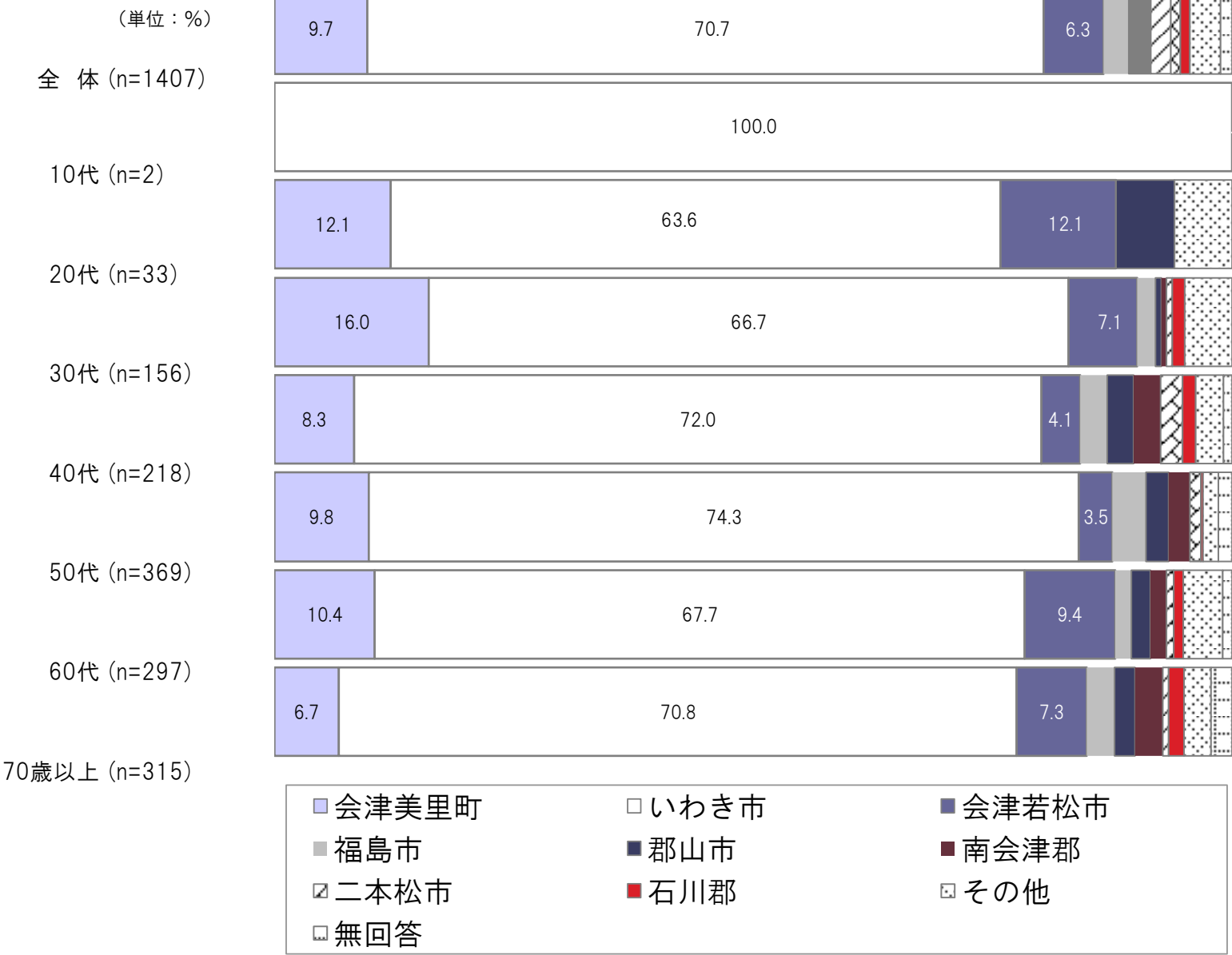
◆ 回答世代別集計結果



(ii) 福島県内市町村別
 ◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	北 海 道 地 方	青 森 県	岩 手 県	宮 城 県	秋 田 県	山 形 県	福 島 県	関 東 地 方	中 部 地 方	近 畿 地 方	中 国 地 方	四 国 地 方	九 州 地 方	無 回 答
全 体	1995 100.0	9 0.5	1 0.1	1 0.1	15 0.8	1 0.1	4 0.2	1407 70.5	398 19.9	81 4.1	11 0.6	3 0.2	- -	6 0.3	58 2.9
10代	24 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	2 8.3	- -	21 87.5	- -	- -	- -	1 4.2	- -
20代	51 100.0	- -	- -	- -	1 2.0	- -	- -	33 64.7	7 13.7	8 15.7	- -	- -	- -	1 2.0	1 2.0
30代	213 100.0	- -	- -	1 0.5	2 0.9	- -	1 0.5	156 73.2	37 17.4	9 4.2	1 0.5	2 0.9	- -	2 0.9	2 0.9
40代	284 100.0	2 0.7	- -	- -	2 0.7	- -	1 0.4	218 76.8	51 18.0	6 2.1	1 0.4	- -	- -	1 0.4	2 0.7
50代	470 100.0	1 0.2	1 0.2	- -	2 0.4	- -	- -	369 78.5	71 15.1	14 3.0	4 0.9	1 0.2	- -	1 0.2	6 1.3
60代	426 100.0	5 1.2	- -	- -	3 0.7	1 0.2	2 0.5	297 69.7	95 22.3	15 3.5	1 0.2	- -	- -	- -	7 1.6
70歳以上	480 100.0	1 0.2	- -	- -	5 1.0	- -	- -	315 65.6	134 27.9	7 1.5	4 0.8	- -	- -	- -	14 2.9

	全 体	会 津 美 里 町	い わ き 市	会 津 若 松 市	福 島 市	郡 山 市	南 会 津 郡	二 本 松 市	石 川 郡	そ の 他	無 回 答
全 体	1407 100.0	137 9.7	995 70.7	88 6.3	36 2.6	32 2.3	30 2.1	14 1.0	14 1.0	44 3.2	17 1.2
10代	2 100.0	- -	2 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20代	33 100.0	4 12.1	21 63.6	4 12.1	- -	2 6.1	- -	- -	- -	2 6.0	- -
30代	156 100.0	25 16.0	104 66.7	11 7.1	3 1.9	1 0.6	1 0.6	1 0.6	2 1.3	8 4.9	- -
40代	218 100.0	18 8.3	157 72.0	9 4.1	6 2.8	6 2.8	6 2.8	5 2.3	3 1.4	6 2.9	2 0.9
50代	369 100.0	36 9.8	274 74.3	13 3.5	13 3.5	9 2.4	8 2.2	4 1.1	1 0.3	6 1.6	5 1.4
60代	297 100.0	31 10.4	201 67.7	28 9.4	5 1.7	6 2.0	5 1.7	2 0.7	3 1.0	13 4.1	3 1.0
70歳以上	315 100.0	21 6.7	223 70.8	23 7.3	9 2.9	7 2.2	9 2.9	2 0.6	5 1.6	9 2.8	7 2.2

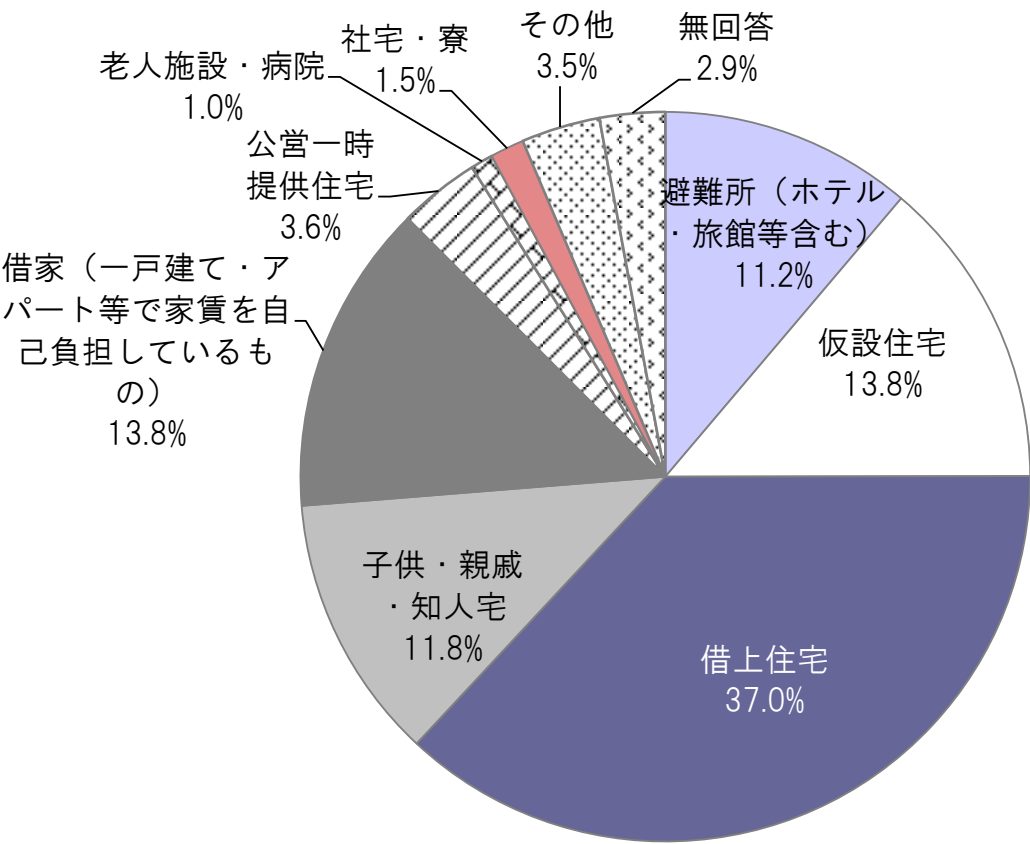
(4)-2 住まいの住居種別(避難先)

■ 結果の概要

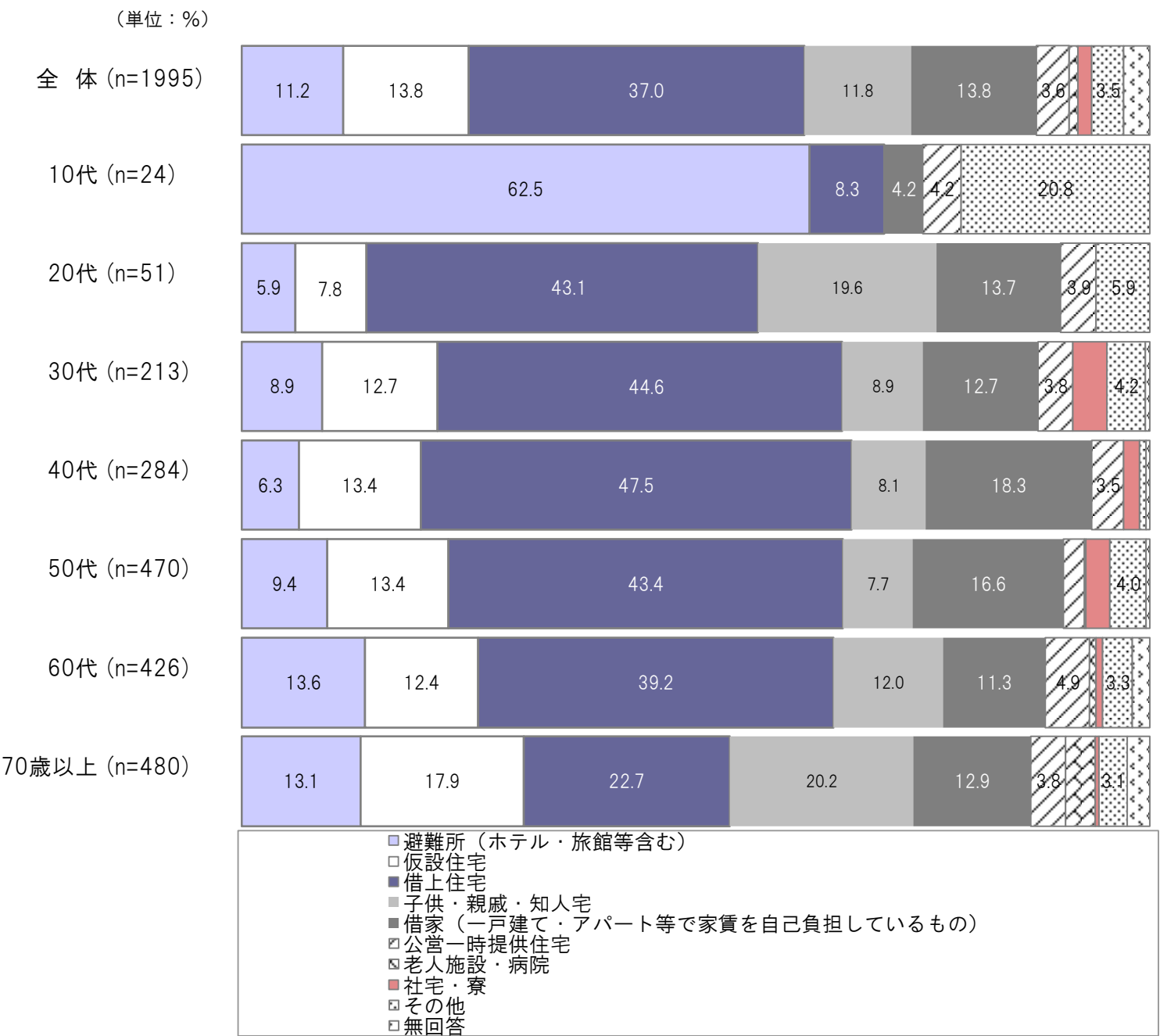
- ・すでに仮設住宅、借上住宅へ入居した世帯が半数を占める。一方で、避難所、子供・親戚・知人宅(縁故避難)が各1割以上あり、これらの世帯の今後の動向に気を配ることが必要と思われる。
- ・特に縁故避難については、20代世帯、70歳以上の世帯の中で占める割合が高い。
- ・自己負担で借家住まいをしている世帯も1割以上いる。特に40代、50代に多い。

【注】選択肢のうち「公営一時提供住宅」「老人施設・病院」「社宅・寮」については、もともと調査票の選択肢になかったが、「その他」の自由記述で比較的多かったため、これらを抽出したものである。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	避難所 （ホテル・旅館等含む）	仮設住宅	借上住宅	子供・親戚・知人宅	借家（一戸建て・アパート等） 家賃を自己負担しているもの等	公営一時提供住宅	老人施設・病院	社宅・寮	その他	無回答
全 体	1995 100.0	223 11.2	275 13.8	738 37.0	236 11.8	276 13.8	71 3.6	20 1.0	30 1.5	69 3.5	57 2.9
10代	24 100.0	15 62.5	- -	2 8.3	- -	1 4.2	1 4.2	- -	- -	5 20.8	- -
20代	51 100.0	3 5.9	4 7.8	22 43.1	10 19.6	7 13.7	2 3.9	- -	- -	3 5.9	- -
30代	213 100.0	19 8.9	27 12.7	95 44.6	19 8.9	27 12.7	8 3.8	- -	8 3.8	9 4.2	1 0.5
40代	284 100.0	18 6.3	38 13.4	135 47.5	23 8.1	52 18.3	10 3.5	- -	5 1.8	2 0.7	1 0.4
50代	470 100.0	44 9.4	63 13.4	204 43.4	36 7.7	78 16.6	11 2.3	1 0.2	12 2.6	19 4.0	2 0.4
60代	426 100.0	58 13.6	53 12.4	167 39.2	51 12.0	48 11.3	21 4.9	3 0.7	3 0.7	14 3.3	8 1.9
70歳以上	480 100.0	63 13.1	86 17.9	109 22.7	97 20.2	62 12.9	18 3.8	16 3.3	2 0.4	15 3.1	12 2.5

◆ 「その他」における自由記述

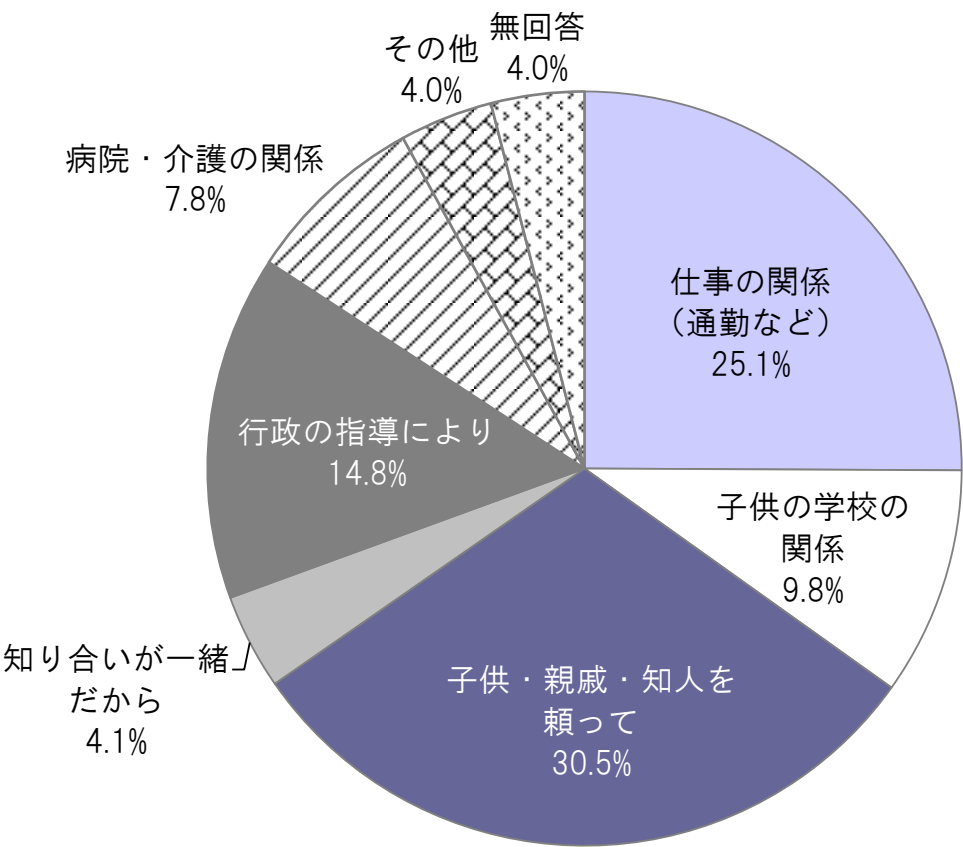
・住宅を購入(3件) ・持ち家 ・物置 ・単身赴任なので自宅 ・キャンプ場 ・集会所 ・会社倉庫 ・プレハブ事務所
--

(5)避難先を選んだ理由

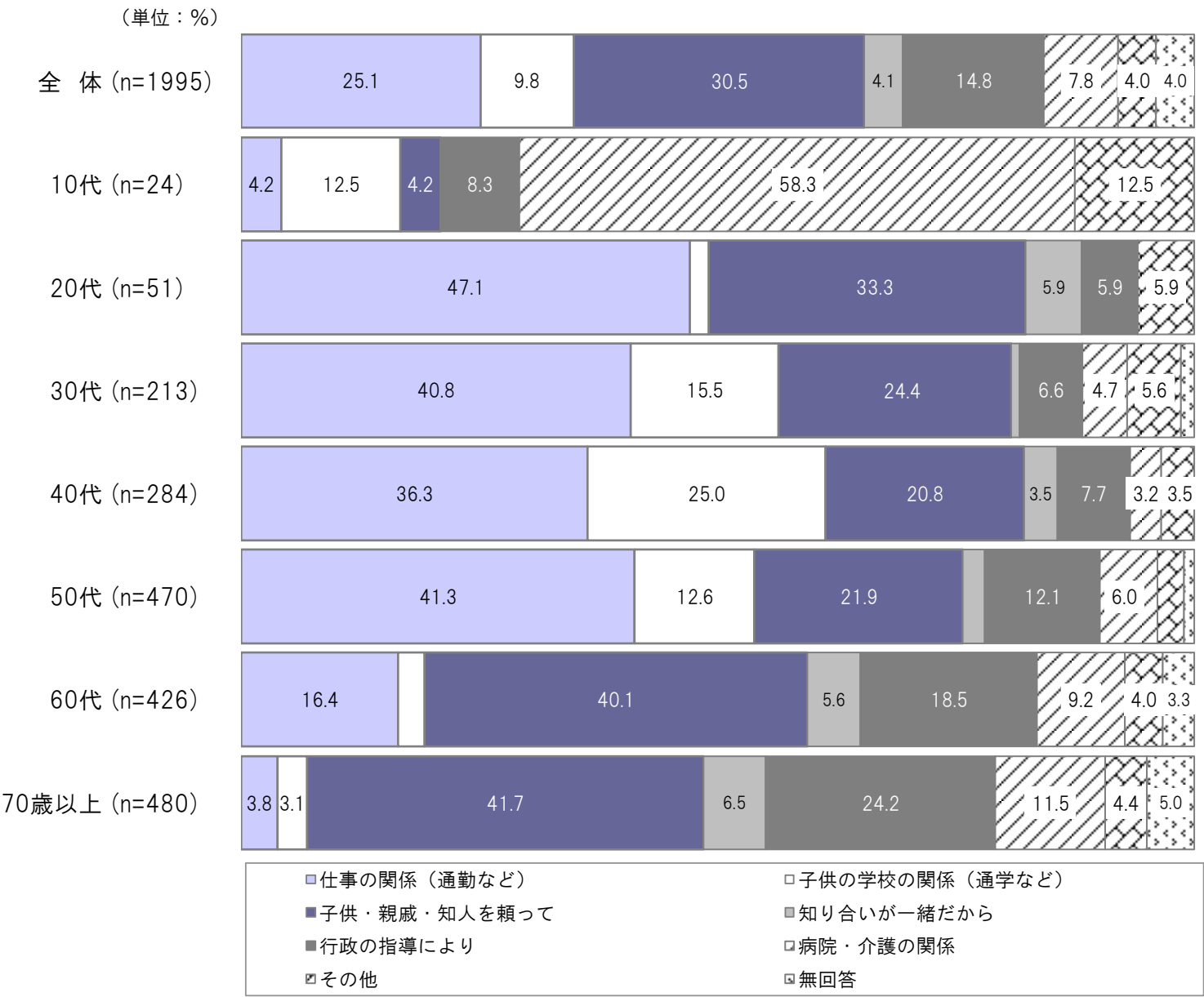
■ 結果の概要

- ・ 避難先は、「子供・親戚・知人を頼って」を選ぶ割合が最も多く(30%)、次いで「仕事の関係(通勤など)」が1/4となった。
- ・ 年齢別に見ると、50代以下の若い世帯は、「仕事の関係」「子供の学校の関係」という回答の割合が高い。一方で、60代、70歳以上は、「子供・親戚・知人を頼って」「行政の指導」が比較的多くなっている。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	仕 事 の 関 係 （ 通 勤 な ど ）	子 供 の 学 校 の 関 係 （ 通 学 な ど ）	子 供 ・ 親 戚 ・ 知 人 を 頼 っ て	知 り 合 い が 一 緒 だ か ら	行 政 の 指 導 に よ り	病 院 ・ 介 護 の 関 係	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	501 25.1	195 9.8	608 30.5	81 4.1	296 14.8	156 7.8	79 4.0	79 4.0
10代	24 100.0	1 4.2	3 12.5	1 4.2	- -	2 8.3	14 58.3	3 12.5	- -
20代	51 100.0	24 47.1	1 2.0	17 33.3	3 5.9	3 5.9	- -	3 5.9	- -
30代	213 100.0	87 40.8	33 15.5	52 24.4	2 0.9	14 6.6	10 4.7	12 5.6	3 1.4
40代	284 100.0	103 36.3	71 25.0	59 20.8	10 3.5	22 7.7	9 3.2	10 3.5	- -
50代	470 100.0	194 41.3	59 12.6	103 21.9	11 2.3	57 12.1	28 6.0	13 2.8	5 1.1
60代	426 100.0	70 16.4	12 2.8	171 40.1	24 5.6	79 18.5	39 9.2	17 4.0	14 3.3
70歳以上	480 100.0	18 3.8	15 3.1	200 41.7	31 6.5	116 24.2	55 11.5	21 4.4	24 5.0

◆ 「その他」における自由記述

・故郷に近いから(16件) ・家族・子供と一緒に住みたかったから(6件) ・子供の仕事の都合(4件) ・JFAアカデミーの趣旨に従って(3件) ・自治体の入居募集を見つけたから(3件) ・ペットと一緒にだから(3件) ・放射能が低く比較的安全だから(3件) ・住むところがないから(3件) ・放射線値が低く、地震に強いから(3件) ・ここしか見つからなかったから(3件) ・交通の便がよいから(2件) ・環境が良かった(2件) ・会社が見つけたから(2件) ・原発が爆発したため ・放射能で帰れないから ・県外にいたが家賃が大変だったため ・家族が多い ・土地勘があるから ・孫の就学 ・自分で不動産屋を見つけて決めた ・暮らしの便利さ ・地元に戻りたい ・友人に探してもらった ・孫の学校 ・県内に借家がなかった ・1戸建てで、檜葉町民が多いから ・娘に説得されたため ・業務が多忙で住宅が探せなかった ・たまたま ・大阪に住んでいたことがあるから ・とにかく県外へ ・マンションに住んでいたが狭いので ・6ヶ月無料だから ・自立、仮設、アパートに入れないと聞いたから ・広野町の工場は風評被害で工場閉鎖のため避難先の工場へ移動から ・持アパート ・いわきに借りられなかった ・仮設住宅が出来るのが遅かったので借上げ住宅を借りたら部屋数がないので5人は住めないで私82歳で一人になりました。好きで1人になったんではないです。 ・一人では住めないため ・娘の避難先の近くだから

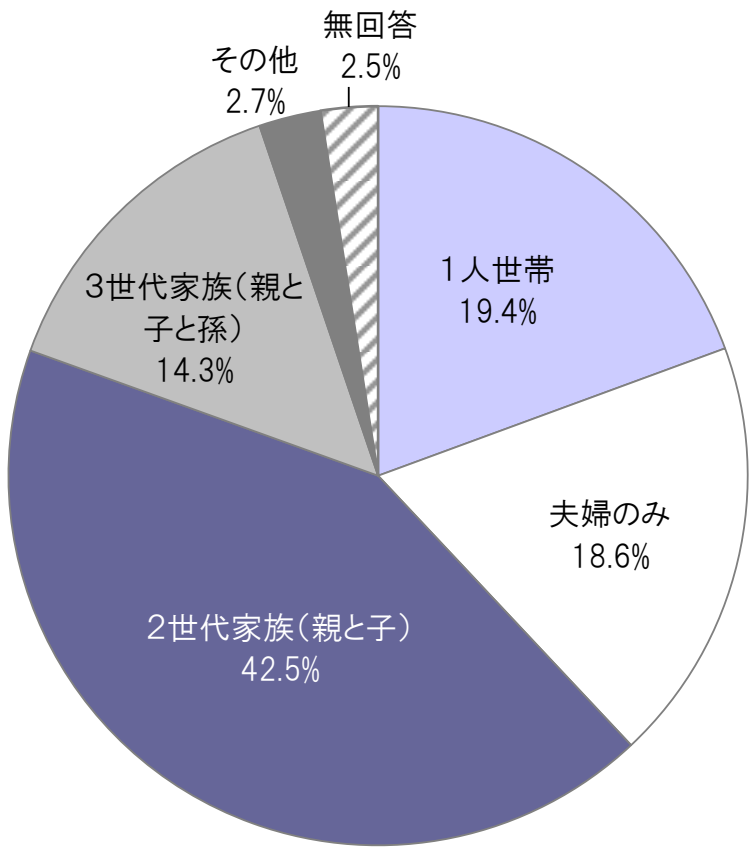
(6) 家族構成(避難前・避難後)

■ 結果の概要

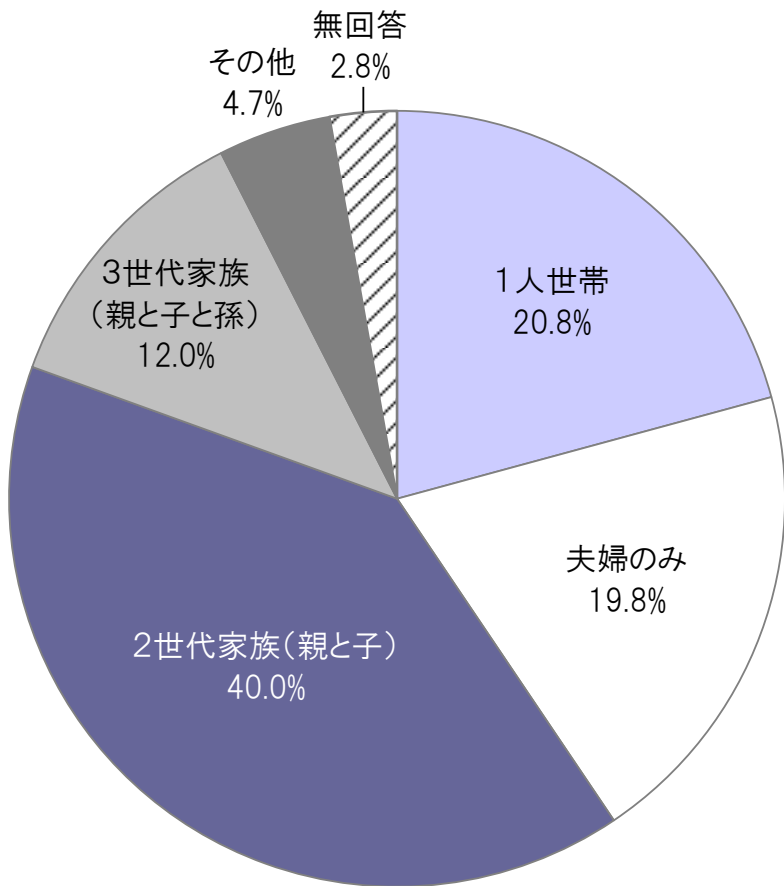
- ・ 避難前・避難後とも、「2世代家族」が約40%と最も多く、次いで「1人世帯」「夫婦のみ」がいずれも約20%である。
- ・ 避難前と避難後を比較すると、若干ではあるが、1人世帯、夫婦のみ世帯が増え、2世代世帯、3世代世帯が減少している(計約5%程度の減少)。また、「その他」の自由記述でも、「ばらばらになった」という回答が複数見受けられる。このため、避難により世帯分離が進んだことがうかがえる。

◆ 単純集計結果

【避難前】

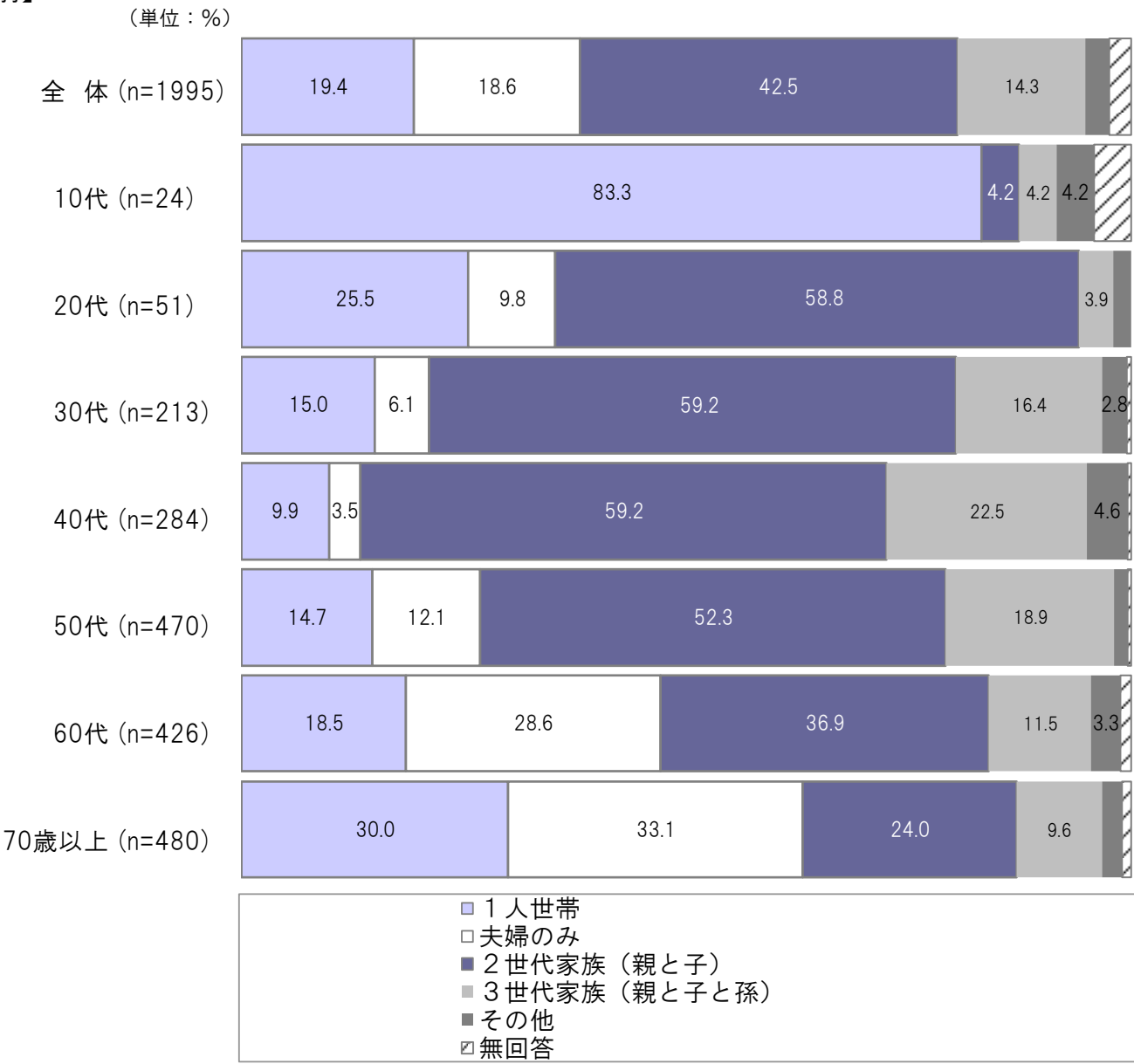


【避難後】

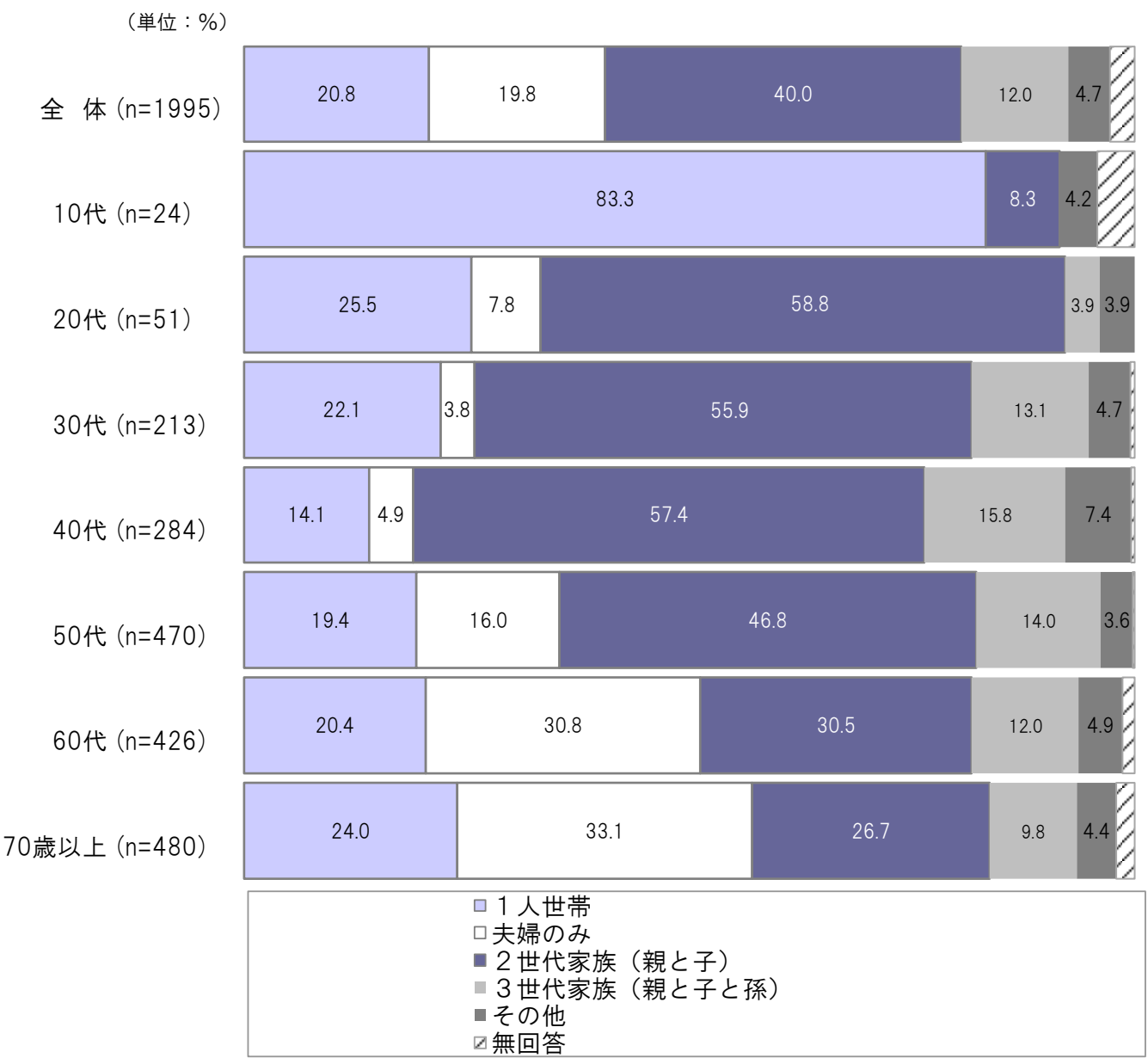


◆ 回答世代別集計結果

【避難前】



【避難後】



◆ 集計表

【避難前】

	全 体	1 人 世 帯	夫 婦 の み	子 2 （ ） 世 代 家 族 （ 親 と	と 3 （ ） 孫 世 代 家 族 （ 親 と 子	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	387 19.4	372 18.6	847 42.5	286 14.3	53 2.7	50 2.5
10代	24 100.0	20 83.3	- -	1 4.2	1 4.2	1 4.2	1 4.2
20代	51 100.0	13 25.5	5 9.8	30 58.8	2 3.9	1 2.0	- -
30代	213 100.0	32 15.0	13 6.1	126 59.2	35 16.4	6 2.8	1 0.5
40代	284 100.0	28 9.9	10 3.5	168 59.2	64 22.5	13 4.6	1 0.4
50代	470 100.0	69 14.7	57 12.1	246 52.3	89 18.9	7 1.5	2 0.4
60代	426 100.0	79 18.5	122 28.6	157 36.9	49 11.5	14 3.3	5 1.2
70歳以上	480 100.0	144 30.0	159 33.1	115 24.0	46 9.6	11 2.3	5 1.0

【避難後】

	全 体	1 人 世 帯	夫 婦 の み	子 2 （ ） 世 代 家 族 （ 親 と	と 3 （ ） 孫 世 代 家 族 （ 親 と 子	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	414 20.8	396 19.8	798 40.0	239 12.0	93 4.7	55 2.8
10代	24 100.0	20 83.3	- -	2 8.3	- -	1 4.2	1 4.2
20代	51 100.0	13 25.5	4 7.8	30 58.8	2 3.9	2 3.9	- -
30代	213 100.0	47 22.1	8 3.8	119 55.9	28 13.1	10 4.7	1 0.5
40代	284 100.0	40 14.1	14 4.9	163 57.4	45 15.8	21 7.4	1 0.4
50代	470 100.0	91 19.4	75 16.0	220 46.8	66 14.0	17 3.6	1 0.2
60代	426 100.0	87 20.4	131 30.8	130 30.5	51 12.0	21 4.9	6 1.4
70歳以上	480 100.0	115 24.0	159 33.1	128 26.7	47 9.8	21 4.4	10 2.1

クロス集計（家族構成【避難後】×家族構成【避難前】）

		家族構成【避難後】						
		全 体	1 人 世 帯	夫 婦 の み	子 2 （ ） 世 代 家 族 （ 親 と	と 3 （ ） 孫 世 代 家 族 （ 親 と 子	そ の 他	無 回 答
家 族 構 成 【 避 難 前 】	全 体	1995 100.0	414 20.8	396 19.8	798 40.0	239 12.0	93 4.7	55 2.8
	1人世帯	387 100.0	295 76.2	11 2.8	43 11.1	19 4.9	14 3.6	5 1.3
	夫婦のみ	372 100.0	20 5.4	277 74.5	50 13.4	20 5.4	3 0.8	2 0.5
	2世代家族 （祖レエ）	847 100.0	77 9.1	70 8.3	621 73.3	46 5.4	32 3.8	1 0.1
	3世代家族 （祖レエレ姪）	286 100.0	20 7.0	32 11.2	73 25.5	152 53.1	9 3.1	- -
	その他	53 100.0	2 3.8	5 9.4	9 17.0	2 3.8	34 64.2	1 1.9

◆ 「その他」における自由記述

避難前	避難後
・親戚世帯と同居(8件) ・4世代家族(4件) ・2世代家族と親戚(3件) ・同居人(3件) ・3世代家族と親戚 ・孫と一緒に ・3人 ・別世帯に親あと別世帯に子供 ・4人家族 ・リ-園	・親戚世帯と同居(12件) ・4世代家族(5件) ・家族バラバラ(5件) ・2世代家族と親戚(4件) ・同居人(2件) ・3人家族(2件) ・夫婦と孫(2件) ・4人家族 ・夫婦と親戚 ・2世代家族と友人 ・知人たちと3人 ・夫のみ福島に残る ・子供と離れて避難

2. 2 調査結果

2. 2. 1 避難先での生活

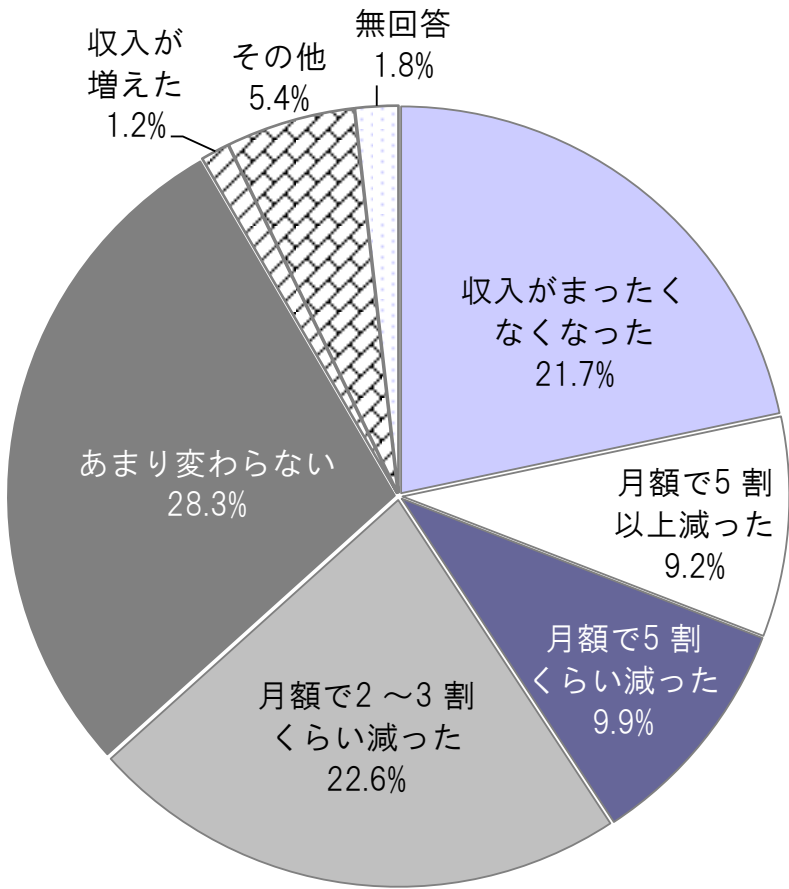
【設問】

問1 避難前と比べ今の収入（世帯の合計）はどうになりましたか。（1つに○印）

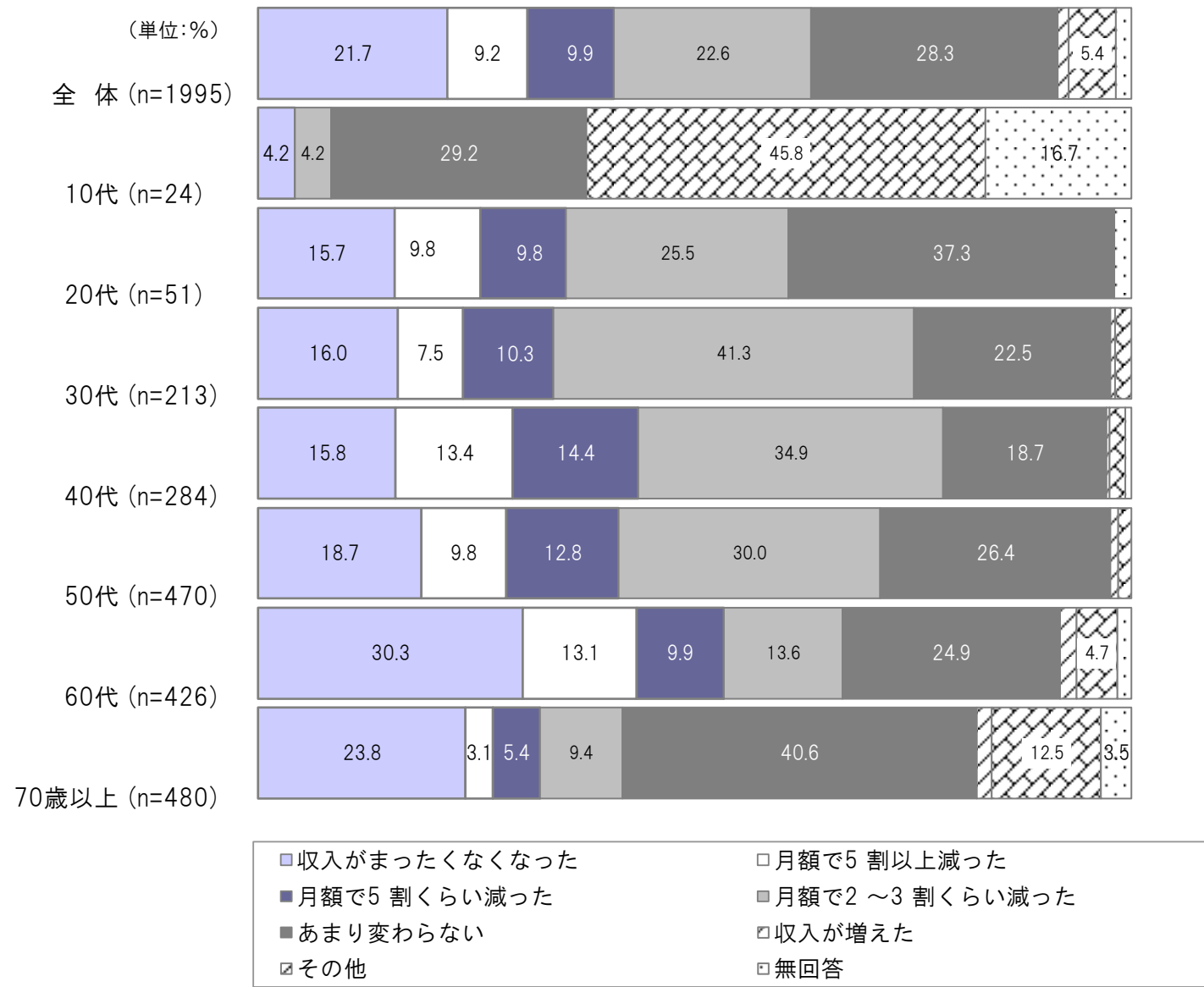
■ 結果の概要

- ・「まったくなくなった」が2割以上、「5割以上減った」「5割くらい減った」が各1割程度となっており、避難前の収入と較べて少なくとも5割程度減った世帯は4割を占める。さらに、「2～3割減った」世帯も2割以上ある。「あまり変わらない」世帯は3割程度であり、世帯収入に与えた影響は極めて大きい。
- ・ただし、「その他」の自由記述には「年金生活」との回答がかなり多く(41件)、これらの世帯については、収入があまり変わらなかった可能性がある。
- ・年齢別に見ると、20代～60代において収入が2～3割以上減った世帯が6割以上を占めており、勤労世帯の世帯収入への影響が大きいことがうかがえる。
- ・避難前の職業別で見ると、自営業（商工業・サービス業）で約5割、自営業（農業）で44%が、「収入がまったくなくなった」と回答していることが目立つ。また、会社役員・会社員、公務員・団体職員・教員でも、「2～3割くらい減った」という回答がそれぞれ35%以上となっている。
- ・避難後の職業が、「被災前と同じ」とする人であっても、「2～3割くらい減った」「5割くらい減った」「5割以上減った」「まったくなくなった」の合計が半数を超える。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	な 収 入 が ま つ た く な く	た 月 額 で 5 割 以 上 減 つ	減 月 額 で 5 割 く ら い	ら 月 額 で 2 割 以 上 減 つ	あ ま り 変 わ ら な い	収 入 が 増 え た	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	433 21.7	184 9.2	198 9.9	450 22.6	564 28.3	23 1.2	108 5.4	35 1.8
10代	24 100.0	1 4.2	- -	- -	1 4.2	7 29.2	- -	11 45.8	4 16.7
20代	51 100.0	8 15.7	5 9.8	5 9.8	13 25.5	19 37.3	- -	- -	1 2.0
30代	213 100.0	34 16.0	16 7.5	22 10.3	88 41.3	48 22.5	1 0.5	4 1.9	- -
40代	284 100.0	45 15.8	38 13.4	41 14.4	99 34.9	53 18.7	1 0.4	5 1.8	2 0.7
50代	470 100.0	88 18.7	46 9.8	60 12.8	141 30.0	124 26.4	4 0.9	7 1.5	- -
60代	426 100.0	129 30.3	56 13.1	42 9.9	58 13.6	106 24.9	8 1.9	20 4.7	7 1.6
70歳以上	480 100.0	114 23.8	15 3.1	26 5.4	45 9.4	195 40.6	8 1.7	60 12.5	17 3.5

クロス集計(【避難前と今の収入の増減】×【職業(避難前)】)

	全 体	な 収 入 が ま つ た く な く	ら 月 額 で 2 割 以 上 減 つ	減 月 額 で 5 割 く ら い	た 月 額 で 5 割 以 上 減 つ	あ ま り 変 わ ら な い	収 入 が 増 え た	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	433 21.7	450 22.6	198 9.9	184 9.2	564 28.3	23 1.2	108 5.4	35 1.8
自営業(農業)	149 100.0	66 44.3	22 14.8	10 6.7	12 8.1	26 17.4	- -	9 6.0	4 2.7
自営業(商工業・サービス業)	197 100.0	96 48.7	31 15.7	16 8.1	37 18.8	12 6.1	2 1.0	3 1.5	- -
会社役員・会社員	760 100.0	97 12.8	272 35.8	123 16.2	96 12.6	156 20.5	2 0.3	11 1.4	3 0.4
公務員・団体職員・教員	126 100.0	4 3.2	45 35.7	5 4.0	8 6.3	57 45.2	4 3.2	3 2.4	- -
パート・アルバイト	127 100.0	64 50.4	25 19.7	13 10.2	8 6.3	14 11.0	1 0.8	2 1.6	- -
家事専業	47 100.0	7 14.9	11 23.4	2 4.3	4 8.5	18 38.3	1 2.1	3 6.4	1 2.1
学生	22 100.0	- -	- -	- -	- -	7 31.8	- -	11 50.0	4 18.2
無職	477 100.0	68 14.3	36 7.5	23 4.8	8 1.7	253 53.0	12 2.5	61 12.8	16 3.4
その他	45 100.0	14 31.1	4 8.9	4 8.9	4 8.9	14 31.1	- -	5 11.1	- -

クロス集計(【避難前と今の収入の増減】×【職業(避難後)】)

	全 体	な 収 入 が ま つ た く な く	ら 月 額 で 2 割 以 上 減 つ	減 月 額 で 5 割 く ら い	た 月 額 で 5 割 以 上 減 つ	あ ま り 変 わ ら な い	収 入 が 増 え た	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	433 21.7	450 22.6	198 9.9	184 9.2	564 28.3	23 1.2	108 5.4	35 1.8
被災前と同じ	1110 100.0	64 5.8	332 29.9	97 8.7	65 5.9	452 40.7	19 1.7	63 5.7	18 1.6
休職中	223 100.0	100 44.8	26 11.7	42 18.8	42 18.8	6 2.7	1 0.4	5 2.2	1 0.4
失業中でアルバイト	51 100.0	8 15.7	13 25.5	11 21.6	16 31.4	2 3.9	- -	1 2.0	- -
失業中で無職	367 100.0	214 58.3	47 12.8	26 7.1	40 10.9	25 6.8	- -	13 3.5	2 0.5
転職	36 100.0	1 2.8	14 38.9	6 16.7	7 19.4	8 22.2	- -	- -	- -
その他	65 100.0	13 20.0	9 13.8	6 9.2	5 7.7	17 26.2	1 1.5	12 18.5	2 3.1

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 ・学生のため(3件)
【20代の回答者】 (なし)
【30代の回答者】 ・訓練・生活支援給付を受ける ・一割減 ・賞与がなくなった
【40代の回答者】 ・わからない
【50代の回答者】 ・1割減った ・母親がグループホームにはいっており、多額の出費
【60代の回答者】 ・年金生活(8件) ・生活保護のため保護費がなくなった ・困った人にあげたい
【70代以上の回答者】 ・年金生活(33件) ・施設 ・少し減った ・自家栽培の分買うので大変 ・生活が変わったため出費が増えた

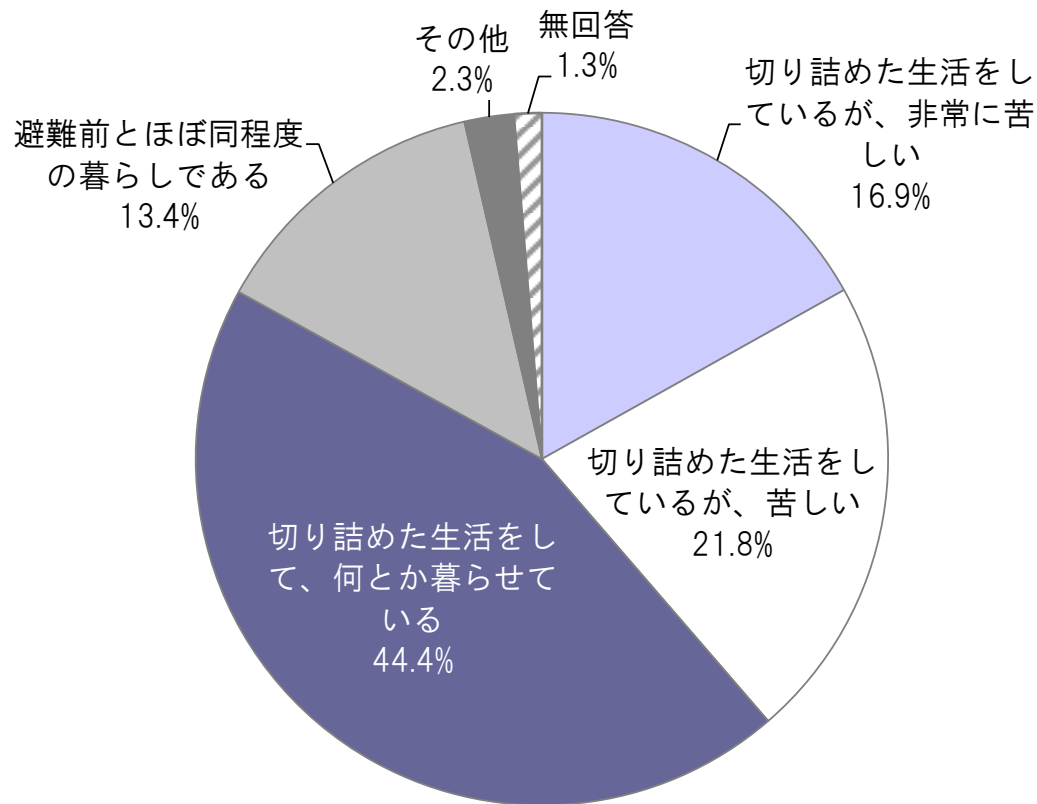
【設問】

問2 現在の収入で、あなたの世帯の暮らしむきはどのような状態ですか。(1つに○印)

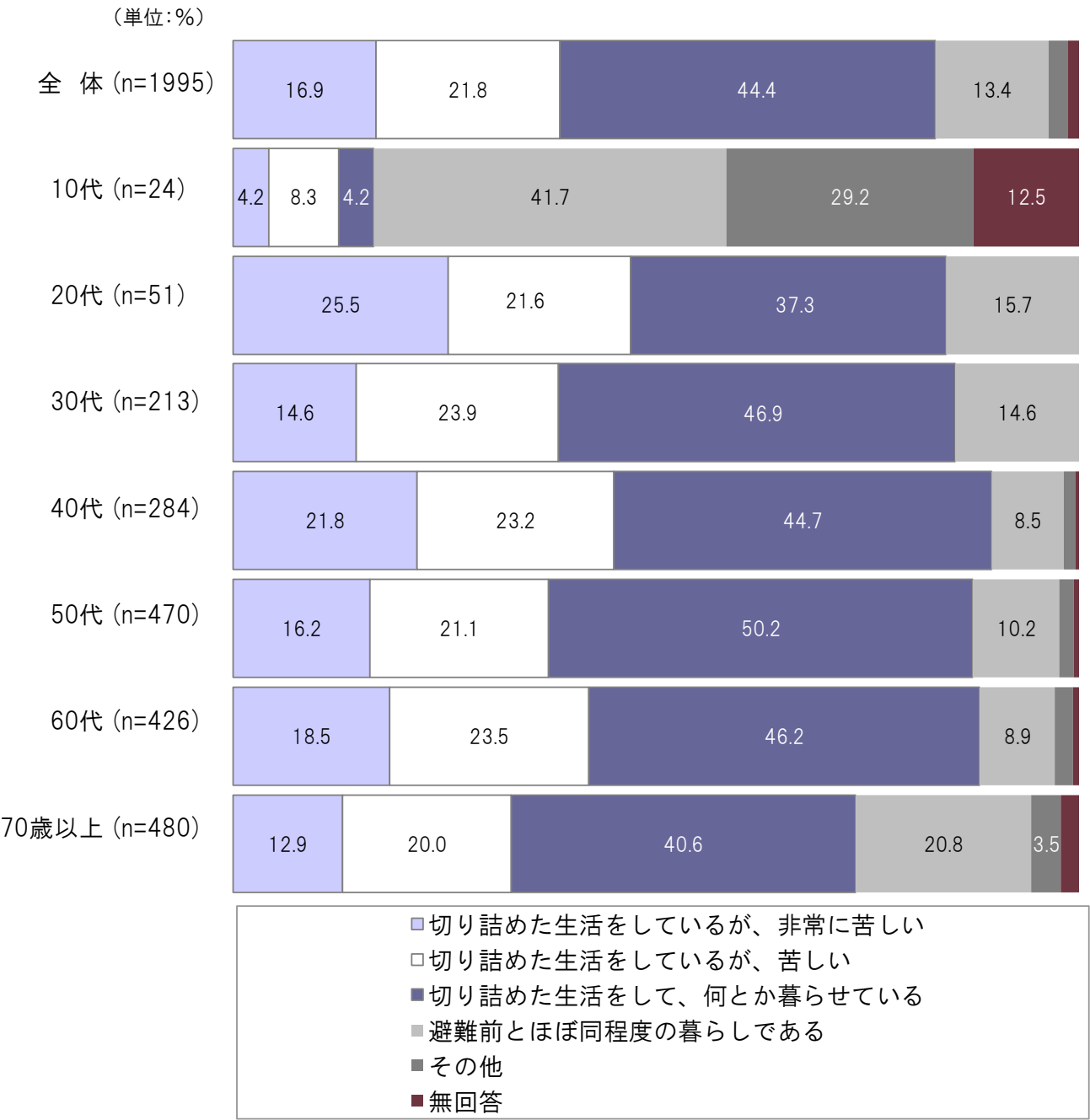
■ 結果の概要

- ・ 切り詰めた生活をして「非常に苦しい」「苦しい」との回答が合わせて4割近くを占めている。
- ・ 特に、問1で「収入がまったくなくなった」と回答した世帯については、「非常に苦しい」(43%)、「苦しい」(27%)の合計が約7割を占めるなど、収入減少の割合と苦しさの度合いが一致する傾向にある。
- ・ 現在の住まい(避難先)別で比較すると、「非常に苦しい」「苦しい」という回答の合計は、「避難所」で約半数近くを占めている。また、「子供・親戚・知人宅」がやや少ないものの、「仮設住宅」「借上住宅」「借家」「公営一時提供住宅」では大きな違いはない。このことから、避難所はもちろん、借上住宅や公営一時提供住宅、自己負担による借家に入居する世帯についても、仮設住宅に入居している世帯と同等の支援が必要である可能性が考えられる。
- ・ 避難後の職業別で比較すると、「休職中」「失業中でアルバイト」「失業中で無職」の世帯において「非常に苦しい」「苦しい」との回答が半数を超えているが、一方で「被災前と同じ」と回答した世帯でも、同様の回答が計3割近くを占めている。
- ・ 家族構成別に見ると、2世代家族(親と子)、3世代家族(親と子と孫)において、「非常に苦しい」「苦しい」という回答がいずれも計4割前後あり、「夫婦のみ」の場合(計34%)と比べてやや多い。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	い ち り が 詰 め た 非 常 に 苦 し い	い ち り が 詰 め た 苦 し い	る て 、 何 と か 暮 ら せ て い	暮 避 難 前 と あ ほ ぼ 同 程 度 の	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	338 16.9	434 21.8	886 44.4	267 13.4	45 2.3	25 1.3
10代	24 100.0	1 4.2	2 8.3	1 4.2	10 41.7	7 29.2	3 12.5
20代	51 100.0	13 25.5	11 21.6	19 37.3	8 15.7	- -	- -
30代	213 100.0	31 14.6	51 23.9	100 46.9	31 14.6	- -	- -
40代	284 100.0	62 21.8	66 23.2	127 44.7	24 8.5	4 1.4	1 0.4
50代	470 100.0	76 16.2	99 21.1	236 50.2	48 10.2	8 1.7	3 0.6
60代	426 100.0	79 18.5	100 23.5	197 46.2	38 8.9	9 2.1	3 0.7
70歳以上	480 100.0	62 12.9	96 20.0	195 40.6	100 20.8	17 3.5	10 2.1

クロス集計（【現在の収入における暮らし向き】×【避難前と今の収入の増減】）

	全 体	い 切 る が 詰 、 め た 非 常 に 生 活 を し て い る	い 切 る が 詰 、 め た 苦 し い 生 活 を し て い る	る て 切 、 り 詰 と め か た 暮 ら し て い る	暮 避 難 前 と あ る ほ 同 程 度 の	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	338 16.9	434 21.8	886 44.4	267 13.4	45 2.3	25 1.3
収入がまったくなくなった	433 100.0	185 42.7	116 26.8	117 27.0	6 1.4	6 1.4	3 0.7
月額で2 ～3 割くらい減った	450 100.0	32 7.1	104 23.1	272 60.4	36 8.0	5 1.1	1 0.2
月額で5 割くらい減った	198 100.0	31 15.7	64 32.3	92 46.5	8 4.0	1 0.5	2 1.0
月額で5 割以上減った	184 100.0	55 29.9	58 31.5	68 37.0	1 0.5	2 1.1	－ －
あまり変わらない	564 100.0	23 4.1	68 12.1	278 49.3	183 32.4	9 1.6	3 0.5
収入が増えた	23 100.0	2 8.7	－ －	7 30.4	11 47.8	3 13.0	－ －
その他	108 100.0	6 5.6	21 19.4	41 38.0	18 16.7	19 17.6	3 2.8

クロス集計（【現在の収入における暮らし向き】×【住居種別】）

	全 体	い 切 る が 詰 、 め た 非 常 に 生 活 を し て い る	い 切 る が 詰 、 め た 苦 し い 生 活 を し て い る	る て 切 、 り 詰 と め か た 暮 ら し て い る	暮 避 難 前 と あ る ほ 同 程 度 の	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	338 16.9	434 21.8	886 44.4	267 13.4	45 2.3	25 1.3
避難所(ホテル・旅館等含む)	223 100.0	54 24.2	55 24.7	64 28.7	30 13.5	12 5.4	8 3.6
仮設住宅	275 100.0	45 16.4	64 23.3	126 45.8	34 12.4	4 1.5	2 0.7
借上住宅	738 100.0	112 15.2	160 21.7	371 50.3	85 11.5	7 0.9	3 0.4
子供・親戚・知人宅	236 100.0	41 17.4	39 16.5	95 40.3	53 22.5	5 2.1	3 1.3
借家(一戸建て・アパート等で家賃を自己負担しているもの)	276 100.0	39 14.1	66 23.9	139 50.4	30 10.9	2 0.7	－ －
公営一時提供住宅	71 100.0	15 21.1	15 21.1	37 52.1	3 4.2	1 1.4	－ －
老人施設・病院	20 100.0	2 10.0	4 20.0	2 10.0	6 30.0	5 25.0	1 5.0
社宅・寮	30 100.0	－ －	11 36.7	13 43.3	6 20.0	－ －	－ －
その他	69 100.0	15 21.7	10 14.5	22 31.9	14 20.3	8 11.6	－ －

クロス集計（【現在の収入における暮らし向き】×【職業(避難後)】）

	全 体	が 切 、 り 非 常 に め た 生 活 を し て い る	が 切 、 り 苦 し め た 生 活 を し て い る	と 切 か り 暮 ら め た せ た 生 活 を し て 、 何	し 避 で 難 あ る と ほ 同 程 度 の 暮 ら	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	338 16.9	434 21.8	886 44.4	267 13.4	45 2.3	25 1.3
被災前と同じ	1110 100.0	108 9.7	205 18.5	558 50.3	203 18.3	27 2.4	9 0.8
休職中	223 100.0	57 25.6	66 29.6	86 38.6	8 3.6	4 1.8	2 0.9
失業中でアルバイト	51 100.0	17 33.3	12 23.5	21 41.2	1 2.0	－ －	－ －
失業中で無職	367 100.0	118 32.2	97 26.4	129 35.1	11 3.0	9 2.5	3 0.8
転職	36 100.0	7 19.4	7 19.4	19 52.8	3 8.3	－ －	－ －
その他	65 100.0	9 13.8	16 24.6	26 40.0	10 15.4	2 3.1	2 3.1

クロス集計(【現在の収入における暮らし向き】×【家族構成(避難後)】)

	全 体	が切 り、 非 常 に 苦 し い	が切 り、 苦 し い	と切 り 暮 ら せ て い る	し、 避 難 前 と 同 程 度 の 暮 ら し	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	338 16.9	434 21.8	886 44.4	267 13.4	45 2.3	25 1.3
1人世帯	414 100.0	73 17.6	80 19.3	158 38.2	76 18.4	23 5.6	4 1.0
夫婦のみ	396 100.0	55 13.9	81 20.5	199 50.3	55 13.9	2 0.5	4 1.0
2世代家族	798 100.0	133 16.7	180 22.6	376 47.1	90 11.3	13 1.6	6 0.8
3世代家族	239 100.0	43 18.0	60 25.1	101 42.3	31 13.0	1 0.4	3 1.3
その他	93 100.0	20 21.5	21 22.6	39 41.9	7 7.5	6 6.5	- -

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】
・学生のため(3件)

【20代の回答者】
(なし)

【30代の回答者】
(なし)

【40代の回答者】
・現在は生活費をもらっているのて苦しくはないが今後一人暮らしの予定
・今後も借上げ住居であれば暮らせる
・二重生活になり苦しい

【50代の回答者】
・今は義援金等で大丈夫だが先が不安
・ホテル避難なので今は良い
・食費が無料
・勤務上家族と離れて生活し、交通等の負担が増えた

【60代の回答者】
・仮設にはいってみたいとわからない
・お金はかかりません
・避難所で食事の出る生活をしている
・ホテル暮らし
・義援金や補償金、失業保険等で生活

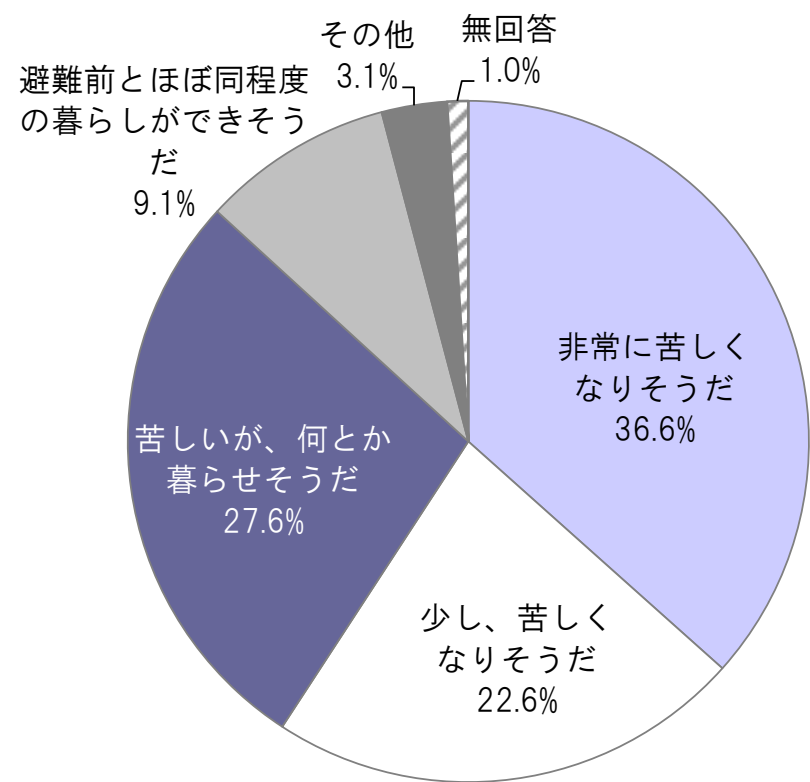
【70代以上の回答者】
・息子に生活のすべてを任せ、安心している
・義援金も頂いて暮せている
・住環境が変わったので不自由している
・施設
・娘の世話になっている
・親類宅の世話になっている
・子供と一緒にの為、楽になっている
・東電の借払い金充当
・世話になっているので分からない
・避難生活
・入院中
・年金と貯蓄を入院費に充当している
・年金生活

【設問】
問3 今後の生計の見通しはどうか。(1つに○印)

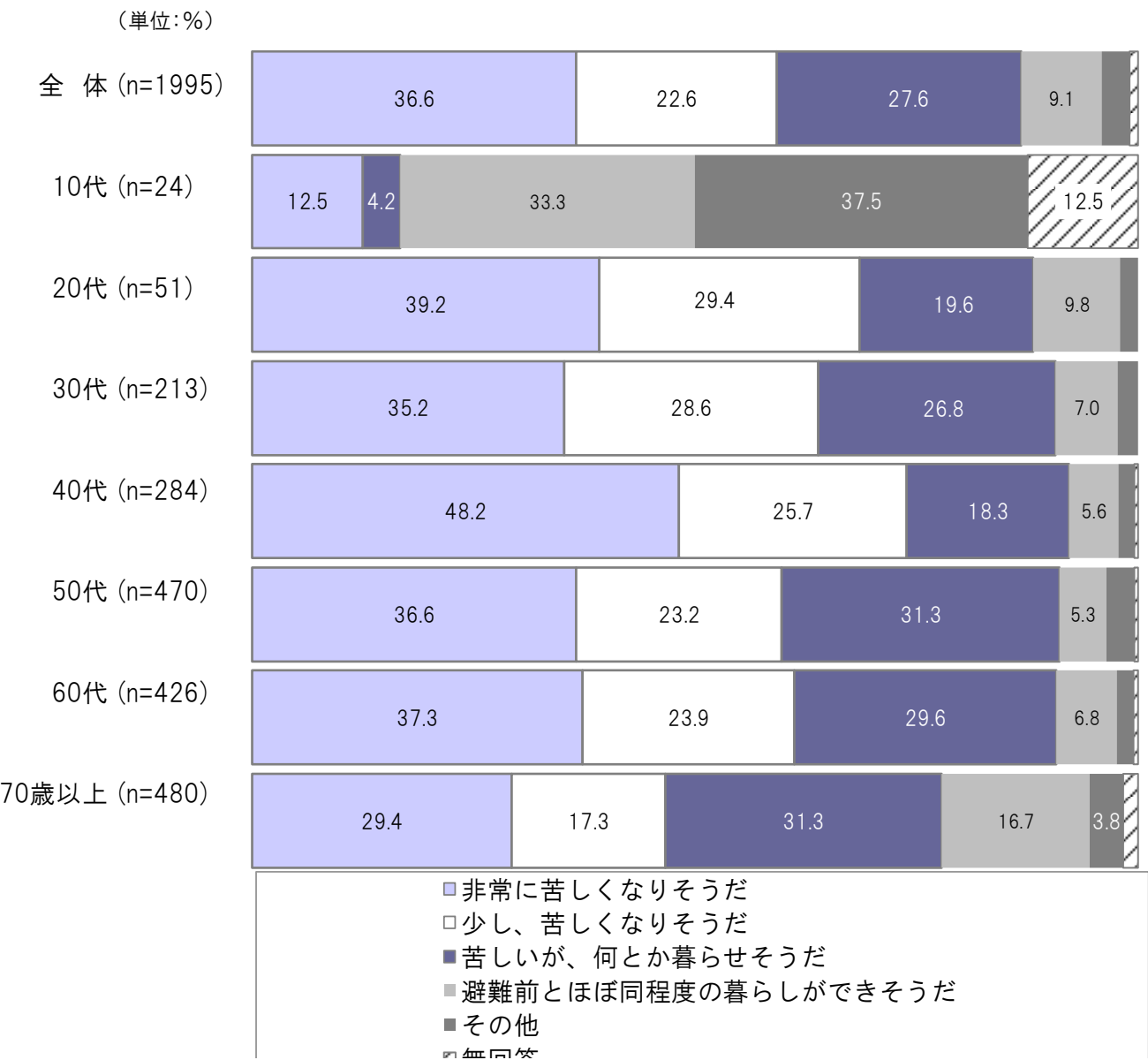
■ 結果の概要

- ・「非常に苦しくなりそう」「少し苦しくなりそう」が計6割近くを占める。
- ・「その他」の自由記述においては、「わからない」という回答のほか、ローンや借入金の返済についての不安、避難生活から仮設住宅の生活へ移る上での不安を訴える声がある。
- ・年齢別に見ると、特に40代の世帯では、「非常に苦しくなりそう」という回答が半数近くになっており、住宅ローンや子どもの学費などの負担が大きな世帯が今後に不安を抱えていることがうかがえる。
- ・避難後の職業別に見ると、「休職中」「失業中でアルバイト」「失業中で無職」の世帯においては、「非常に苦しくなりそう」という回答だけで半数を超えている。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	非 常 に 苦 し く な り そ う だ	少 し 、 苦 し く な り そ う だ	そ う し だ い が 、 何 と か 暮 ら せ	ら 避 難 前 と ほ ぼ 同 程 度 の 暮	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	730 36.6	451 22.6	550 27.6	182 9.1	62 3.1	20 1.0
10代	24 100.0	3 12.5	- -	1 4.2	8 33.3	9 37.5	3 12.5
20代	51 100.0	20 39.2	15 29.4	10 19.6	5 9.8	1 2.0	- -
30代	213 100.0	75 35.2	61 28.6	57 26.8	15 7.0	5 2.3	- -
40代	284 100.0	137 48.2	73 25.7	52 18.3	16 5.6	5 1.8	1 0.4
50代	470 100.0	172 36.6	109 23.2	147 31.3	25 5.3	15 3.2	2 0.4
60代	426 100.0	159 37.3	102 23.9	126 29.6	29 6.8	8 1.9	2 0.5
70歳以上	480 100.0	141 29.4	83 17.3	150 31.3	80 16.7	18 3.8	8 1.7

クロス集計(【今後の生計の見通し】×【職業(避難後)】)

	全 体	非 常 に 苦 し く な り そ う だ	少 し 、 苦 し く な り そ う だ	そ う し だ い が 、 何 と か 暮 ら せ	ら 避 難 前 と ほ ぼ 同 程 度 の 暮	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	730 36.6	451 22.6	550 27.6	182 9.1	62 3.1	20 1.0
被災前と同じ	1110 100.0	275 24.8	282 25.4	366 33.0	144 13.0	36 3.2	7 0.6
休職中	223 100.0	124 55.6	51 22.9	42 18.8	2 0.9	4 1.8	- -
失業中でアルバイト	51 100.0	28 54.9	9 17.6	14 27.5	- -	- -	- -
失業中で無職	367 100.0	221 60.2	67 18.3	55 15.0	9 2.5	12 3.3	3 0.8
転職	36 100.0	16 44.4	4 11.1	12 33.3	2 5.6	2 5.6	- -
その他	65 100.0	20 30.8	15 23.1	19 29.2	6 9.2	4 6.2	1 1.5

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】	
・学生のため(3件)	
【20代の回答者】	
(なし)	
【30代の回答者】	
・仕事が見つかるまでわからない	
・仕事がある限り避難前とほぼ同程度の暮らしができそう	
【40代の回答者】	
・貯金はあるが仕事が決まっていないので分らない	
・今後を考えると死にたくなる	
・二重ローン等になれば保証がないと苦しい	
・わからない	
【50代の回答者】	
・わからない(2件)	
・自宅の修理費を考慮すると苦しくなる	
・9月末で仕事がなくなる	
・ローンを払うと非常に厳しい	
・家のローンがあるので大変	
・息子に家計を任せている	
・食費が無料	
・状況次第	
・来年退職になるので収入が減少	
【60代の回答者】	
・借入金の返済のため苦しい	
・わからない	
・仮設にはいってみないとわからない	
・質素な生活を送りたい	
・銀行の返済を考えると不安	
・その後の年金生活が不安	

・避難所なので分からない
【70代以上の回答者】
・地震で家が壊れている
・今後は変わりそうだ
・仮設に入ったら苦しくなる
・転院しなければならないので分からない
・世話になっているので分からない
・避難生活
・わからない
・年金生活

【設問】

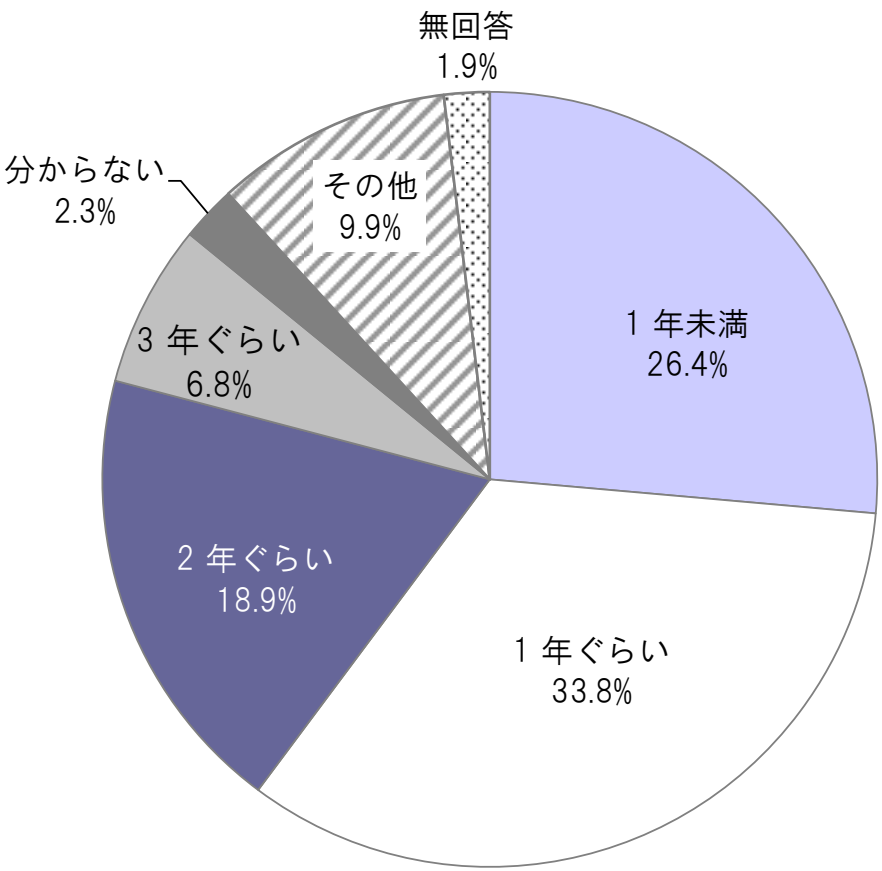
問4 経済面で考えたとき、今のような状態をどれくらい続けられると思いますか。（1つに○印）

■ 結果の概要

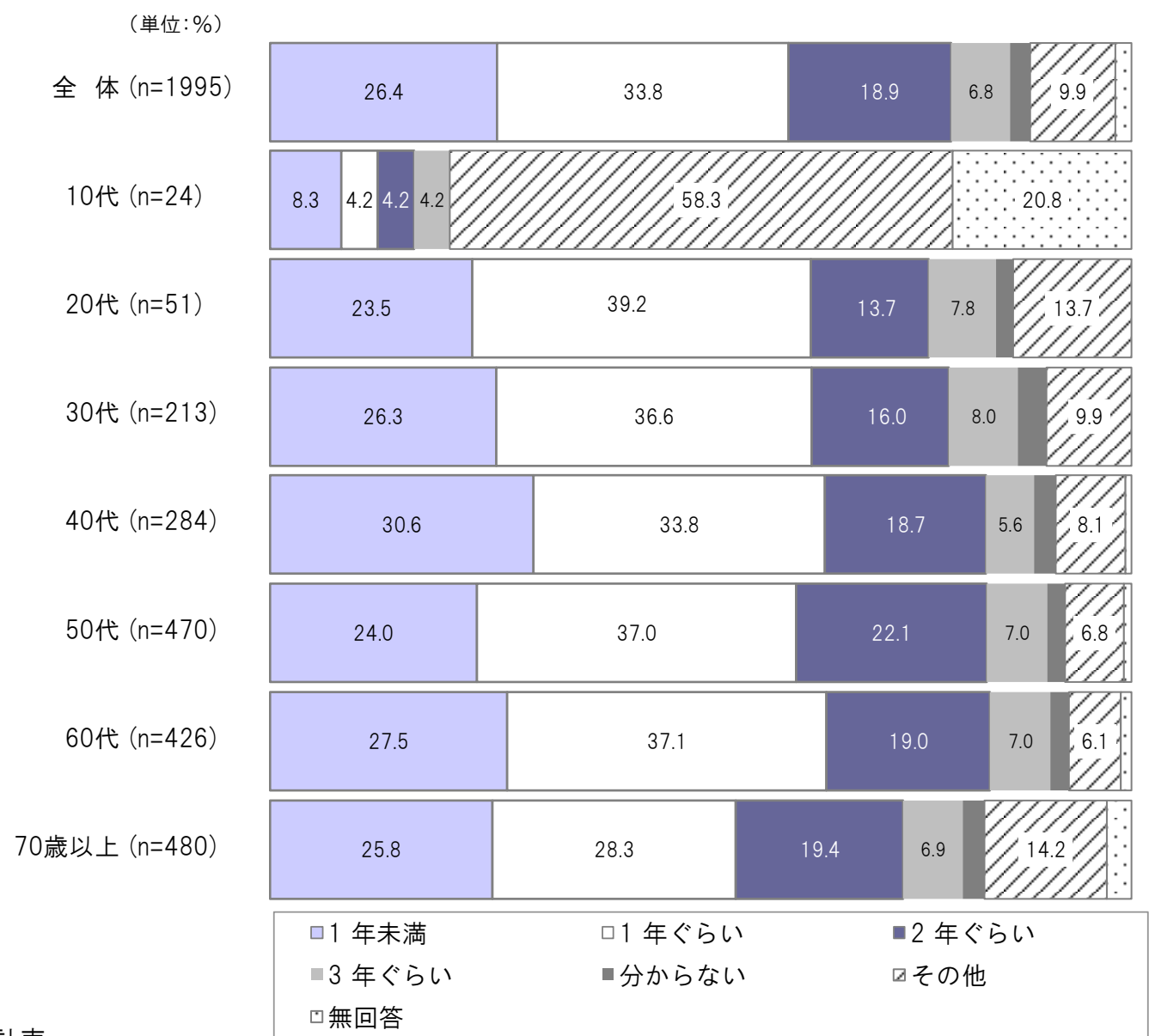
- ・「1年未満」「1年くらい」という回答が計約6割を占めており、年齢別の違いはあまり見られない。
- ・「その他」の自由記述には、「仕事・収入次第」「借上住宅の提供期間次第」あるいは「仮設住宅に入居してみないとわからない」など、見通しがはっきりしないという意見も多く寄せられた。また、今のような状態が続けられるのは「限界」「1カ月」など、切迫する状況を訴える回答もあった。

【注】選択肢のうち「分からない」については、もともと調査票の選択肢になかったが、「その他」の自由記述で比較的多かったため、これを抽出したものである。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	1 年 未 満	1 年 ぐ ら い	2 年 ぐ ら い	3 年 ぐ ら い	分 か ら な い	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	527 26.4	674 33.8	377 18.9	136 6.8	46 2.3	198 9.9	37 1.9
10代	24 100.0	2 8.3	1 4.2	1 4.2	1 4.2	-	14 58.3	5 20.8
20代	51 100.0	12 23.5	20 39.2	7 13.7	4 7.8	1 2.0	7 13.7	-
30代	213 100.0	56 26.3	78 36.6	34 16.0	17 8.0	7 3.3	21 9.9	-
40代	284 100.0	87 30.6	96 33.8	53 18.7	16 5.6	7 2.5	23 8.1	2 0.7
50代	470 100.0	113 24.0	174 37.0	104 22.1	33 7.0	10 2.1	32 6.8	4 0.9
60代	426 100.0	117 27.5	158 37.1	81 19.0	30 7.0	9 2.1	26 6.1	5 1.2
70歳以上	480 100.0	124 25.8	136 28.3	93 19.4	33 6.9	12 2.5	68 14.2	14 2.9

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】
・学生
・いつまでも
・期限があるため大丈夫だと思う
【20代の回答者】
・限界
・続けるのは不可能
・住宅ローンが残っているのでわからない
・住宅ローンが無ければ永遠に
【30代の回答者】
・東電の保証はどれ位続くのか

- ・それなりに
 - ・家賃が発生すればわからない
 - ・子供の送迎等で仕事が続けられるかどうか
 - ・問題ない
 - ・努力次第
 - ・今の状態が考えられない
 - ・借上げ住宅の期間による
 - ・何年でも
 - ・安定するまでは分からない
- 【40代の回答者】
- ・高校の無償化がなくなったらわからない
 - ・失業したわけではないので無期限に続けられる
 - ・続けなければならないでしょう
 - ・仕事次第
 - ・今の状態が継続するかもわからないのにひどい質問
 - ・仕事の先の見通しが付かないのでわからない
 - ・8月中だけ
 - ・ローンの返済条件による
 - ・借上住宅の費用を出してもらえる期間
 - ・経済面は心配ない
- 【50代の回答者】
- ・無理。植葉に帰りたい
 - ・生活の設計が狂ったので大変苦しい
 - ・限界を過ぎている、不安
 - ・5年くらい
 - ・2ヶ月
 - ・4年以上
 - ・続けられる続けられないという問題ではない
 - ・退職まで
 - ・仕事についているため、毎月決まった収入はあるので生活は出来る
 - ・その時の状況によって違うと思う、今は分からない
- 【60代の回答者】
- ・2～3カ月位
 - ・先が見えないので分らない
 - ・年金受給で問題なし
 - ・仮設にはいってみないとわからない
 - ・年金があるので死ぬまで
 - ・失業手当が終わる時期
 - ・保証金次第
 - ・5, 6年
 - ・仮設にまだ入ってないので分からない
- 【70代以上の回答者】
- ・年金受給で問題なし(7件)
 - ・5年(2件)
 - ・このような生活、何年も続くのは困ります。
 - ・早く家に帰りたい
 - ・1カ月
 - ・入所6カ月以降が不明
 - ・一日でも早く帰りたい
 - ・許可が出れば早く帰りたい
 - ・当分大丈夫
 - ・帰宅できるまでは親類宅に世話になっている
 - ・自宅に戻ってからの状況がわからないのでわからない
 - ・3ヶ月
 - ・年金生活なのでアパート代がなければ何年か
 - ・補償金次第
 - ・借上げ住宅なら数年
 - ・借上げ住宅ならなんとかなる
 - ・死亡するまで
 - ・入院中
 - ・長期入院予定
 - ・避難所生活かぎり
 - ・今後の変化が不安
 - ・問題ない
 - ・将来に不安が残る
 - ・子どもと生活していますが、介護4なので特老ホームを望む

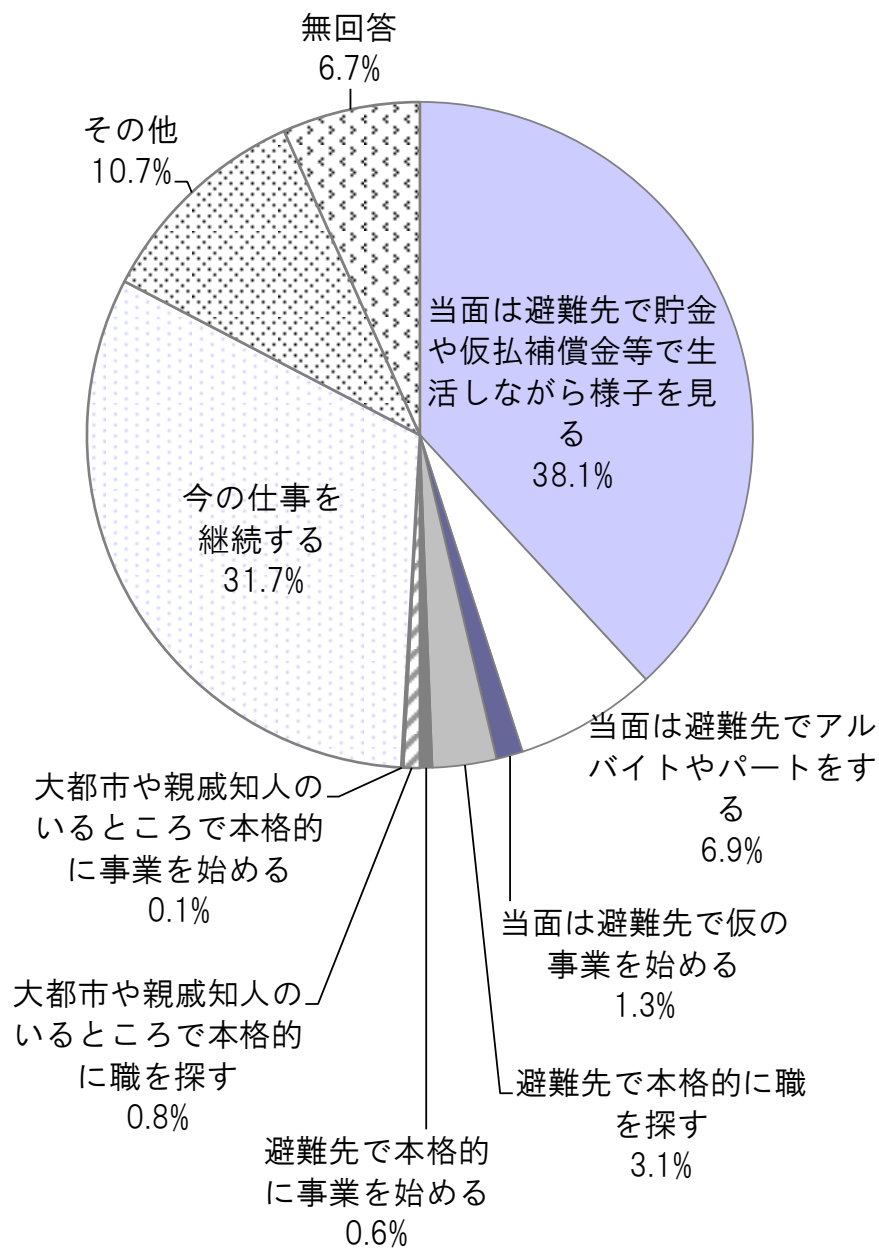
【設問】

問5 あなたの仕事についておたずねします。(1つに○印)

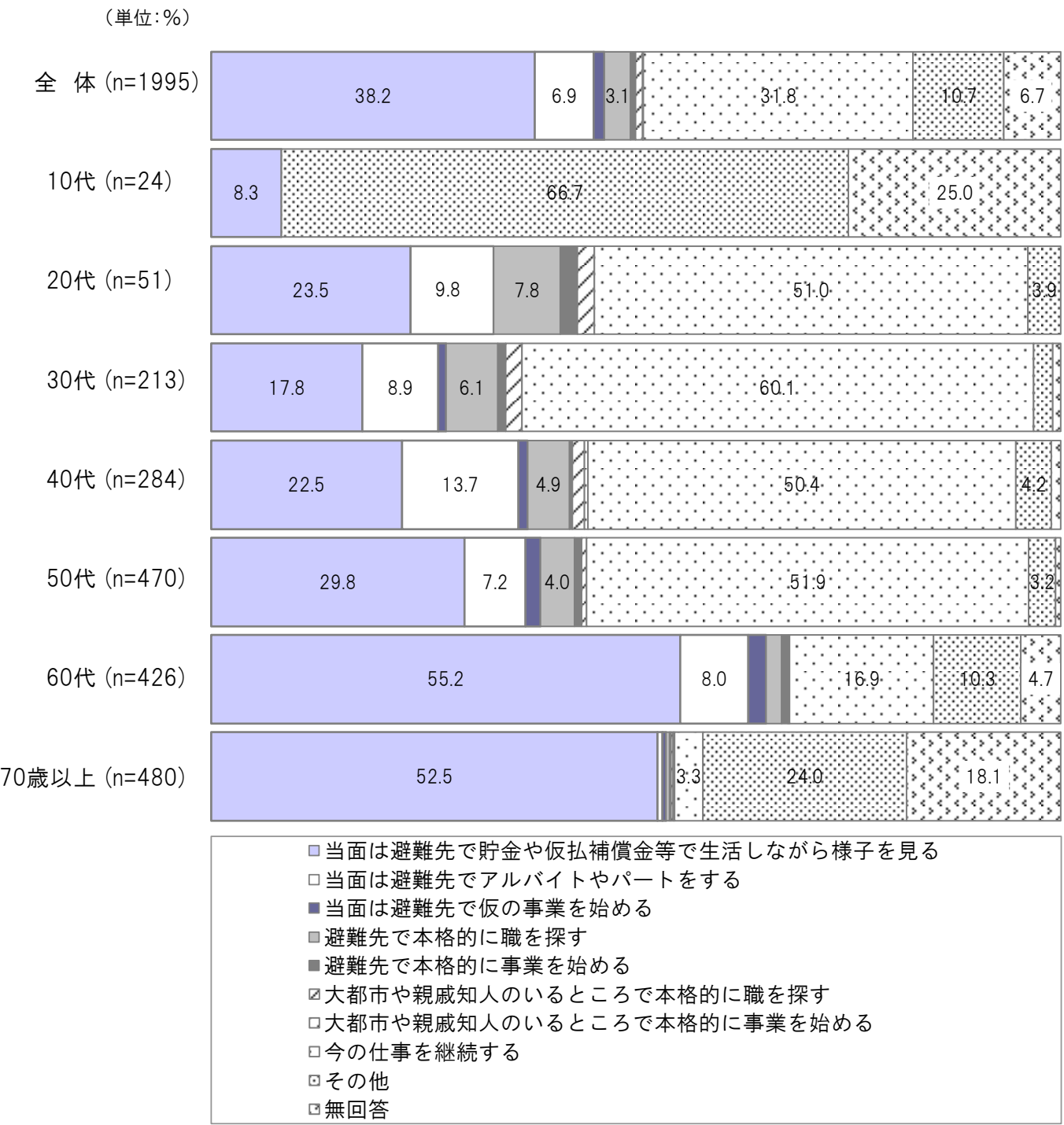
■ 結果の概要

- ・「当面は避難先で貯金や仮払保証金等で生活しながら様子を見る」が4割近くを占め、避難先で新たな仕事に就いたり起業したりすることを考えている回答者は非常に少ない。
- ・避難前の職業別で見ると、自営業(農業)で約68%が「当面は避難先で貯金や仮払補償金等で生活しながら様子を見る」と回答していることが目立つ。「当面は避難先でアルバイトやパートをする」「当面は避難先で仮の事業を始める」という回答は合わせて約8%にとどまっており、同様に仕事や収入に影響が出ているパート・アルバイト、自営業(商工業・サービス業)でこの回答が計20%を超えていることと対照的である。
- ・現在の住居別に見ると、避難所や仮設住宅で生活している人において「当面は避難先で貯金や仮払補償金等で生活しながら様子を見る」という回答が45%を超えていることが目立つ。一方、借家(家賃を自己負担)住まいの人でも、同様の回答が37%となっており、貯金などを切り崩して家賃を自己負担している場合が少なくないことがわかる。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	金 等 面 で は 生 活 難 し な が 貯 金 や 仮 子 を 払 見 補 償	パ ー ト を 避 難 先 で ア ル バ イ ト や	る 当 面 は 避 難 先 で 仮 の 事 業 を 始 め	避 難 先 で 本 格 的 に 職 を 探 す	避 難 先 で 本 格 的 に 事 業 を 始 め る	で 大 都 市 や 親 戚 知 人 の い る と こ ろ	で 大 都 市 や 親 戚 知 人 の い る と こ ろ	今 の 仕 事 を 継 続 す る	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	762 38.2	137 6.9	25 1.3	62 3.1	12 0.6	15 0.8	2 0.1	634 31.8	213 10.7	133 6.7
10代	24 100.0	2 8.3	-	-	-	-	-	-	-	16 66.7	6 25.0
20代	51 100.0	12 23.5	5 9.8	-	4 7.8	1 2.0	1 2.0	-	26 51.0	2 3.9	-
30代	213 100.0	38 17.8	19 8.9	2 0.9	13 6.1	2 0.9	4 1.9	-	128 60.1	5 2.3	2 0.9
40代	284 100.0	64 22.5	39 13.7	3 1.1	14 4.9	1 0.4	4 1.4	1 0.4	143 50.4	12 4.2	3 1.1
50代	470 100.0	140 29.8	34 7.2	8 1.7	19 4.0	4 0.9	3 0.6	-	244 51.9	15 3.2	3 0.6
60代	426 100.0	235 55.2	34 8.0	9 2.1	8 1.9	3 0.7	1 0.2	-	72 16.9	44 10.3	20 4.7
70歳以上	480 100.0	252 52.5	3 0.6	2 0.4	2 0.4	1 0.2	1 0.2	1 0.2	16 3.3	115 24.0	87 18.1

クロス集計(【仕事について】×【職業(避難前)】)

	全 体	金等 では 生活 しな がら 様子 を 見 補 償	当 面 は 避 難 先 で ア ル バ イ ト や	る 当 面 は 避 難 先 で 仮 の 事 業 を 始 め	避 難 先 で 本 格 的 に 職 を 探 す	避 難 先 で 本 格 的 に 事 業 を 始 め る	で 大 都 市 や 親 戚 知 人 の い る と こ ろ	で 大 都 市 や 親 戚 知 人 の い る と こ ろ	今 の 仕 事 を 継 続 す る	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	762 38.2	137 6.9	25 1.3	62 3.1	12 0.6	15 0.8	2 0.1	634 31.8	213 10.7	133 6.7
自営業(農業)	149 100.0	101 67.8	6 4.0	- -	1 0.7	5 3.4	- -	1 0.7	8 5.4	18 12.1	9 6.0
自営業(商工業・サービス業)	197 100.0	82 41.6	26 13.2	12 6.1	3 1.5	6 3.0	3 1.5	- -	55 27.9	10 5.1	- -
会社役員・会社員	760 100.0	207 27.2	43 5.7	8 1.1	37 4.9	1 0.1	5 0.7	- -	437 57.5	19 2.5	3 0.4
公務員・団体職員・教員	126 100.0	16 12.7	2 1.6	1 0.8	2 1.6	- -	1 0.8	- -	97 77.0	4 3.2	3 2.4
パート・アルバイト	127 100.0	61 48.0	35 27.6	- -	11 8.7	- -	1 0.8	- -	11 8.7	8 6.3	- -
家事専業	47 100.0	25 53.2	4 8.5	- -	2 4.3	- -	2 4.3	- -	3 6.4	3 6.4	8 17.0
学生	22 100.0	1 4.5	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	16 72.7	5 22.7
無職	477 100.0	237 49.7	17 3.6	1 0.2	3 0.6	- -	2 0.4	- -	6 1.3	121 25.4	90 18.9
その他	45 100.0	14 31.1	2 4.4	2 4.4	1 2.2	- -	- -	- -	13 28.9	10 22.2	3 6.7

クロス集計(【仕事について】×【住居種別】)

	全 体	金等 では 生活 しな がら 様子 を 見 補 償	当 面 は 避 難 先 で ア ル バ イ ト や	る 当 面 は 避 難 先 で 仮 の 事 業 を 始 め	避 難 先 で 本 格 的 に 職 を 探 す	避 難 先 で 本 格 的 に 事 業 を 始 め る	で 大 都 市 や 親 戚 知 人 の い る と こ ろ	で 大 都 市 や 親 戚 知 人 の い る と こ ろ	今 の 仕 事 を 継 続 す る	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	762 38.2	137 6.9	25 1.3	62 3.1	12 0.6	15 0.8	2 0.1	634 31.8	213 10.7	133 6.7
避難所(ホテル・旅館等含む)	223 100.0	101 45.3	21 9.4	3 1.3	8 3.6	1 0.4	1 0.4	- -	38 17.0	26 11.7	24 10.8
仮設住宅	275 100.0	132 48.0	20 7.3	- -	8 2.9	1 0.4	- -	- -	60 21.8	29 10.5	25 9.1
借上住宅	738 100.0	255 34.6	43 5.8	18 2.4	21 2.8	6 0.8	4 0.5	- -	320 43.4	50 6.8	21 2.8
子供・親戚・知人宅	236 100.0	96 40.7	19 8.1	- -	7 3.0	2 0.8	4 1.7	- -	39 16.5	44 18.6	25 10.6
借家(一戸建て・アパート等で家賃を自己負担しているもの)	276 100.0	102 37.0	19 6.9	3 1.1	7 2.5	2 0.7	4 1.4	1 0.4	106 38.4	21 7.6	11 4.0
公営一時提供住宅	71 100.0	24 33.8	8 11.3	- -	6 8.5	- -	1 1.4	- -	17 23.9	8 11.3	7 9.9
老人施設・病院	20 100.0	2 10.0	- -	- -	1 5.0	- -	- -	- -	1 5.0	14 70.0	2 10.0
社宅・寮	30 100.0	4 13.3	- -	- -	1 3.3	- -	- -	- -	24 80.0	- -	1 3.3
その他	69 100.0	22 31.9	4 5.8	- -	1 1.4	- -	- -	- -	22 31.9	15 21.7	5 7.2

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 ・学生なので仕事はしていない(4件) ・高校生なので仕事はしていない
【20代の回答者】 ・地元近辺で探す ・できるところまでやるしかない
【30代の回答者】 ・福島県に住む場所を探して仕事を見つけたい ・今の状態がどの位続くか分からないので何ともいえない ・わからない
【40代の回答者】 ・今後のことを考えられない ・避難先で今の仕事を再開する ・家族との別居が続くようなら県外転職も考えている ・わからない ・妻の仕事がなくなったため ・今の仕事を継続しながら福島で自分に合う仕事があれば考えます。 ・勤務地がいわきなので、週2日だけ働いて、今の仕事を継続する。家庭の事情で、子供を見る人がいないので、単身赴任はできない。 ・就活中 ・いわきに戻ってから探す ・避難が長期化すれば転職を考える ・年齢で働く職業がなかなかない。
【50代の回答者】 ・年齢的に就職困難。事業再開の見通しなし ・思考停止状態 ・今年中に原発が収束しなければ解雇 ・補償金など要らない。早く楢葉に帰りたい ・つくばからいわきまで月8日位通っている ・仕事をしたいが高齢なのでない ・不足分を補償金で補てんしながら様子をみる ・うつ病で通院中 ・わからない
【60代の回答者】 ・年金生活(5件) ・無職(2件) ・年金と仮払金等で生活する。 ・病院で治療する ・補償金で借入金を返済したい ・他県にいて年なのでどうしようもない ・仕事はできない ・仕事はしなくても良い、町に戻り花・犬・猫を大切にしたい ・今の仕事を覚えたい ・疲れていて気力がわかない(高齢者) ・要介護なので ・何十年と仕事をしていたので年金で暮らす ・働きたくても働けない ・年なので働くところがない ・持病(高血圧症)のため休業予定
【70代以上の回答者】 ・年金生活(21件) ・無職(18件) ・仕事がない(3件) ・高齢なので仕事は無理(3件) ・高齢なので何もできない。 ・体が悪いので何もできない ・高齢と介護要支援なので仕事は不可能 ・90歳、認知症(娘代筆) ・楢葉町の事務所を1日も早く再開する ・老人 ・子供の世話になっている ・10月以降は年金のみの生活 ・わからない

- ・やる気なし
- ・年金だけなので減額しないで欲しい
- ・年金生活、子供の仕事に不安である。
- ・一人暮らしの住宅がひどすぎるので市営住宅でも探そうと思う。

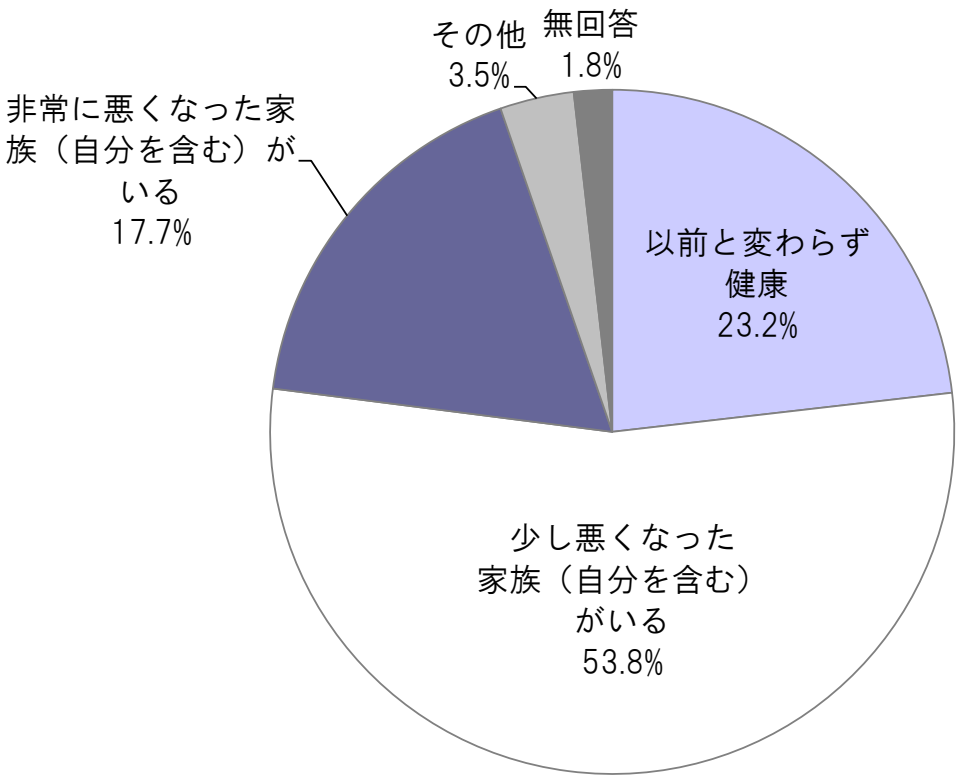
【設問】

問6 避難生活が続く中で現在の体の調子はどうですか。(1つに○印)

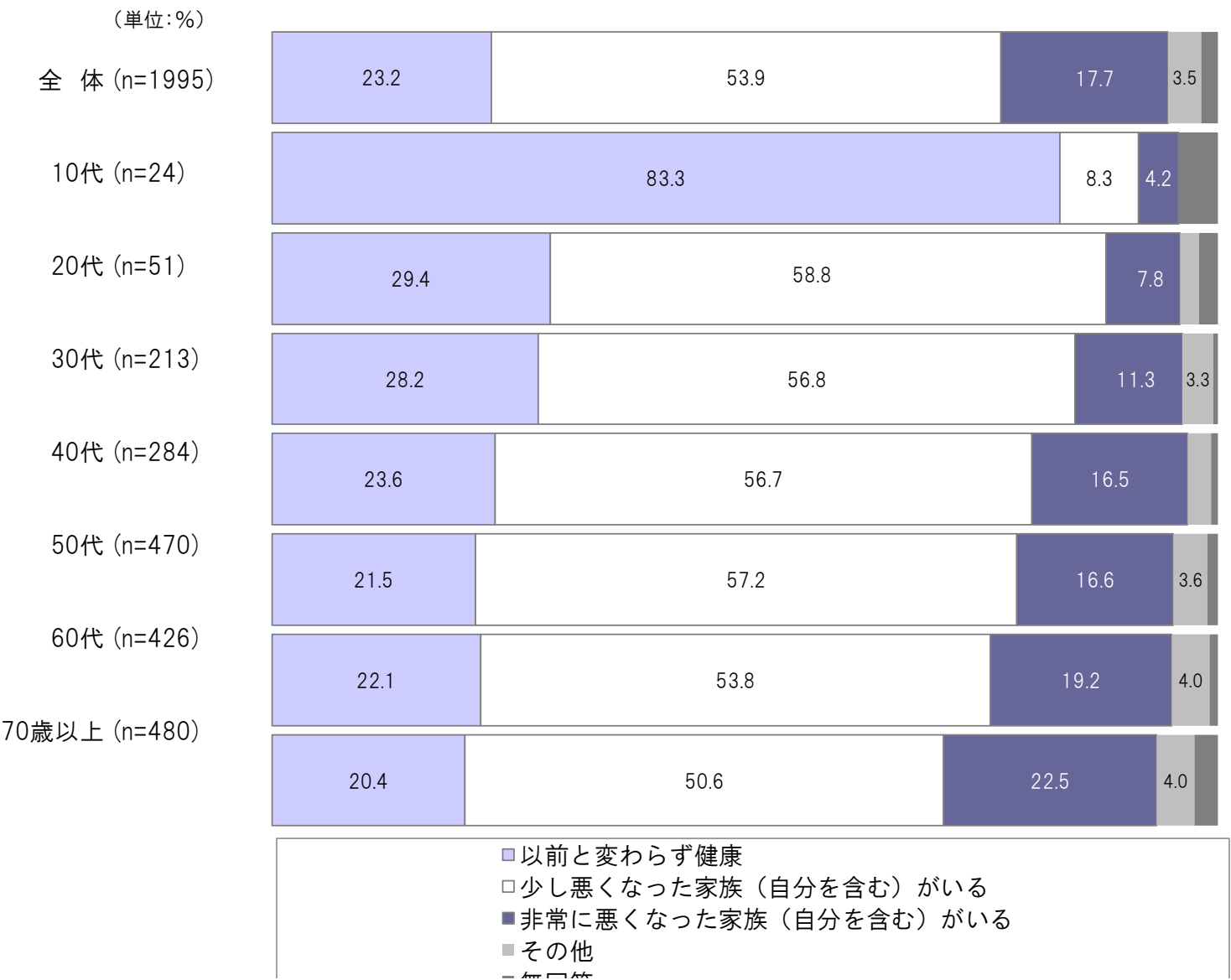
■ 結果の概要

- ・「非常に悪くなった家族(自分を含む)がいる」世帯、「少し悪くなった家族(自分を含む)がいる」世帯が合計で7割を超えており、被災生活による体調への影響が懸念される。また、年齢とともに「非常に悪くなった家族(自分を含む)がいる」と回答した世帯の占める割合が多くなり、60代、70代以上では約2割となっている。
- ・「その他」の自由記述においては、精神面への影響やストレスを訴える声が目立つ。
- ・避難後の職業別に見ると、「休職中」「失業中でアルバイト」「失業中で無職」では、「非常に悪くなった家族(自分を含む)がいる」という回答がいずれも2割を超えている。
- ・現在の収入の状況別に見ると、収入減少の大きな世帯ほど、少しもしくは非常に悪くなった家族がいると回答した率が高くなっており、「収入がまったくなくなった」世帯では8割を超えている。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	以 前 と 変 わ ら ず 健 康	を 少 し 悪 く な っ た 家 族 （ 自 分 を 含 む ） が い る	分 非 常 に 悪 く な っ た 家 族 （ 自 分 を 含 む ） が い る	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	462 23.2	1075 53.9	353 17.7	69 3.5	36 1.8
10代	24 100.0	20 83.3	2 8.3	1 4.2	- -	1 4.2
20代	51 100.0	15 29.4	30 58.8	4 7.8	1 2.0	1 2.0
30代	213 100.0	60 28.2	121 56.8	24 11.3	7 3.3	1 0.5
40代	284 100.0	67 23.6	161 56.7	47 16.5	7 2.5	2 0.7
50代	470 100.0	101 21.5	269 57.2	78 16.6	17 3.6	5 1.1
60代	426 100.0	94 22.1	229 53.8	82 19.2	17 4.0	4 0.9
70歳以上	480 100.0	98 20.4	243 50.6	108 22.5	19 4.0	12 2.5

クロス集計（【避難生活が続く中での現在の体調】×【職業（避難後）】）

	全 体	以 前 と 変 わ ら ず 健 康	を 少 し 悪 く な っ た 家 族 （ 自 分 を 含 む ） が い る	分 非 常 に 悪 く な っ た 家 族 （ 自 分 を 含 む ） が い る	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	462 23.2	1075 53.9	353 17.7	69 3.5	36 1.8
被災前と同じ	1110 100.0	297 26.8	601 54.1	163 14.7	38 3.4	11 1.0
休職中	223 100.0	45 20.2	123 55.2	49 22.0	4 1.8	2 0.9
失業中でアルバイト	51 100.0	10 19.6	26 51.0	11 21.6	3 5.9	1 2.0
失業中で無職	367 100.0	57 15.5	217 59.1	80 21.8	11 3.0	2 0.5
転職	36 100.0	11 30.6	16 44.4	6 16.7	2 5.6	1 2.8
その他	65 100.0	12 18.5	33 50.8	13 20.0	6 9.2	1 1.5

クロス集計（【避難生活が続く中での現在の体調】×【避難前と今の収入の増減】）

	全 体	以 前 と 変 わ ら ず 健 康	を 少 し 悪 く な っ た 家 族 （ 自 分 を 含 む ） が い る	分 非 常 に 悪 く な っ た 家 族 （ 自 分 を 含 む ） が い る	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	462 23.2	1075 53.9	353 17.7	69 3.5	36 1.8
収入がまったくなくなった	433 100.0	67 15.5	244 56.4	103 23.8	12 2.8	7 1.6
月額で2～3割くらい減った	450 100.0	120 26.7	259 57.6	56 12.4	13 2.9	2 0.4
月額で5割くらい減った	198 100.0	39 19.7	116 58.6	34 17.2	5 2.5	4 2.0
月額で5割以上減った	184 100.0	34 18.5	104 56.5	37 20.1	6 3.3	3 1.6
あまり変わらない	564 100.0	154 27.3	288 51.1	90 16.0	23 4.1	9 1.6
収入が増えた	23 100.0	10 43.5	8 34.8	3 13.0	1 4.3	1 4.3
その他	108 100.0	32 29.6	43 39.8	23 21.3	8 7.4	2 1.9

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 (なし)
【20代の回答者】 ・内部被ばくが心配
【30代の回答者】 ・以前と変わらないが疲れる ・ストレスがたまっている ・娘、私共に一時的に体調不良の時期があった ・ストレスで子供の肌が悪くなった
【40代の回答者】 ・虫垂炎で手術・入院、現在は良好 ・避難先で手術・入院10日間 ・心配事が多く体調不良な時がある ・うつ状態 ・親が市外避難所で具合が悪化し離れているので大変
【50代の回答者】 ・精神的に苦痛である(3件) ・知らない土地で精神的にまいっている ・遠くなったので、通院が大変 ・入院して亡くなった家族がいる ・初めて家族(妻)が入院した ・まだ判断できない ・以前と変わらずよくない ・以前と同じ病院通い ・不安定な状態
【60代の回答者】 ・精神的に苦痛である(4件) ・気力が薄れる。心のうつの不安がある ・時々胸が苦しくなる ・家族全員が日に日に心身ともに悪化 ・母が死亡 ・以前と変わらないが通院中 ・2、3カ月は血圧が高くなったが現在は落ち着いている ・寝つきが悪くなった ・歯が悪くなった
【70代以上の回答者】 ・以前から医者に通っている ・血圧が高い ・以前と同じ病院通い ・ペースト状の食事及び車椅子(娘代筆) ・亡くなった家族がいる ・入院したこともあったが現在は回復 ・要介護2 ・心身ともに健康とはいえない ・入院した。脳梗塞 ・以前の薬を継続してもらっている ・農業をしていたので張り合いがなくなった ・夫婦で病気になり今治療中です夫は8月手術です

【設問】

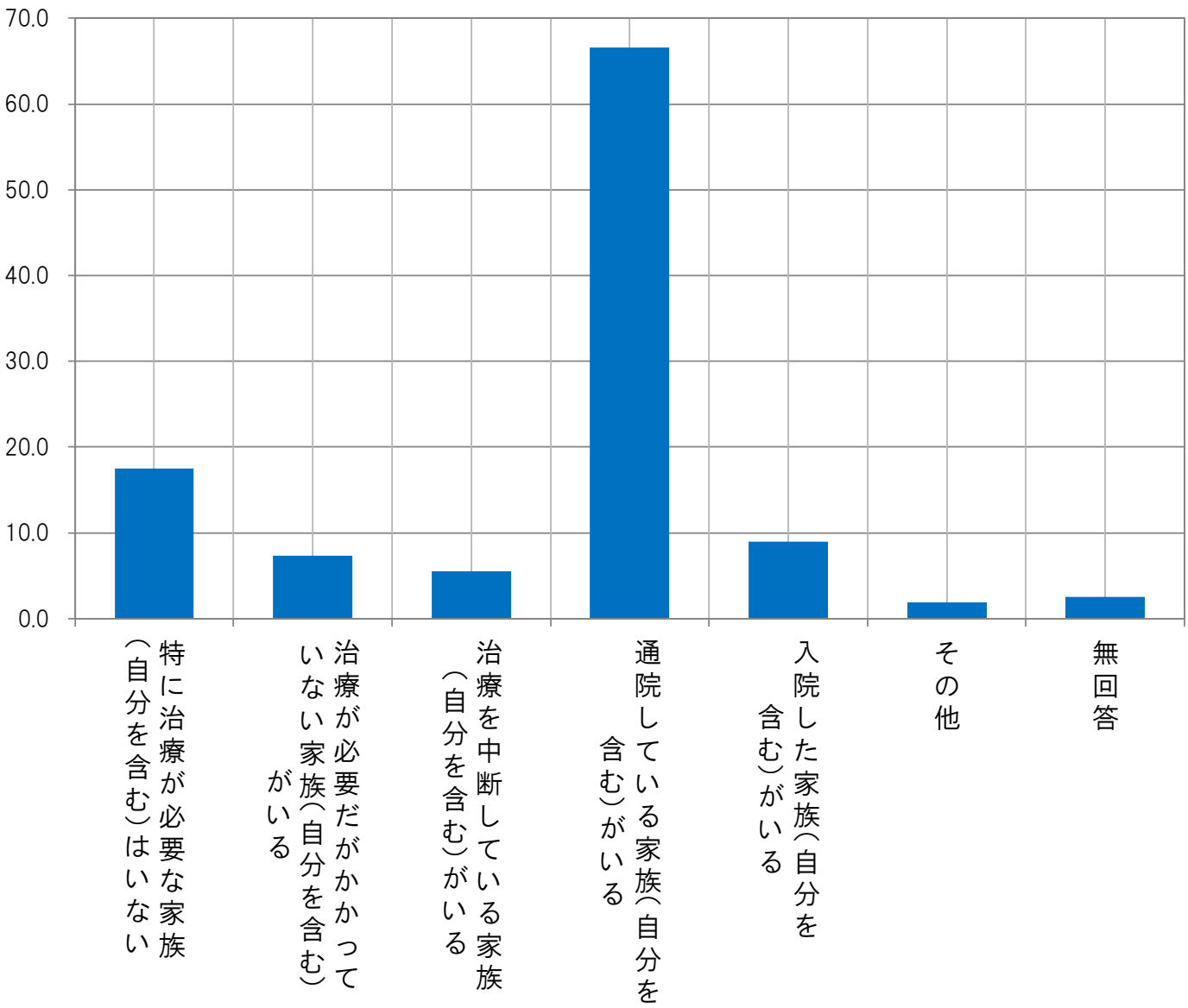
問7ー1 現在、病院・診療所にかかっていますか。（複数回答可）

■ 結果の概要

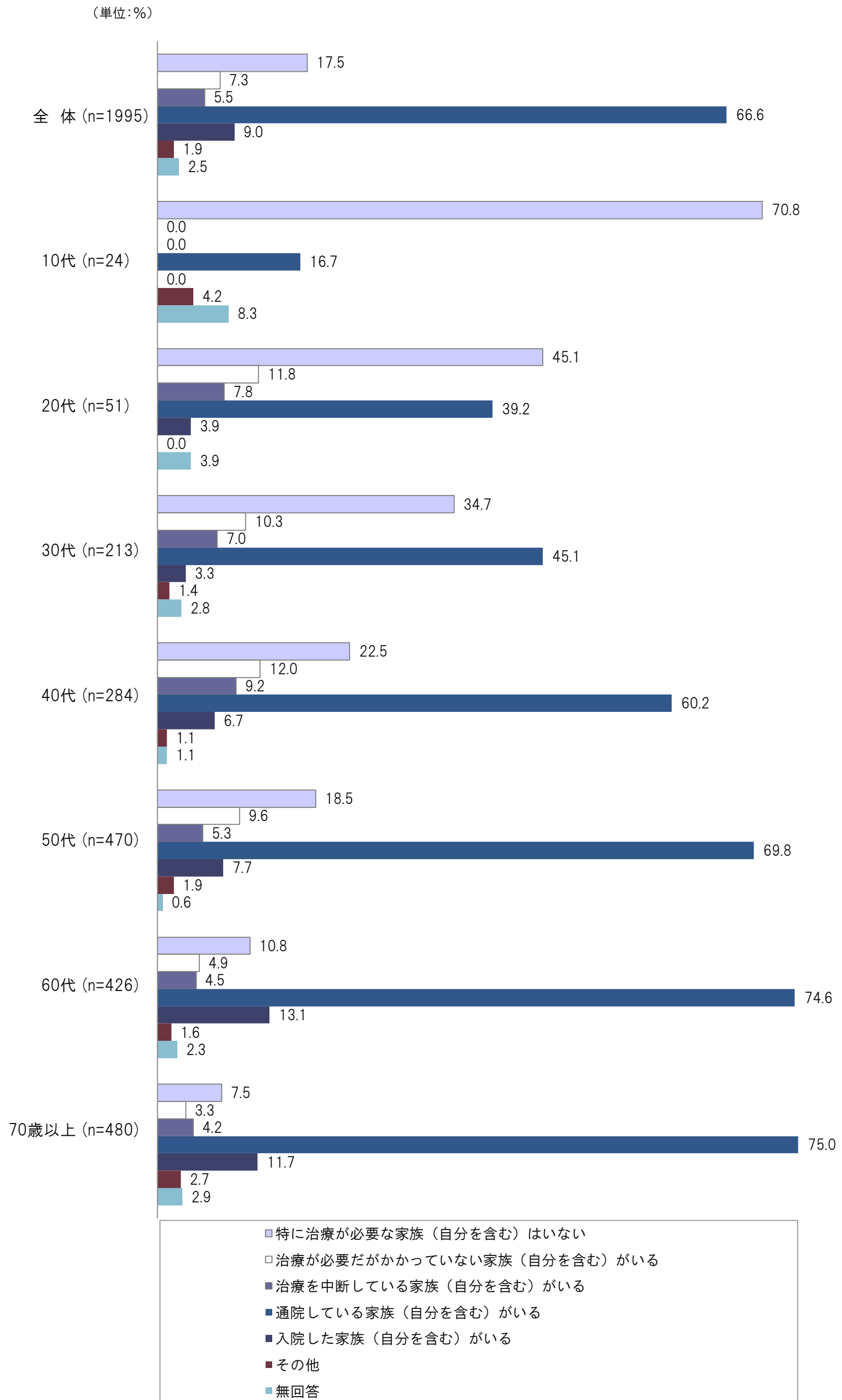
- ・ 全体として、「通院している家族（自分を含む）がいる」という回答が、6割を超えており、特に60代、70代以上で75%近くになっている。
- ・ 「治療が必要だがかかっていない」「治療を中断した」という世帯は、1割を超えており、特に30代、40代が多い。

◆ 単純集計結果

（単位：％）



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	特 に 治 療 が 必 要 な 家 族 （ 自 分 を 含 む ） は い な い	家 族 （ 自 分 を 含 む ） が い な い	治 療 を 中 断 し て い る 家 族 （ 自 分 を 含 む ） が い る	通 院 し て い る 家 族 （ 自 分 を 含 む ） が い る	入 院 し た 家 族 （ 自 分 を 含 む ） が い る	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	350 17.5	146 7.3	109 5.5	1328 66.6	179 9.0	37 1.9	49 2.5
10代	24 100.0	17 70.8	- -	- -	4 16.7	- -	1 4.2	2 8.3
20代	51 100.0	23 45.1	6 11.8	4 7.8	20 39.2	2 3.9	- -	2 3.9
30代	213 100.0	74 34.7	22 10.3	15 7.0	96 45.1	7 3.3	3 1.4	6 2.8
40代	284 100.0	64 22.5	34 12.0	26 9.2	171 60.2	19 6.7	3 1.1	3 1.1
50代	470 100.0	87 18.5	45 9.6	25 5.3	328 69.8	36 7.7	9 1.9	3 0.6
60代	426 100.0	46 10.8	21 4.9	19 4.5	318 74.6	56 13.1	7 1.6	10 2.3
70歳以上	480 100.0	36 7.5	16 3.3	20 4.2	360 75.0	56 11.7	13 2.7	14 2.9

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 ・かかっていない
【20代の回答者】 (なし)
【30代の回答者】 ・様子を見ている
【40代の回答者】 ・在宅を受けている ・養護施設に入所した家族がいる
【50代の回答者】 ・施設入所した家族がいる(2件) ・病気が増えた為、通院が多くなりかかってない病気がある ・入院中のものがいたが県外へ転院した ・介護施設に入居中 ・母親が継続して入院中 ・親が避難中に死亡した
【60代の回答者】 ・薬だけ避難先の病院でもらっている ・介護施設入所者 ・狭心症、歯の治療 ・投薬治療している家族がいるが病院が変わり不安そう ・入院したいが避難先で寝ています
【70代以上の回答者】 ・入院し現在は通院(2件) ・病院を経て老健施設入所(娘代筆) ・一ヶ月毎に

【設問】

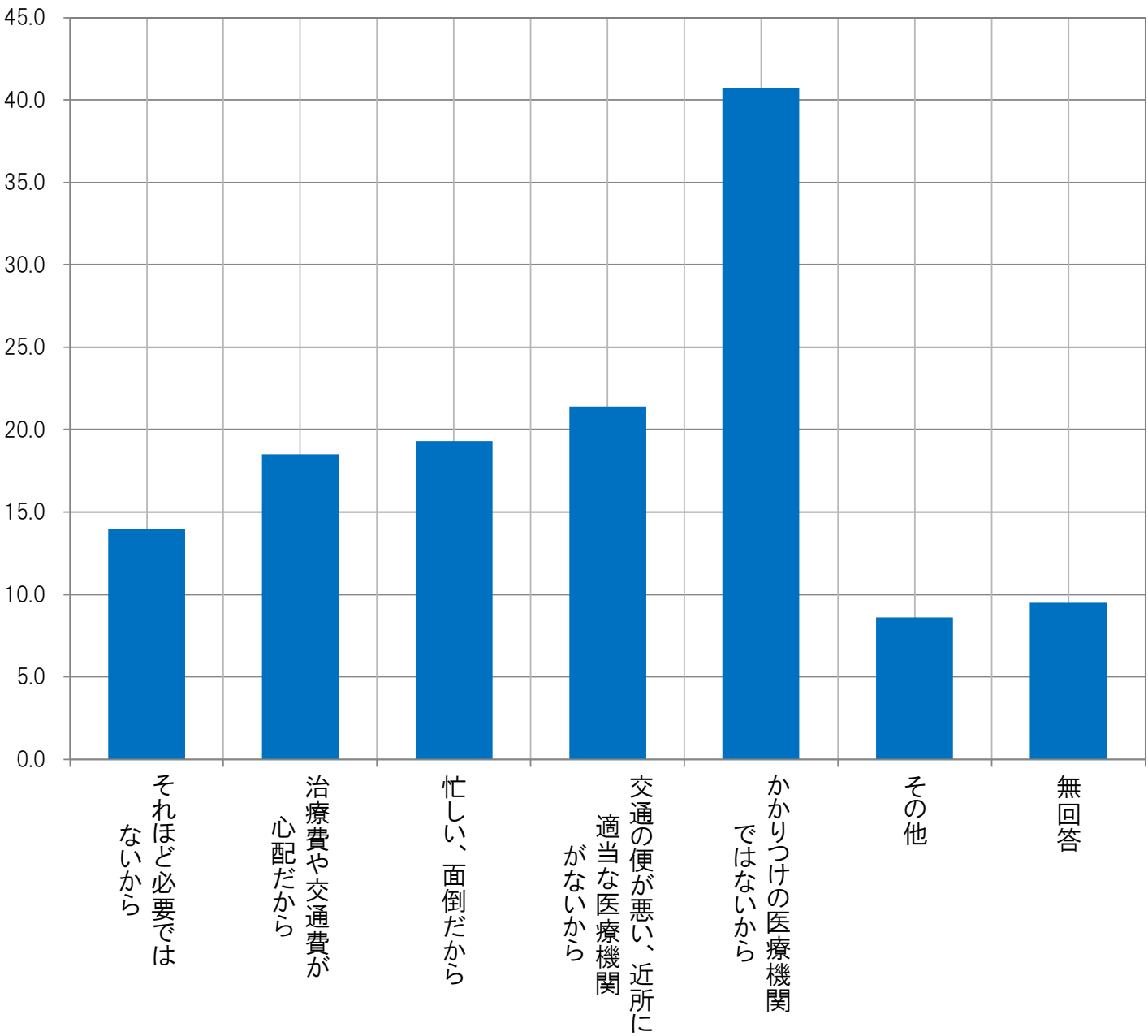
問7ー2 問7ー1で「2.治療が必要だがかかっていない家族(自分を含む)がいる」「3.治療を中断している家族(自分を含む)がいる」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。(複数回答可)

■ 結果の概要

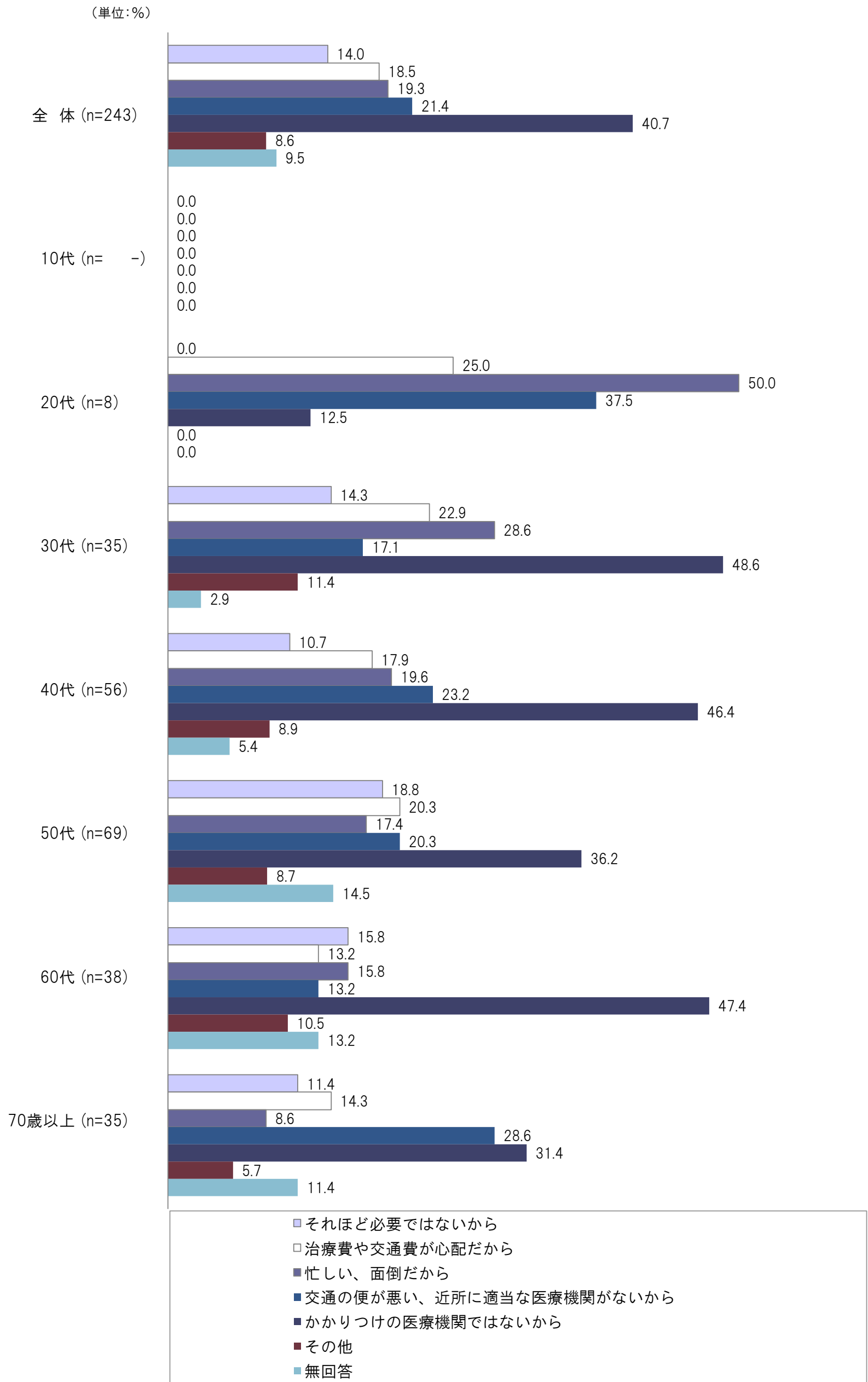
- ・「治療が必要だがかかっていない」「治療を中断した」理由として、最も多いのは、「かかりつけの医療機関ではないから」というものである。

◆ 単純集計結果

(単位: %)



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	それ ほど 必要 では ない から	治 療 費 や 交 通 費 が 心 配 だ か ら	忙 し い 、 面 倒 だ か ら	交 通 の 便 が 悪 い 、 近 所 に 適 当 な 医 療 機 関 が な い から	か か り つ け の 医 療 機 関 で は な い	そ の 他	無 回 答
全 体	243 100.0	34 14.0	45 18.5	47 19.3	52 21.4	99 40.7	21 8.6	23 9.5
10代	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20代	8 100.0	- -	2 25.0	4 50.0	3 37.5	1 12.5	- -	- -
30代	35 100.0	5 14.3	8 22.9	10 28.6	6 17.1	17 48.6	4 11.4	1 2.9
40代	56 100.0	6 10.7	10 17.9	11 19.6	13 23.2	26 46.4	5 8.9	3 5.4
50代	69 100.0	13 18.8	14 20.3	12 17.4	14 20.3	25 36.2	6 8.7	10 14.5
60代	38 100.0	6 15.8	5 13.2	6 15.8	5 13.2	18 47.4	4 10.5	5 13.2
70歳以上	35 100.0	4 11.4	5 14.3	3 8.6	10 28.6	11 31.4	2 5.7	4 11.4

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 (なし)
【20代の回答者】 (なし)
【30代の回答者】 ・乳児の預け先がない ・精神的な抑うつなので環境の改善が必要 ・精神面でのことが非常に大きいので。鬱になってきている、鬱の薬はのみたくない
【40代の回答者】 ・ストレス性のもと思われるので様子をみている ・体調が良いときと悪い時があるので様子見 ・子供がいて頼める人がいないから
【50代の回答者】 ・仕事を休んでケビになるのが不安で休めない ・親の通院だけで時間が取れない ・施設入所した。かかりつけが閉院している ・どこに行ってもいいのか分からない
【60代の回答者】 ・胸の痛みが続くようなら病院へ行く ・耳鳴りがひどいが医療機関でよくならない
【70代以上の回答者】 ・娘の勤務する病院で薬だけもらっている ・避難所がすぐ変わるから(7回目) ・高血圧のため近くの病院に受診予定 ・病院を見つけている ・妻は郡山西ノ内太田病院、夫は水戸医療センター

【設問】

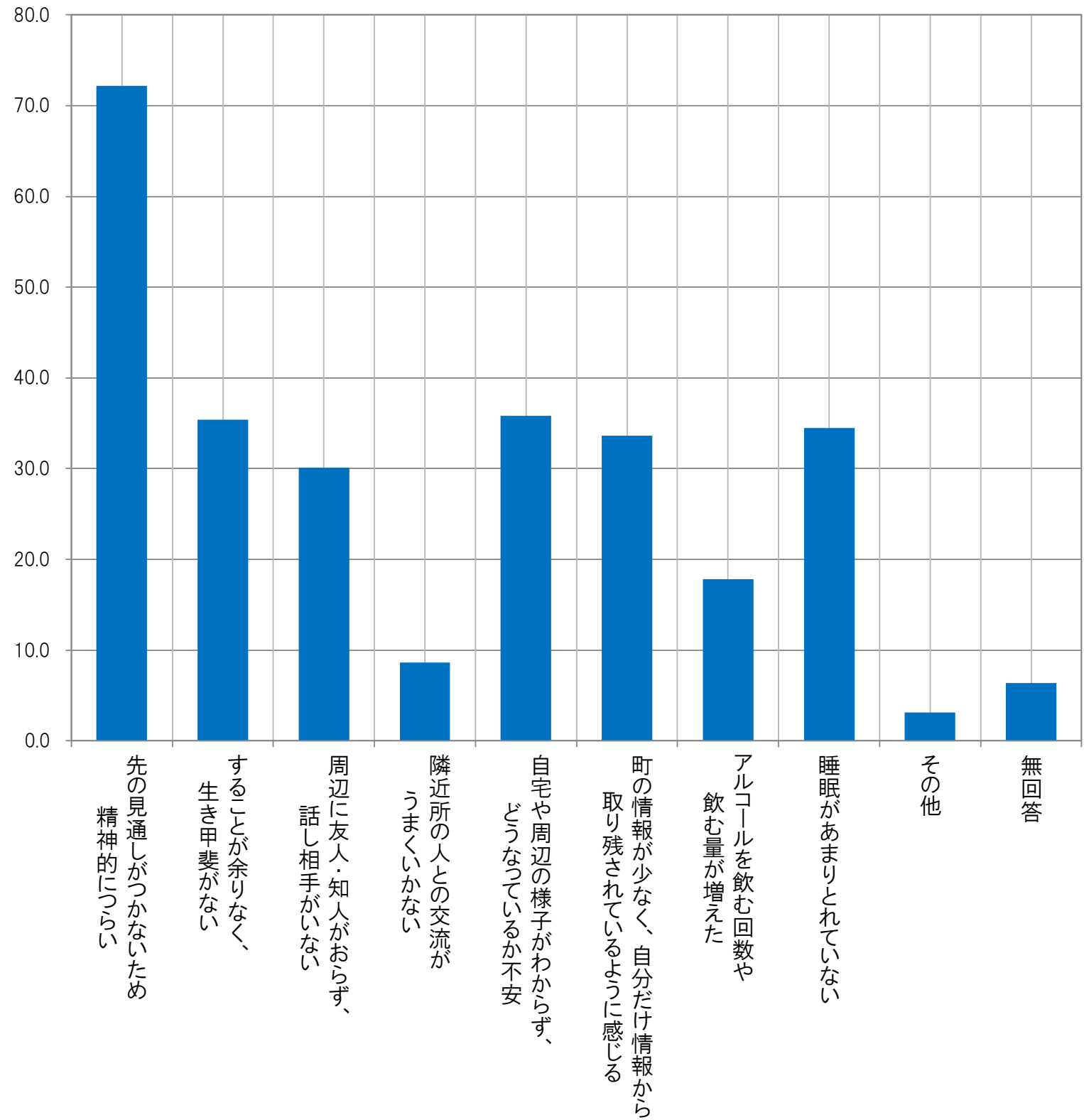
問8 ご家族(自分を含む)に次のような方がいますか。(複数回答可)

■ 結果の概要

- ・「先の見通しがつかないため精神的につらい」とする回答が、全体で7割を超えて、最も多い。また、「生き甲斐がない」「話し相手がない」「自宅や周辺の様子がわからず不安」「町の情報が少なく取り残されているように感じる」「睡眠があまりとれない」という回答も、それぞれ3割を超えている。回答には年齢差はあまりない。
- ・「その他」の自由記述では、30代～60代の各世代に「たばこの本数が増えた」という回答が見られるほか、「イライラする」「慣れない」「落ち着かない」など避難先でのストレスを訴える回答がさまざま見られる。

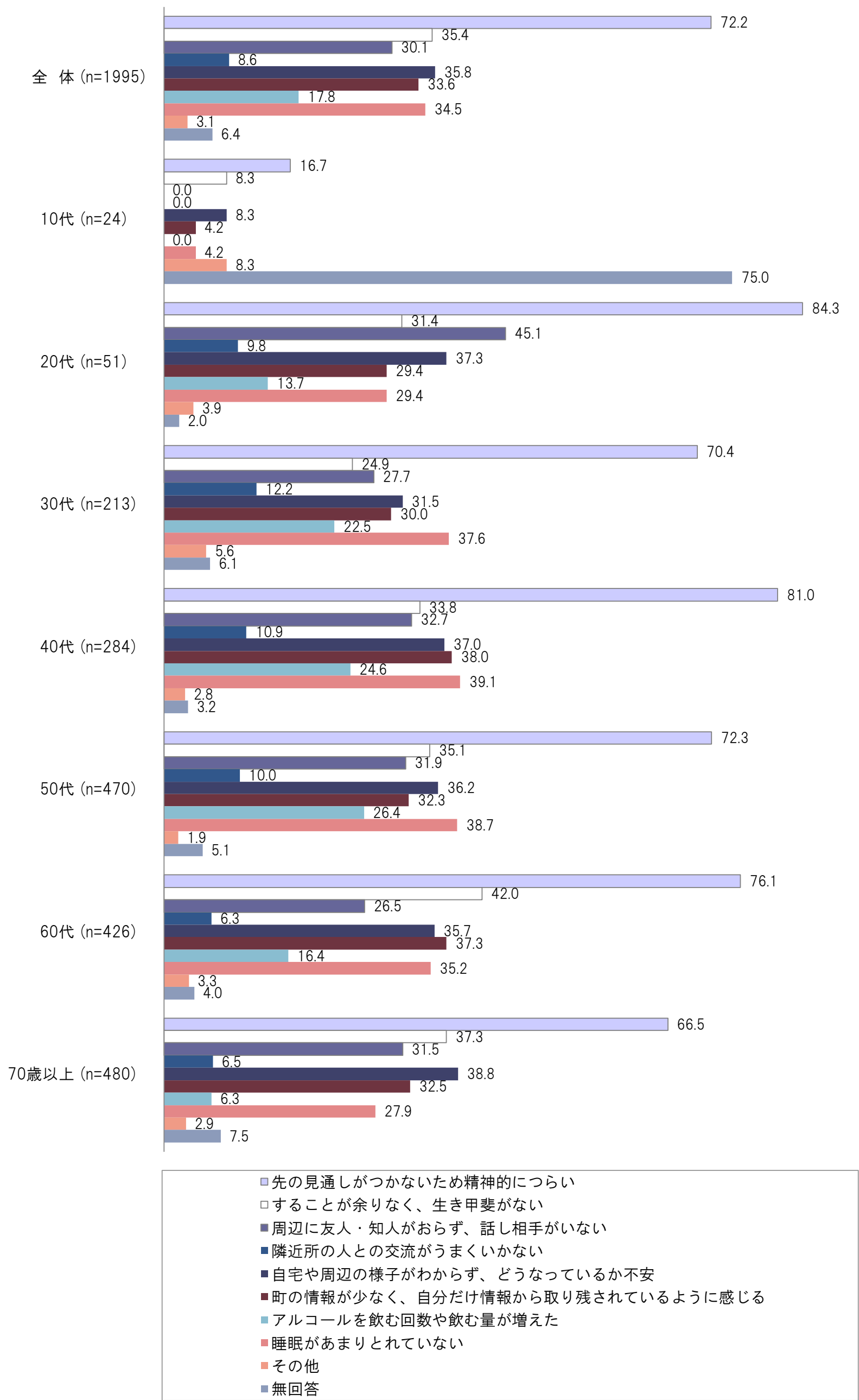
◆ 単純集計結果

(単位:%)



◆ 回答世代別集計結果

(単位: %)



◆ 集計表

	全 体	的 先 の 見 通 し が つ か な い た め 精 神	が す る こ と が 余 り な く、 生 き 甲 斐	し 周 辺 に 友 人・ 知 人 が お ら ず、 話	か 隣 近 所 の 人 と の 交 流 が う ま く い	ど 自 宅 や 周 辺 の 様 子 が わ か ら ず、 ど う な っ て い る か 不 安	感 報 町 の 情 報 が 残 さ れ て い る 分 だ け に 情	が ア ル コ ー ル を 飲 む 回 数 や 飲 む 量	睡 眠 が あ ま り と れ て い な い	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	1440 72.2	707 35.4	601 30.1	172 8.6	715 35.8	671 33.6	355 17.8	689 34.5	61 3.1	127 6.4
10代	24 100.0	4 16.7	2 8.3	- -	- -	2 8.3	1 4.2	- -	1 4.2	2 8.3	18 75.0
20代	51 100.0	43 84.3	16 31.4	23 45.1	5 9.8	19 37.3	15 29.4	7 13.7	15 29.4	2 3.9	1 2.0
30代	213 100.0	150 70.4	53 24.9	59 27.7	26 12.2	67 31.5	64 30.0	48 22.5	80 37.6	12 5.6	13 6.1
40代	284 100.0	230 81.0	96 33.8	93 32.7	31 10.9	105 37.0	108 38.0	70 24.6	111 39.1	8 2.8	9 3.2
50代	470 100.0	340 72.3	165 35.1	150 31.9	47 10.0	170 36.2	152 32.3	124 26.4	182 38.7	9 1.9	24 5.1
60代	426 100.0	324 76.1	179 42.0	113 26.5	27 6.3	152 35.7	159 37.3	70 16.4	150 35.2	14 3.3	17 4.0
70歳以上	480 100.0	319 66.5	179 37.3	151 31.5	31 6.5	186 38.8	156 32.5	30 6.3	134 27.9	14 2.9	36 7.5

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 ・いない
【20代の回答者】 ・1F 2Fがどうなっているのかはっきりしないことが不安で信用できない
【30代の回答者】 ・ストレスがたまり言葉使いが悪くなった ・妊婦がいるので不安 ・タバコの本数が増えた ・失業した家族がいる ・子供が脱毛症になった。ストレスがある ・子供の不登校 ・役場でも行政の情報を把握していないので頼りない ・ペットの様子が不安で仕方ない ・子供への影響が不安 ・震災前より頭痛がひどい ・やる気が以前より感じられない
【40代の回答者】 ・プライベート空間がない ・インターネットがなければ情報が入らない ・ピアノが弾けなくなった ・部屋が狭く家族みんなストレスがたまっている ・今後を考えると不安になる ・不整脈が出るようになった ・タバコが増えた ・帰りたいですが、福島に仕事がない。放射線が心配 ・町から離れているので不平等感を感じる ・預けている動物が心配
【50代の回答者】 ・相続が進まず精神的につらい ・イライラすることが多くなり夫婦喧嘩が増えた ・精神的に不安定、今後の見通しがたたない ・生活のパターンが変わり精神的にきつい ・先が見えないので生きがいが無い ・精神的に落ち着かない ・なんとかやっていく ・近隣の病院が分からない ・実家の近くなので安心 ・タバコの本数が増えた
【60代の回答者】 ・アルバイトをしたいが老いた母を1人にできない ・さみしい

- ・仕事を立ち上げるため一歩前進している
- ・5月以降役場職員が来てくれない。
- ・夢を持って檣葉に帰り、花・犬・猫を育て生活することが楽しみ
- ・息子との関係がギクシャクしている
- ・家族の金銭に関する行動に困っている
- ・気候が違うので体が慣れない

【70代以上の回答者】

- ・入院中(2件)
- ・本人が認知症のため現状を把握できていない
- ・タバコの量が増えた
- ・ホテル住まいは快適
- ・家に帰ってのんびり暮らしたい
- ・いつ自宅に帰れるかわからないので不安
- ・ストレスがとれない
- ・子供の健康が心配でつらい

【設問】

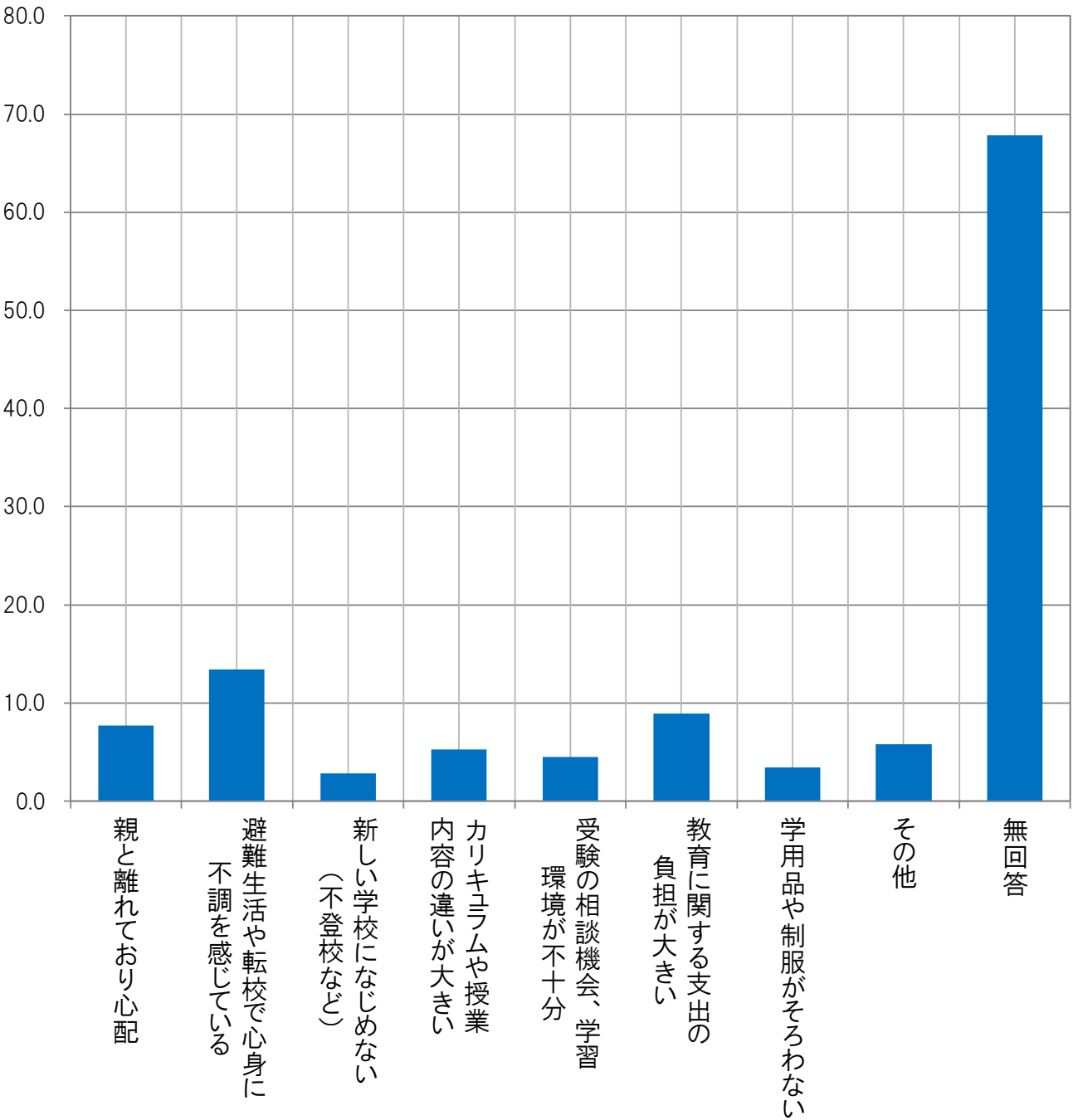
問9 子どもの教育についてお困りのことはありますか。（複数回答可）

■ 結果の概要

- ・ 避難生活や転校による心身の不調を訴える声が約13%と最も多く、次いで、教育費の支出負担（約9%）、親と離れていること（約8%）となっている。

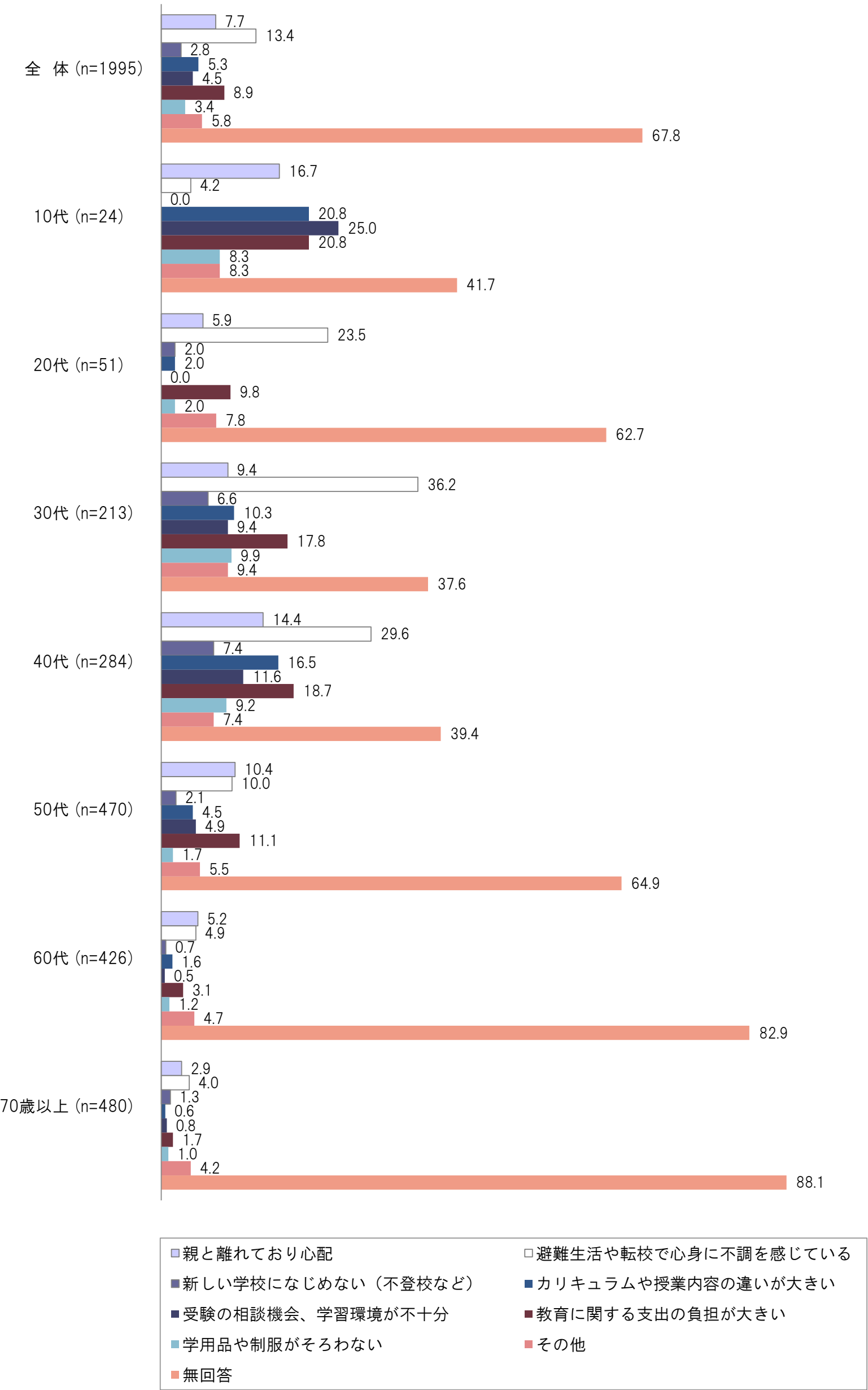
【注】回答者の中には、就学児童・生徒・学生などの子供がいない世帯も含まれているが、これを分離することができないため、母数は全回答者として割合を算出している。

◆ 単純集計結果
（単位：％）



◆ 回答世代別集計結果

(単位: %)



◆ 集計表

	全 体	親 と 離 れ て お り 心 配	感 避 難 生 活 や 転 校 で 心 身 に 不 調 を 感 じ て い る	校 新 な い 学 校 に な じ め な い （ 不 登 校 ）	が カ リ キ ュ ラ ム や 授 業 内 容 の 違 い	十 分 受 験 の 相 談 機 会 、 学 習 環 境 が 不	い 教 育 に 関 す る 支 出 の 負 担 が 大 き	学 用 品 や 制 服 が そ ろ わ な い	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	154 7.7	267 13.4	55 2.8	106 5.3	89 4.5	178 8.9	68 3.4	115 5.8	1352 67.8
10代	24 100.0	4 16.7	1 4.2	- -	5 20.8	6 25.0	5 20.8	2 8.3	2 8.3	10 41.7
20代	51 100.0	3 5.9	12 23.5	1 2.0	1 2.0	- -	5 9.8	1 2.0	4 7.8	32 62.7
30代	213 100.0	20 9.4	77 36.2	14 6.6	22 10.3	20 9.4	38 17.8	21 9.9	20 9.4	80 37.6
40代	284 100.0	41 14.4	84 29.6	21 7.4	47 16.5	33 11.6	53 18.7	26 9.2	21 7.4	112 39.4
50代	470 100.0	49 10.4	47 10.0	10 2.1	21 4.5	23 4.9	52 11.1	8 1.7	26 5.5	305 64.9
60代	426 100.0	22 5.2	21 4.9	3 0.7	7 1.6	2 0.5	13 3.1	5 1.2	20 4.7	353 82.9
70歳以上	480 100.0	14 2.9	19 4.0	6 1.3	3 0.6	4 0.8	8 1.7	5 1.0	20 4.2	423 88.1

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】
・学生のため、子供いない。
・現在の中学は問題ない。来春の高校についてアカデミーサイドではベターな方向で検討してくれているが、子供が先輩の現状を見て不安を感じたら他を考えている。
【20代の回答者】
・月に一度、こども園の子供どうしを会わせるような機会を設けてほしい
・学童ない
【30代の回答者】
・現在の学校にずっと通えるか不安
・はじめての妊娠で不安なのに避難でさらに不安
・避難前と同じ行政サービスが受けられるか不安
・一通り揃えたものが自宅にあり余計な出費がかかる
・2学期から新しい学校。本人は何も言わないが大丈夫なのか…
・入園ができなかった
・性格が変わってしまった
・転園による購入品の負担が大きかった
・これまで続けてきた習い事がストップしてしまい、子供の口からもマイナスな意見が出てきて、将来が大きく狂わされた思いがある。
・2回も転校させているためいろいろな不安
・現在の学校にいつまで通うのか、あと何回学校を変えるのか等不安
・幼稚園に行きたくないと子供が言っている
・住居がはっきり決まらず子供の幼稚園を決められない
・今後の方向性や、現在の状況、級友の情報などが発信されてこない
【40代の回答者】
・できれば学校にある子供のランドセルが記念にほしい
・一時帰宅の際の欠席は、公休扱いにして欲しい
・未婚
・親元を離れて通学していることが心配
・高校受験の見通しがたたない
・線量が心配
・学校におきっぱなしのランドセルなど子供が心配してる
・勉強部屋が無く学習環境が与えられない
・奨学金返納の見通しがたたず困っている
・住居が狭く自宅学習が落ち着いてできない
・どこの保育園に入園させるか
・進学について
・2か月くらいは不安でしたが今は落ち着いている
・皆親切ですがなかなかグループには入れない。避難前と比べたらやる気がない。何もしたくない。
・定期代を2割ではなく全額免除してほしい
・就職のことが心配

【50代の回答者】 ・進学が決まっていたのに震災にあい断念せざるを得なかった。本人の将来が変わってしまった。 ・来春の就職が心配 ・貸家での受験勉強で環境が十分でない ・いわきで生活させて本当に大丈夫なのか不安 ・受験生で2学期より転校することが心配 ・高3の子の仕事が決まらない ・孫がいじめられ、心身ストレスがある ・転校を何度も繰り返すのが子供は苦痛である ・高校3年生ですが、修学旅行、卒業アルバムがなし。高校生活の思い出が無く残念です ・就職活動範囲がさだまらない ・通学時間が2時間かかるようになった
【60代の回答者】 ・学校が変わるたびに制服とかの出費が多い ・以前とあまり変わらない
【70代以上の回答者】 ・入院中

【設問】

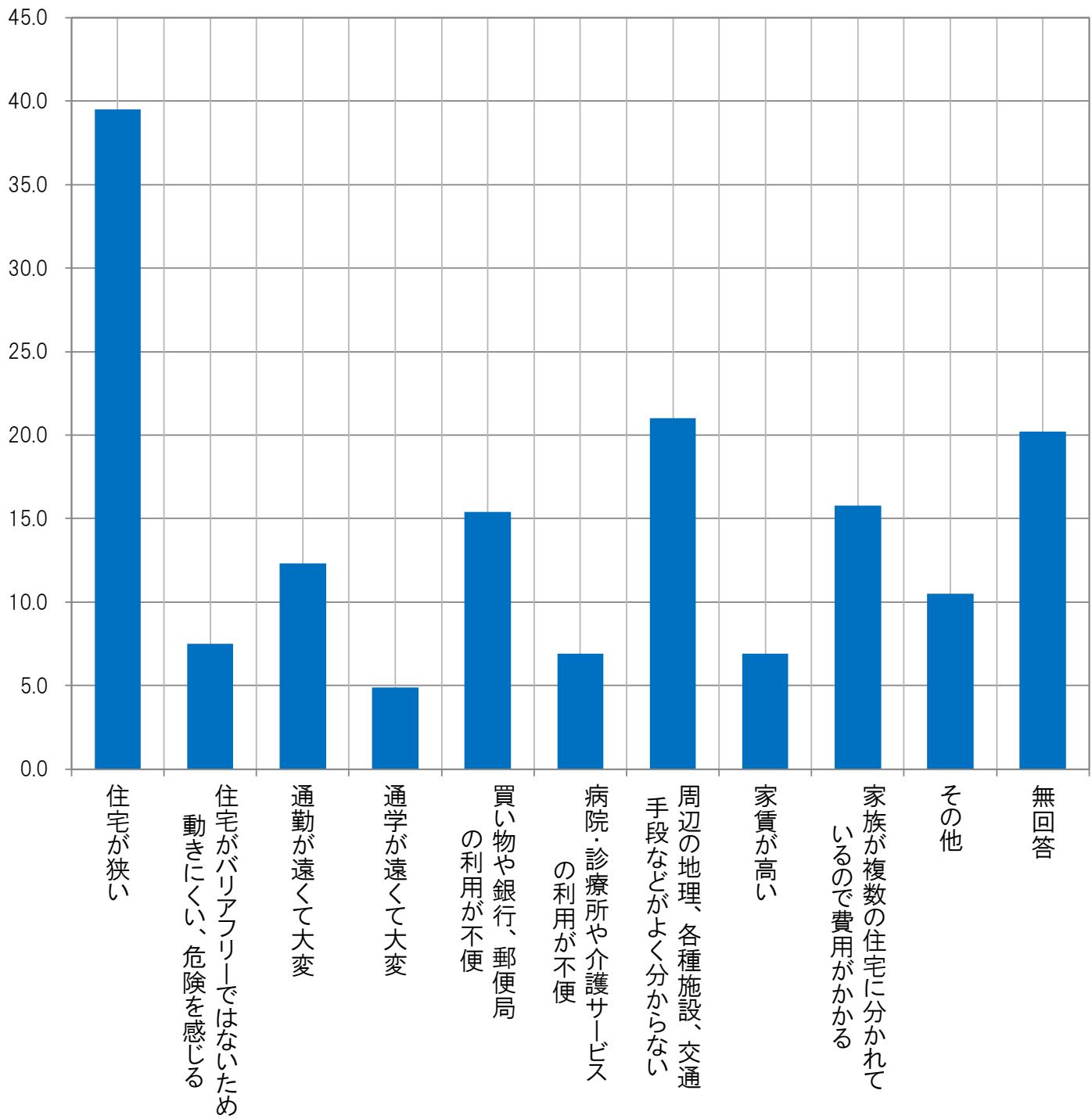
問10 現在の住宅についてお困りのことはありますか。（複数回答可）

■ 結果の概要

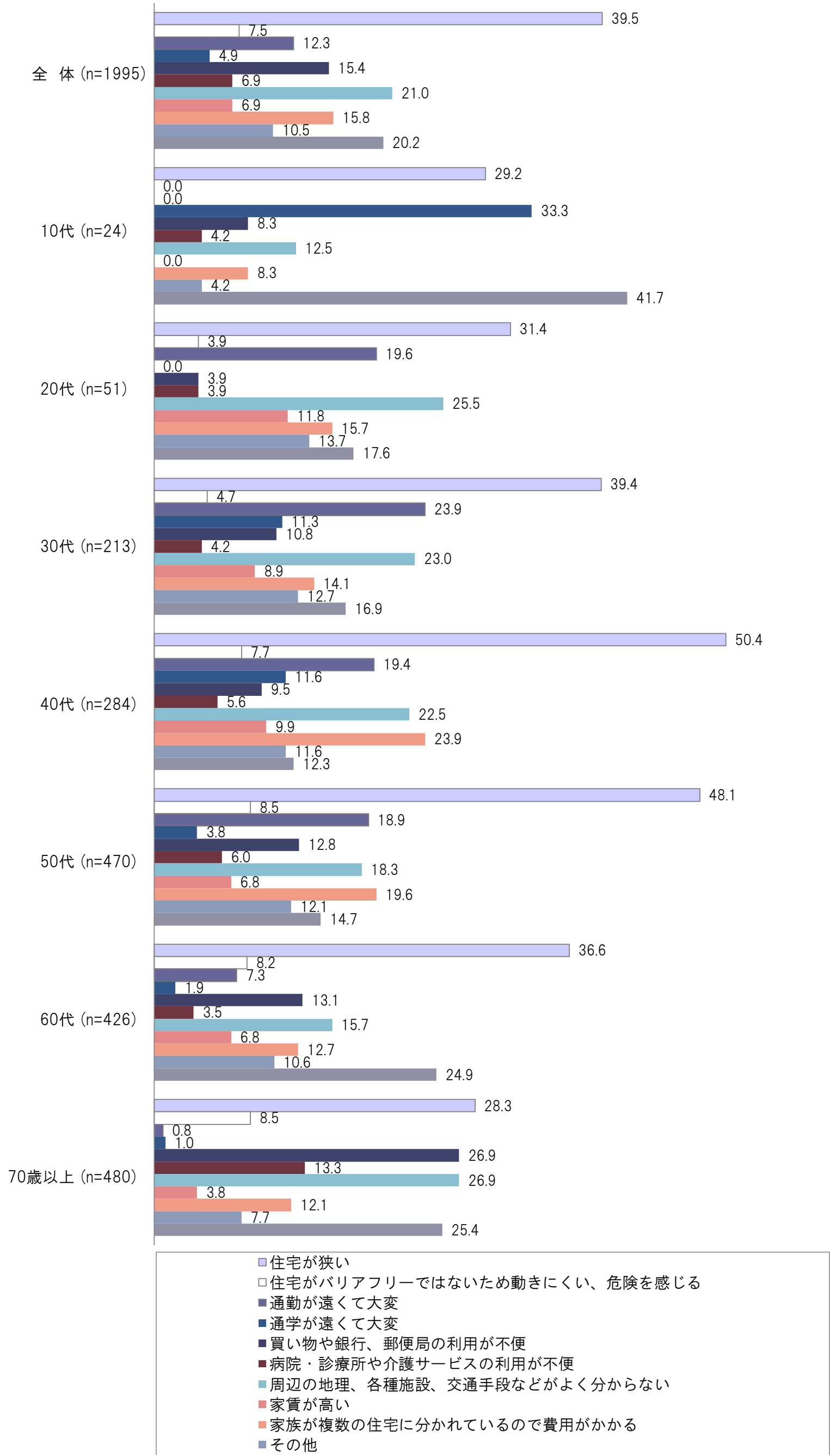
- ・最も多かった回答は「住宅が狭い」というもので、全体の約4割に上った。特に40代、50代の世帯ではそれが約半数近い。
- ・70歳以上の世代の回答には、「買い物や銀行、郵便局の利用が不便」「周辺の地理、各種施設、交通手段などがよく分からない」の回答がそれぞれ約27%あり、周辺環境の不便さや不案内を訴える割合が他の世代よりも多い。
- ・「その他」の自由記述では、生活音の問題、親戚・知人宅であることに対する気兼ね、などが挙げられている。

◆ 単純集計結果

（単位：％）



◆ 回答世代別集計結果
(単位: %)



◆ 集計表

	全 体	住 宅 が 狭 い	住 宅 が バ リ ア フ リ ー で は な い た め に 危 険 を 感 じ る	通 勤 が 遠 く て 大 変	通 学 が 遠 く て 大 変	買 い 物 や 銀 行 、 郵 便 局 の 利 用 が 不 便	病 院 ・ 診 療 所 や 介 護 サ ー ビ ス の 利 用 が 不 便	周 辺 の 地 理 、 各 種 施 設 、 交 通 手 段 な ど が よ く 分 か ら な い	家 賃 が 高 い	家 族 が 複 数 の 住 宅 に 分 か れ て い る の で 費 用 が か か る	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	788 39.5	150 7.5	245 12.3	98 4.9	307 15.4	137 6.9	419 21.0	137 6.9	315 15.8	209 10.5	403 20.2
10代	24 100.0	7 29.2	- -	- -	8 33.3	2 8.3	1 4.2	3 12.5	- -	2 8.3	1 4.2	10 41.7
20代	51 100.0	16 31.4	2 3.9	10 19.6	- -	2 3.9	2 3.9	13 25.5	6 11.8	8 15.7	7 13.7	9 17.6
30代	213 100.0	84 39.4	10 4.7	51 23.9	24 11.3	23 10.8	9 4.2	49 23.0	19 8.9	30 14.1	27 12.7	36 16.9
40代	284 100.0	143 50.4	22 7.7	55 19.4	33 11.6	27 9.5	16 5.6	64 22.5	28 9.9	68 23.9	33 11.6	35 12.3
50代	470 100.0	226 48.1	40 8.5	89 18.9	18 3.8	60 12.8	28 6.0	86 18.3	32 6.8	92 19.6	57 12.1	69 14.7
60代	426 100.0	156 36.6	35 8.2	31 7.3	8 1.9	56 13.1	15 3.5	67 15.7	29 6.8	54 12.7	45 10.6	106 24.9
70歳以上	480 100.0	136 28.3	41 8.5	4 0.8	5 1.0	129 26.9	64 13.3	129 26.9	18 3.8	58 12.1	37 7.7	122 25.4

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 ・洗濯が思うようにできない、食事の場所が遠い、帰省のたびに荷物を移動するなど大変さを感じているが、住まわせてもらっていることに親子ともども感謝しています。
【20代の回答者】 ・知らない人と一緒に暮らしているのでプライバシーがない ・駐車場がない ・庭いじりができない母がかわいそう ・賃貸期間が決められているので落ち着かない
【30代の回答者】 ・家族が多くて困る ・自立したいが千葉の借上げが未定なため実家にいる ・福島県に帰りたい ・借上げ住宅にならないので自己負担が大変 ・駐車場が一台なので2台目は料金がかかっている ・仮設だが隣室騒音(テレビ)、収納少ない ・2棟借りているが、中でつながっていないため不便 ・ガス、水道代が高い ・借上げ限度額を超えているので自己負担がある ・まだ仮設に入居していないため分からない ・家のローンと家賃の負担が大変 ・住宅が狭く祖父母が出て行った ・古い ・住宅ローンと家賃が二重に発生している ・いわきへ行きたいがアパートがない ・借上げ住宅でなくなったときが心配 ・大家とトラブルあり ・2階の住民の生活音がうるさい ・光熱費が高い(冬の暖房)、灯油の高騰 ・集合住宅なので子供たちの五月蠅さが迷惑をかけていないか心配 ・騒音がうるさい、密集していて疲れる、暑い ・住宅内に整備や修理が必要な場所がある
【40代の回答者】 ・子どもの学区内で広い部屋がほしい ・自分の居場所がない、気を使う ・アパートがない、仮設の入居ができない ・長く住むには古すぎる ・来年3月で有償になるので今後が不安 ・研修所にいるためわからない ・ダニが多い ・アパートで犬を飼っているので周りに気を使う ・お風呂が狭い ・借上げ住宅を探しているが近くにない ・長女のアパート代は自己負担 ・住みにくい ・借上げ住宅がいつまでなのか不安 ・今後賃貸住宅を探す予定。経費がかかる ・上階や隣の音がすごい ・トイレ・お風呂がない

・通学が不便 ・借りている家だが傾いている(1戸建て) ・物置が狭い ・前の棟との間隔が狭く息苦しい ・住宅が借り上げになっていない ・屋根が扉を開けておくと短く雨が入り不便 ・放射能数値が高い、いわきに転居したいが空き家がない ・暑いので困る。これから寒さが不安 ・一年間は借上げ補償があるがその後心配 ・古いので、隙間風が入ってくる。冬になると寒そう。風呂の追いだきがついていないので寒い時、体を温めない。 ・騒音(うるさいと言われ)を注意され、隣人に恐怖を感じる ・雨漏りがひどく、言ってもなおしに来なくて不安 ・階下を気にし、プライバシーが無いのでつらい ・上の階の足音がうるさい
【50代の回答者】 ・騒音公害(3件) ・仮設入居の連絡がこない、近況報告がない ・預けてあるペットと暮らしたいが、物件がない。如何にかしてほしい。 ・暑い、虫が多い ・いわき市に住むところがないため、仕事に行けない ・光熱費がかかる ・仮設もアパートも入れず知人のところにいるので早く出たいと思っているが。 ・駐車場なし、坂ばかりで狭い、犬がうるさいといわれる ・冬場の寒さ ・貸家だと自由がきかない ・水道代が高い ・上の階の子供の足音がうるさい ・母の2階の上り下りに付き添うので苦労している、手すりがないのも困る ・寮なのでプライベートがない ・収入がない上に光熱費の支払いが高い ・妻が車がないので不便 ・親戚に経済的・精神的負担をかけている ・いわき地区仮設住宅入居待ち ・アパート暮らしの経験がない為精神的な負担 ・木造なので音が響く ・家族が数箇所に分かれており心配 ・古い家なので暑さ・寒さが厳しい ・1人で住んでいるところに3月から世話に ・1年後が心配 ・銀行、郵便局等が遠く費用がかかる ・4階なので階段がきつい ・ペットがアパートに慣れない ・借上げ条件が厳しいため会社より認めてもらえない ・親戚の家なので気をつかう ・知人宅なので気がおもい ・犬がいることでの周囲の人へのストレス ・茨城県が借り上げ住宅になっていない ・居候なので自由にできない ・仮設に早く入りたい(職が決まらないから) ・ホテルの食事、対応が悪い ・駐車場代がでない ・設備が古い ・駐車スペースが1台分しかなく、他に借りているので、費用がかかる ・母親のグループホームが一ヶ月に10万程度かかるが、補助が一切ない。 ・一人暮らしの親戚宅なので家電が一人用のため3人で暮らすのに不自由している。でも日赤の家電はもらえず不公平 ・アパートを見つけようとしても物件がない ・いつまで住めるのか不安 ・駐車場が高いし、遠い ・今後の拠点をどこにすべきか ・仮設なので暑い(部屋) ・サッシから雨水が入って困る。部屋が暖かくなって困っている ・通勤にバスを使用しています。時間が間に合わずに仕事で協力が出来にくい
【60代の回答者】 ・子供たちかつるさい、スロープ付きの玄関なのでかつくに出入りされる。イベントかめると家の前にアートを運べられず ・うるさい。 ・どこにいくにも車なのでガソリン代がばかにならない ・全ての生活用品を買いそろえるため高負担 ・いつまで今の場所にいるのか不安 ・2階の住民に子供がいるのでうるさい ・知人宅を借りているが家賃を払っているので生活が成り立たなくなりそう ・雇用促進住宅だがシャワー・網戸無 ・半年しか住めないなのでその後が不安 ・集合住宅なので音等に気を使う ・共同トイレで遠くて不便 ・犬と猫と生活できる家に移りたい ・住宅に入っていない ・シックハウス症候群に罹患。そうならない住宅に移りたい ・仮設住宅に入居できない ・一階なので二階の足音が響く

- ・犬と住めない
- ・親戚の家なので気をつかう
- ・福島との往復の費用がかかる
- ・道が狭い
- ・3階なので階段がつらい、周りに気をつかう
- ・アパートの音が気になり不眠がひどい
- ・慣れない団地住まいでルールがむずかしい
- ・肩身が狭い
- ・住宅に入っていないのでわからない
- ・9/29まで無料だがその先も無料にして欲しい
- ・身内の家に居候
- ・家賃が一年は無料だか2年目からは有料
- ・食生活、光熱費等の心配
- ・精神的に疲れる
- ・生活費が少ないので心苦しい

【70代以上の回答者】

- ・風呂が旧式で不便
- ・子供が成長し原発から離れた所に住んでいるため心配がない
- ・都会なので夜遅くまでうるさい
- ・アパートの為隣近所に知り合いがいないので孤独
- ・夜でも熱気がすごい。冬季の寒さが心配
- ・トイレが和式で不便
- ・年老いていて二階は不自由
- ・仮設の期限が切れたら家賃の高い所には住めないので心配
- ・ロフトの昇り降りに危険を感じる
- ・住宅がない
- ・困ったときは役場申込みます
- ・居間と寝室にエアコンが欲しい
- ・玄関前の踏み台が高い
- ・身内とはいえ気兼ねする
- ・娘に頼っているので負担をかけている
- ・日中家族が不在のため外出に困っている
- ・娘夫婦の家なので少し遠慮がある
- ・マンション7階なので外がみれない
- ・住宅の前が駐車場なのでホコリ、エンジンの音が騒々しい
- ・借上げがなくなったら家賃が払えない
- ・平屋に住みたい
- ・無料駐車場がほしい
- ・物価が高い
- ・仮設入居予定だが部屋が狭い
- ・集合住宅3階なので階段の昇降がつらい
- ・自家用車ですが冬場の雪が心配

【設問】

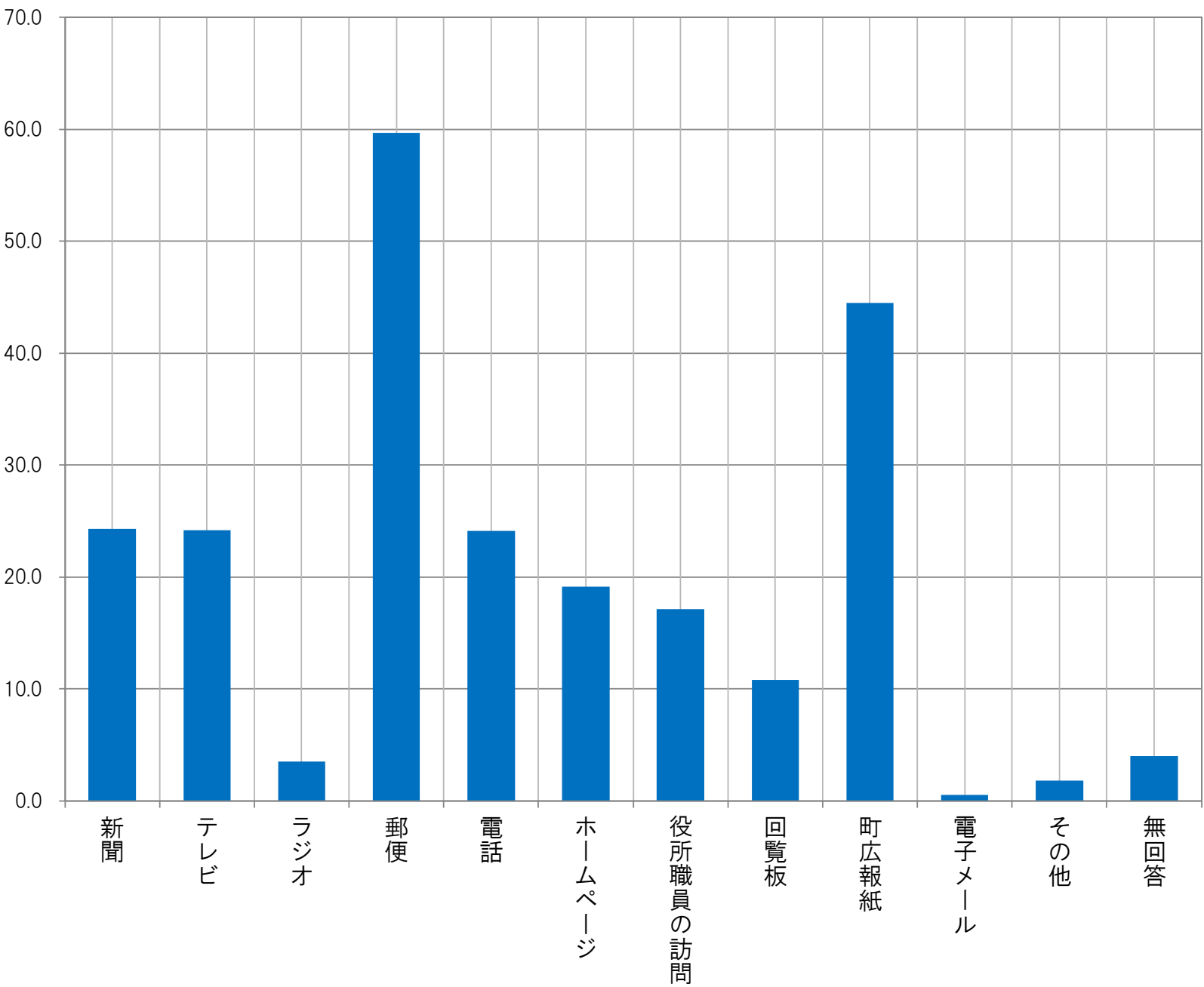
問11 被災者の支援情報や町の情報について、どのような手段で知らせて欲しいですか。（複数回答可）

■ 結果の概要

- ・ 回答者の過半数が、郵便や町広報紙での情報提供を望んでいる。ただし、20代～40代の比較的年齢が若い世帯では、ホームページでの提供を望む声も約3割に上っている。

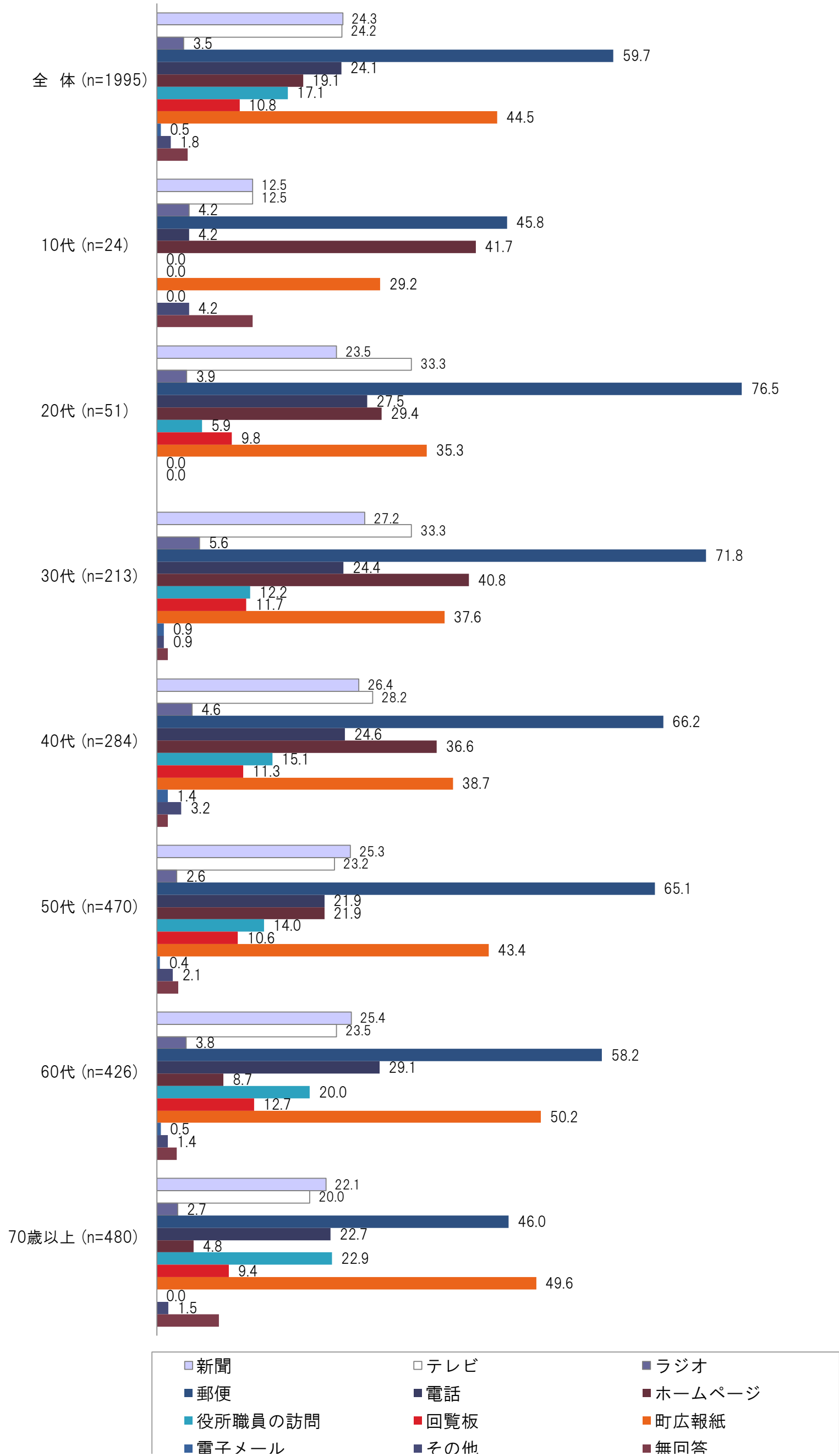
◆ 単純集計結果

（単位：％）



◆ 回答世代別集計結果

(単位: %)



◆ 集計表

	全 体	新 聞	テ レ ビ	ラ ジ オ	郵 便	電 話	ホ ー ム ペ ー ジ	役 所 職 員 の 訪 問	回 覧 板	町 広 報 紙	電 子 メ ー ル	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	484 24.3	482 24.2	69 3.5	1191 59.7	481 24.1	381 19.1	342 17.1	216 10.8	888 44.5	10 0.5	35 1.8	80 4.0
10代	24 100.0	3 12.5	3 12.5	1 4.2	11 45.8	1 4.2	10 41.7	- -	- -	7 29.2	- -	1 4.2	3 12.5
20代	51 100.0	12 23.5	17 33.3	2 3.9	39 76.5	14 27.5	15 29.4	3 5.9	5 9.8	18 35.3	- -	- -	- -
30代	213 100.0	58 27.2	71 33.3	12 5.6	153 71.8	52 24.4	87 40.8	26 12.2	25 11.7	80 37.6	2 0.9	2 0.9	3 1.4
40代	284 100.0	75 26.4	80 28.2	13 4.6	188 66.2	70 24.6	104 36.6	43 15.1	32 11.3	110 38.7	4 1.4	9 3.2	4 1.4
50代	470 100.0	119 25.3	109 23.2	12 2.6	306 65.1	103 21.9	103 21.9	66 14.0	50 10.6	204 43.4	2 0.4	10 2.1	13 2.8
60代	426 100.0	108 25.4	100 23.5	16 3.8	248 58.2	124 29.1	37 8.7	85 20.0	54 12.7	214 50.2	2 0.5	6 1.4	11 2.6
70歳以上	480 100.0	106 22.1	96 20.0	13 2.7	221 46.0	109 22.7	23 4.8	110 22.9	45 9.4	238 49.6	- -	7 1.5	39 8.1

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 ・アカデミーを通じてで充分
【20代の回答者】 ・郵送は大変そう。郵送の代金も気になる。アンケートをとって希望者には必要な情報をインターネットで流してもらえたらそれで十分
【30代の回答者】 ・ツイッター、フェイスブック、ブログ ・メディアの有効活用
【40代の回答者】 ・友人・知人から(3件) ・パソコンを集会所で使えるようにしてほしい ・支援センター ・携帯電話
【50代の回答者】 ・友人・知人からの情報(2件) ・広報を定期的に郵送して欲しい ・広報を月3回くらい欲しい ・月に一回集会 ・集会
【60代の回答者】 ・友人・知人からの情報(2件) ・近隣の避難者 ・私の所にはないが、他の家には職員が訪問しているのか
【70代以上の回答者】 ・本当のことを知らせてほしい ・回覧 ・知人 ・避難して1度も物資が来なかった ・集会所等で説明会

【設問】

問 1 2 今後どのような情報を知りたいですか。ご自由にお書きください。（自由記述）

■ 結果の概要

- ・「町の復興に関する情報」を知りたいという意見は全体の約30%であり、帰町に関する町の考え方やビジョン、帰町の時期への関心が高い。
- ・「現在の町の活動に関する情報」「原発事故に関する情報」を知りたいという意見は全体の約16%を占めており、原発事故に対する正確かつ分かりやすい情報とこれに伴う町の対応状況の情報を望む意見が多い。また、行政や町民が交流するための説明会やイベント開催に関する連絡を望む意見も見られる。
- ・現在立入が制限されている「警戒区域内における現在の情報」では、世帯単位における現在の状況が把握できる情報を知りたいとの声が多い。
- ・一方で「情報伝達方法に関する町民からの要望」に関する意見も多く見られた。具体的には、自主避難者や借上住宅避難者に対しても、仮設住宅避難者と同じように情報提供してもらいたいことや、これらの情報提供の迅速性を高めるための仕組み面での提案などである。

◆意見の分類

自由意見の回答者数は1, 024人で1, 447件の意見があった。あった。これらの意見を以下の「意見の分類」に基づきに15種に分類した。これらの意見の主なものを「主な自由記述」に示す。主な自由記述は回答を要約している。

意見の分類	件数	割合
現在の町の活動に関する情報	146	10.1%
原発事故に関する情報	90	6.2%
警戒区域内における現在の情報	98	6.8%
避難先の暮らしに関する情報	52	3.6%
健康・福祉に関する情報	15	1.0%
子どもに関する情報	29	2.0%
生活支援・補償に関する情報	133	9.2%
町の復興に関する情報	426	29.4%
放射線・除染に関する情報	241	16.7%
住宅再建・ライフラインの復旧に関する情報	56	3.9%
ガレキ処理	4	0.3%
雇用や産業の再生に関する情報	13	0.9%
本アンケートに関する情報	6	0.4%
その他（情報伝達方法に関する町民からの要望）	91	6.3%
その他（上記以外の主なコメント）	47	3.2%
合計	1447	100.0%

◆主な自由記述

○現在の町の活動に関する情報（意見数：146）

- ・町長の考え
- ・町長・町議の活動情報
- ・町役場としての活動状況
- ・町が国、県、東京電力に対してどのような事を要望し、その事に対して、どのような事を答えているのか
- ・町民の所在（住所・電話連絡先）
- ・行政からの説明会やイベントの情報
- ・町民同士が交流できるイベント情報
- ・町民の冠婚葬祭の情報
- ・町民への役場としてどのようなフォローをしているのか知りたい
- ・町民からの要望・質問やこれに対する回答の情報開示してほしい
- ・今後町がどのように住民に対して情報を共有するかの方法が知りたい
- ・檜葉中の友だちが今どこでどんなふうにながらっているか、知りたい
- ・新聞等に発表される記事の分かりやすい内容説明

○原発事故に関する情報（意見数：90）

- ・原発事故対応状況に関する正確な情報
- ・原発内の作業内容
- ・原発事故収束の見通しと分かりやすい説明
- ・第二原発の今後の行方

○警戒区域内における現在の情報（意見数：98）

- ・町内の警備状況
- ・犯罪発生状況（空き巣被害）
- ・家屋の劣化、破壊状態
- ・お墓の情報
- ・敷地内映像情報
- ・公共施設やライフラインに関する情報
- ・地震・津波被害地区における被害状況（写真で）
- ・屋根へブルーシートを張っているかに関する情報
- ・ライブカメラよる町内の情報
- ・警戒区域内の作業の様子
- ・ペットの保護状況、目撃情報
- ・家畜の状況

- 避難先の暮らしに関する情報（意見数：52）
 - ・町民の避難先仮設住宅マップのような情報
 - ・仮設住宅入居募集・応募方法・入居日に関する情報
 - ・避難所・仮設住宅の使用期限
 - ・生活費支出負担を軽減できる買い物やバザーに関する情報
 - ・いわき市の一般賃貸住宅の空き家に関する情報
 - ・借上げ住宅に関する情報
 - ・避難先近隣の店舗・公共施設・交通機関に関する情報
 - ・仮設住宅建設の進捗に関する情報
 - ・福島産の農作物に関する摂取に関する情報
- 健康・福祉に関する情報（意見数：15）
 - ・健康被害に関する情報が知りたい
 - ・老人福祉施設の再開に関する情報
 - ・障害者に対する日中一時支援、デイサービス、ショートステイ等の情報
 - ・内部被ばくに関する検査スケジュール
- 子どもに関する情報（意見数：29）
 - ・子どもの健康診断
 - ・同級生や先生の近況
 - ・学校の再開時期
 - ・教育のサポート
 - ・教育に関するボランティアの実施状況
（仮設住宅集会所で学生ボランティアが勉強を教えている）
 - ・通学バス
 - ・来春の受験情報や受験生への支援制度
- 生活支援・補償に関する情報（意見数：133）
 - ・支援物資がどこでいつ配られるのかを知りたい
 - ・支援物資提供に係る申請締切日を知りたい
 - ・詳しい生活支援の情報を知りたい
 - ・県外避難者への支援の情報
 - ・今後の補償（家・土地等）に関する情報が知りたい。
 - ・県外に避難した際のアパート代の補償に関する情報が知りたい
 - ・農業への補償について知りたい
 - ・休業損害の補償に関する情報が知りたい
 - ・高齢者が介護施設に入所し、入所費用の補償に関する情報が知りたい
 - ・支援金、義援金の募金金額、町民への配布金額、配布時期を知りたい
 - ・2重ローンへの対応策について知りたい
 - ・税金がどうなるのか知りたい。
 - ・補償はいつまで受けられるのかを知りたい
 - ・宅地・住宅買い上げの情報が知りたい。
 - ・仮設住宅から一般住宅へ引越した場合の補償
- 町の復興に関する情報（意見数：426）
 - ・復興に関する町の考え方・ビジョン
 - ・町の復興に関する進捗状況
 - ・復興計画・スケジュール
 - ・原発に対する町の考え方
 - ・町へ戻る日処や帰還時期
 - ・農業・産業に対する先の見通し・計画
 - ・安全に暮らせる時期
- 放射線・除染に関する情報（意見数：241）
 - ・自宅や町内各地区の汚染状況
 - ・水道水・地下水・海水・河川の汚染状況
 - ・森林・田畑の汚染状況
 - ・公共施設の汚染状況
 - ・町内各地区のモニタリング情報（ホームページで毎日更新）
 - ・町内のホットスポット地域
 - ・避難先周辺のモニタリング情報
 - ・町内の年間推定被ばく量
 - ・町内の除染情報・スケジュール
 - ・放射線の人体への影響に関する知識（子どもへの影響・内部被ばく・年齢と被ばく量の関係）
 - ・家・田・畑の除染法や農作物の作付出来る時期。
 - ・楢葉町を取り囲む周辺地区の放射能測定分布図
 - ・これから、秋～冬に向かっての放射能の移動分布
- 住宅再建・ライフラインの復旧に関する情報（意見数：56）
 - ・ライフラインの回復状況と段取り
 - ・自宅再建に向けた行政のサポートに関する情報
 - ・津波被害を受けた住民の対処法
- ガレキ処理方法に関する情報（意見数：4）
 - ・最終処分場のゆくえ
 - ・自宅の片付け時に発生する廃棄物の処理方法
- 雇用や産業の再生に関する情報（意見数：13）
 - ・避難先における求人情報
 - ・被災者の雇用状況
 - ・帰町後の雇用斡旋に関する町の考え方

○本アンケートに関する情報（意見数：6） ・本アンケートの集計結果 ・本アンケートの活用状況
○その他（情報伝達方法に関する町民からの要望）（意見数：91） ・自主避難者や借上住宅避難者に対しても、仮設住宅避難者と同じように情報提供してもらいたい。 ・情報提供を早くしてもらいたい。 ・町の広報紙の回数を増やして欲しい。 ・パソコンが使えず、ホームページの情報が見られない。インターネットの使えるパソコンを支給してもらいたい。 ・広報無線機を提供してもらいたい。 ・町民同士が意見交換できるようなくがき帳のようなコーナーを設けるとよい。 ・町長と町民の話し合いの場所を作ってもらいたい。 ・テレビでは、双葉町・大熊町は映るが、楢葉町の状況は映らない。町の情報をテレビで映してほしい。 ・高齢者はカタカナの文字は分からない。日本語で分かりやすい説明をお願いしたい。
○その他（上記以外の主なコメント）（意見数：47） ・各種情報を（正確な）知りたいが偽りと隠ペイで情報自体が当てにならない。 ・何事に至急住民に情報を知らせる事の責任感を持ってもらう事。 ・役場をいわき市に設置してほしい。 ・遺失物の情報と公開はやめにしてほしい。 ・一時帰宅を申込をしなかったので2回目を早くしてほしい。 ・楢葉町民と広野町民と一緒にホテル下の湯にお世話になっているが、広野の役場職員は週に一回は訪問してくれる。そこから仮設住宅等の話は聞こえてくるが、当楢葉の職員は電話しても忙しくての一点張りだけ。 ・自主避難者にも、親切、心身になった対応を希望する。 ・多すぎて判らない。 ・町長選は24年4月に必ず実施してほしい ・楢葉町へ行っても流れがわかりません。申込みをしても、その係の方に伝わっていない。何辺も足をはこぶことありました。そんな事のないようお願いします。 ・何が知りたいかではなく、発信してくれなければ何も知りえようがないため、知っている情報は何でも発信していただきたい。

【設問】

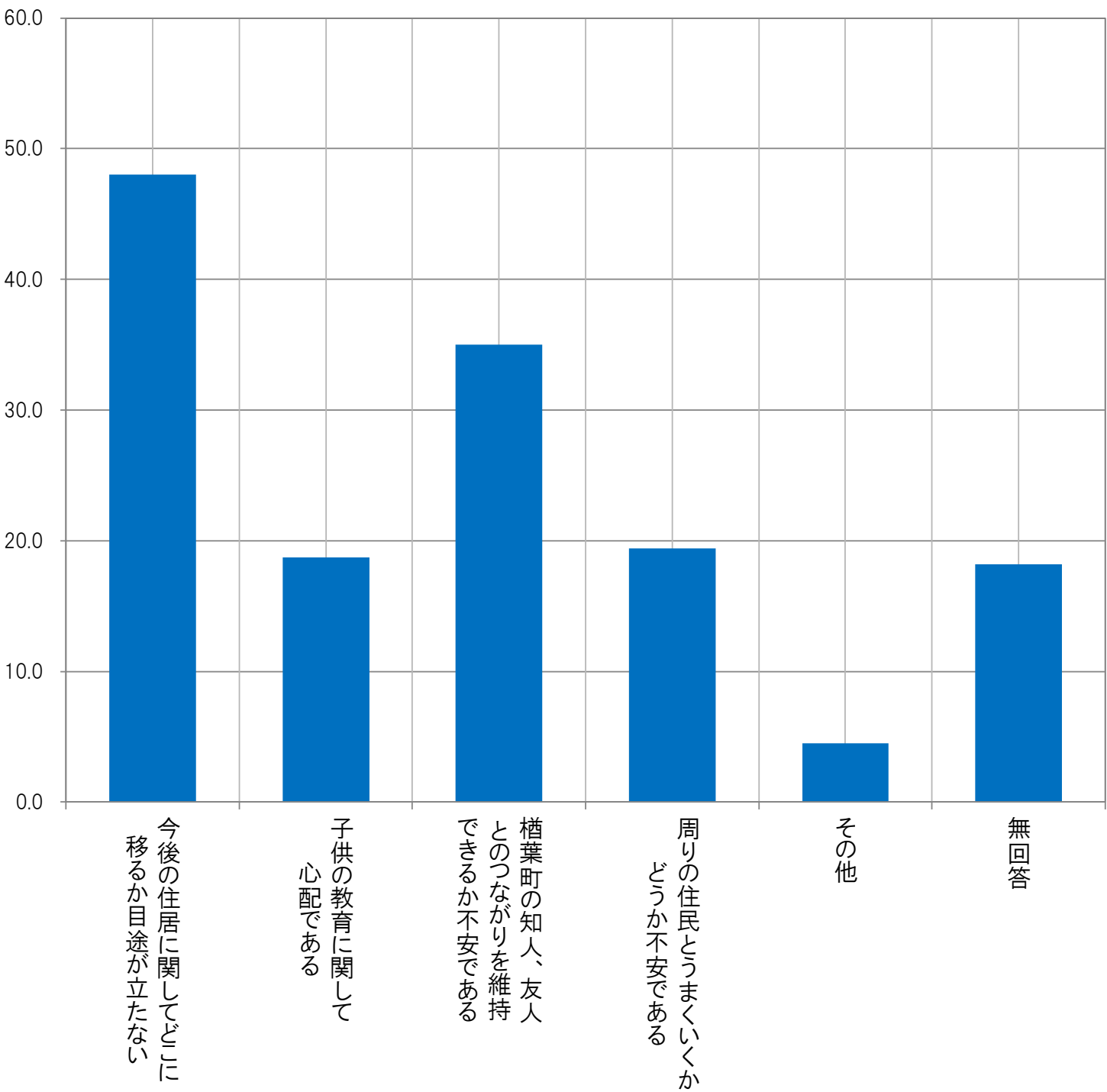
問13 生活環境についてお聞きします。（複数回答可）

■ 結果の概要

- ・「今後の住居の目途が立たない」という回答が約半数と最も多く、次いで、榑葉町の知人・友人とのつながりという従前コミュニティの維持に不安を感じているとの回答が35%となっている。また、子供の教育、周りの住民との関係に対する不安も、それぞれ2割近くが感じている。
- ・年齢別に見ると、特に30代、40代において、子供の教育に対する不安を訴える世帯の割合が高い。一方で、従前コミュニティの維持に不安を感じるとの声は、年齢が高くなるにつれて多くなっている。

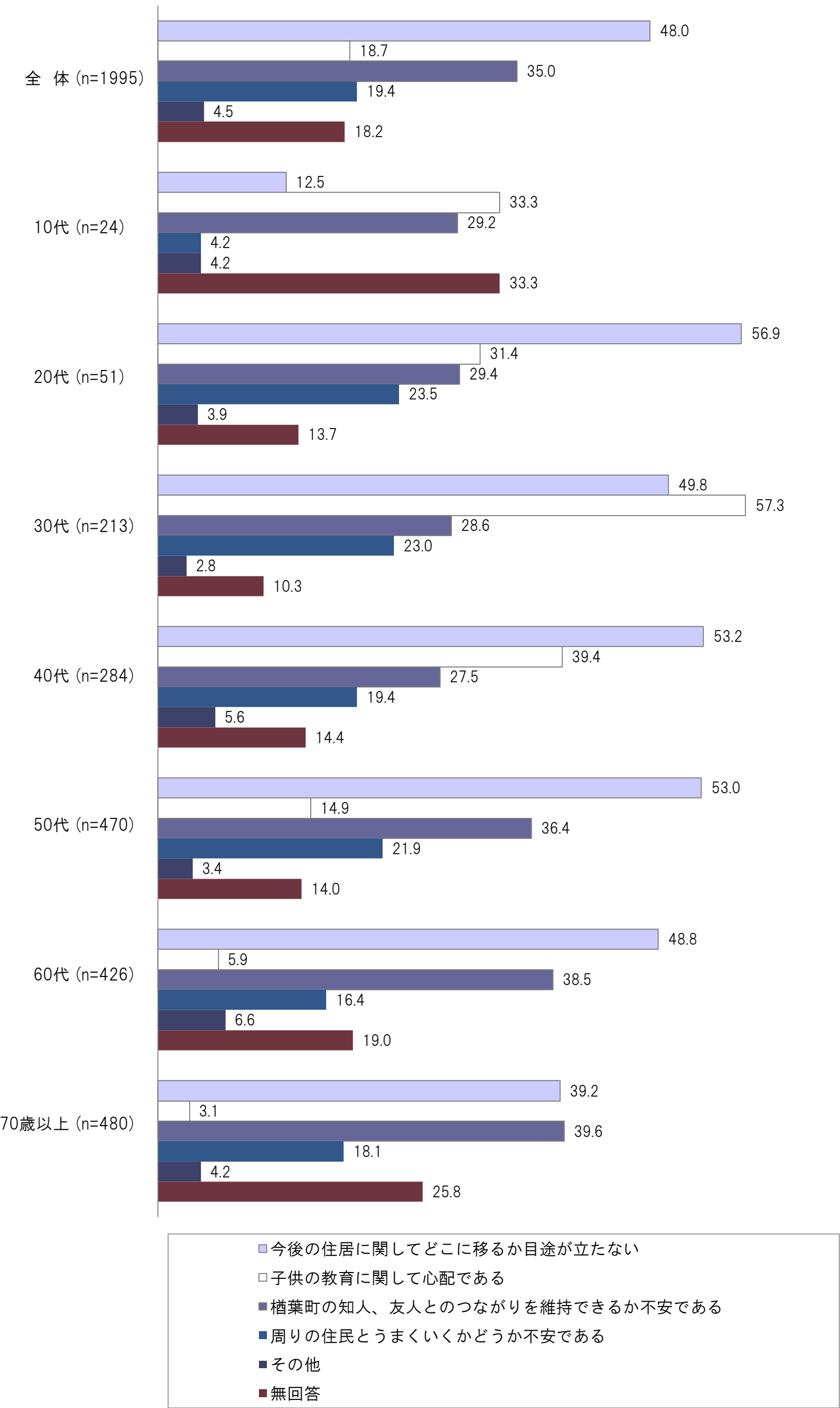
◆ 単純集計結果

（単位：％）



◆ 回答世代別集計結果

(単位: %)



◆ 集計表

	全 体	か 今 目 途 の 住 居 に 関 し て ど こ に 移 る	子 供 の 教 育 に 関 し て 心 配 で あ る	り 植 を 維 持 で き る か 友 人 と の あ つ な が	か 周 り の 住 民 と う ま く い く か ど う	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	957 48.0	374 18.7	698 35.0	387 19.4	89 4.5	363 18.2
10代	24 100.0	3 12.5	8 33.3	7 29.2	1 4.2	1 4.2	8 33.3
20代	51 100.0	29 56.9	16 31.4	15 29.4	12 23.5	2 3.9	7 13.7
30代	213 100.0	106 49.8	122 57.3	61 28.6	49 23.0	6 2.8	22 10.3
40代	284 100.0	151 53.2	112 39.4	78 27.5	55 19.4	16 5.6	41 14.4
50代	470 100.0	249 53.0	70 14.9	171 36.4	103 21.9	16 3.4	66 14.0
60代	426 100.0	208 48.8	25 5.9	164 38.5	70 16.4	28 6.6	81 19.0
70歳以上	480 100.0	188 39.2	15 3.1	190 39.6	87 18.1	20 4.2	124 25.8

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 ・アカデミー福島の指示待ち
【20代の回答者】 (なし)
【30代の回答者】 ・住宅ローンが心配 ・放射線量が心配 ・世帯主が単身赴任で妻・子供が心配
【40代の回答者】 ・町営住宅に入居したい ・長期間帰宅できないならいわきに居住する ・今の生活に満足しているので檜葉に戻れと言われるのか不安 ・グループホームが見つからない ・行政サービスに不安 ・先の見通しが不安 ・仕事のめどがつかない ・騒音を気にせず生活できる所へ移りたい ・檜葉の家に住める状態ではない(家の中に虫などで) ・プライバシーが無いのでつらい
【50代の回答者】 ・いつ戻れるのか(2件) ・いわきに移りたいので詳しい情報が欲しい ・放射線の確実な除染を望む ・いつまでこの状況が続くのか不安 ・親、自分、子供、別々の生活をしており今後の拠点をなやんでいる ・福島県にいて大丈夫なのか心配 ・自宅がほとんどダメなので、修理代や住めるようになるまで時間がかかる ・放射能が心配 ・仕事をしているため、周りの住民の方の名もほとんど分からない ・なるようになる
【60代の回答者】 ・何の不満もない(2件) ・自分の家に戻りたい ・仮設住宅に移ってからのが想像できない ・家賃が有料になった時どこに移るか不安 ・病院の詳しい情報が欲しい(診療科等) ・町内に積った放射線量が心配 ・犬・猫と仲良く、みんなと仲良くできます ・食事が偏り調子が悪くなりそう ・借り上げ期間後が不安 ・自分の家がありながらお金を出して住まなければならないのが納得いかない ・冬期の生活環境(寒さ、降雪量) ・元の生活に戻りたい ・檜葉町に帰りたい ・今のところはうまくいっている

【70代以上の回答者】
・週4回のデイサービスを利用し、痴呆が出てきているので息子家族との同居に迷惑をかけ負担が多くなることを心配
・仮設住宅
・施設入居期限以降何れの特養か困っている(娘代筆)
・一日でも早く帰りたい
・帰れると思っている
・部落ごとに月一回座談会
・除染後居住できる見通しはありのか
・住めるか不安
・現在の避難地の線量が高く不安
・福島県に戻りたい
・若い人たちが楢葉にもどるのか
・今後の住宅について不安
・老人ホームの再開希望
・古里以外考えない。
・以前と同施設(リリ園)を再生して欲しい
・特老ホームの入所を待っている

【設問】

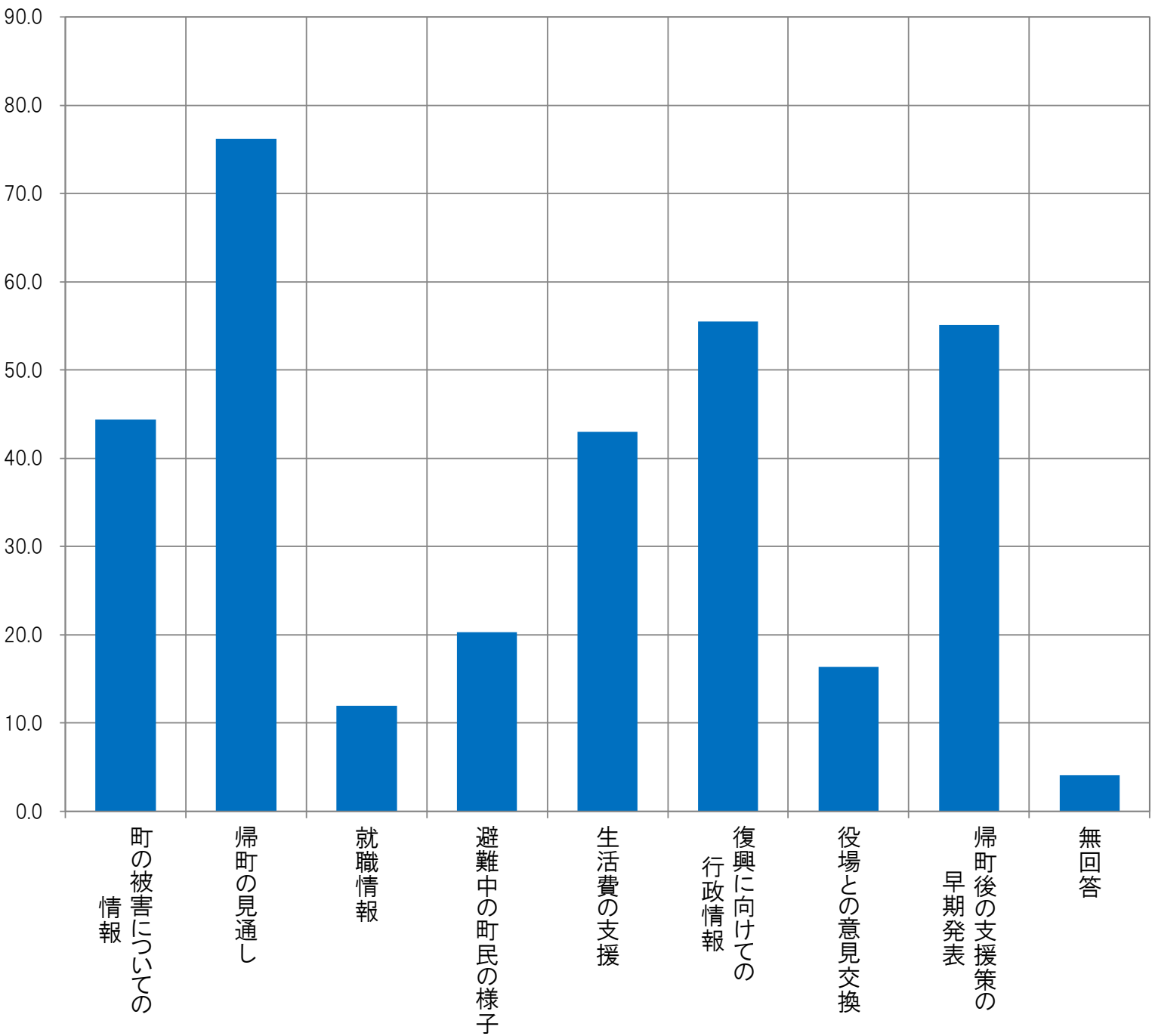
問14 今、行政に要望したい内容についておたずねします。（複数回答可）

■ 結果の概要

- ・「帰町の見通し」を求める声が約76%と非常に多く、次いで、「復興に向けての行政情報」「帰町後の支援策の早期発表」がそれぞれ約55%となっている。また、20代、30代の比較的若い世代において、「生活費の支援」という回答がやや多くなっている。

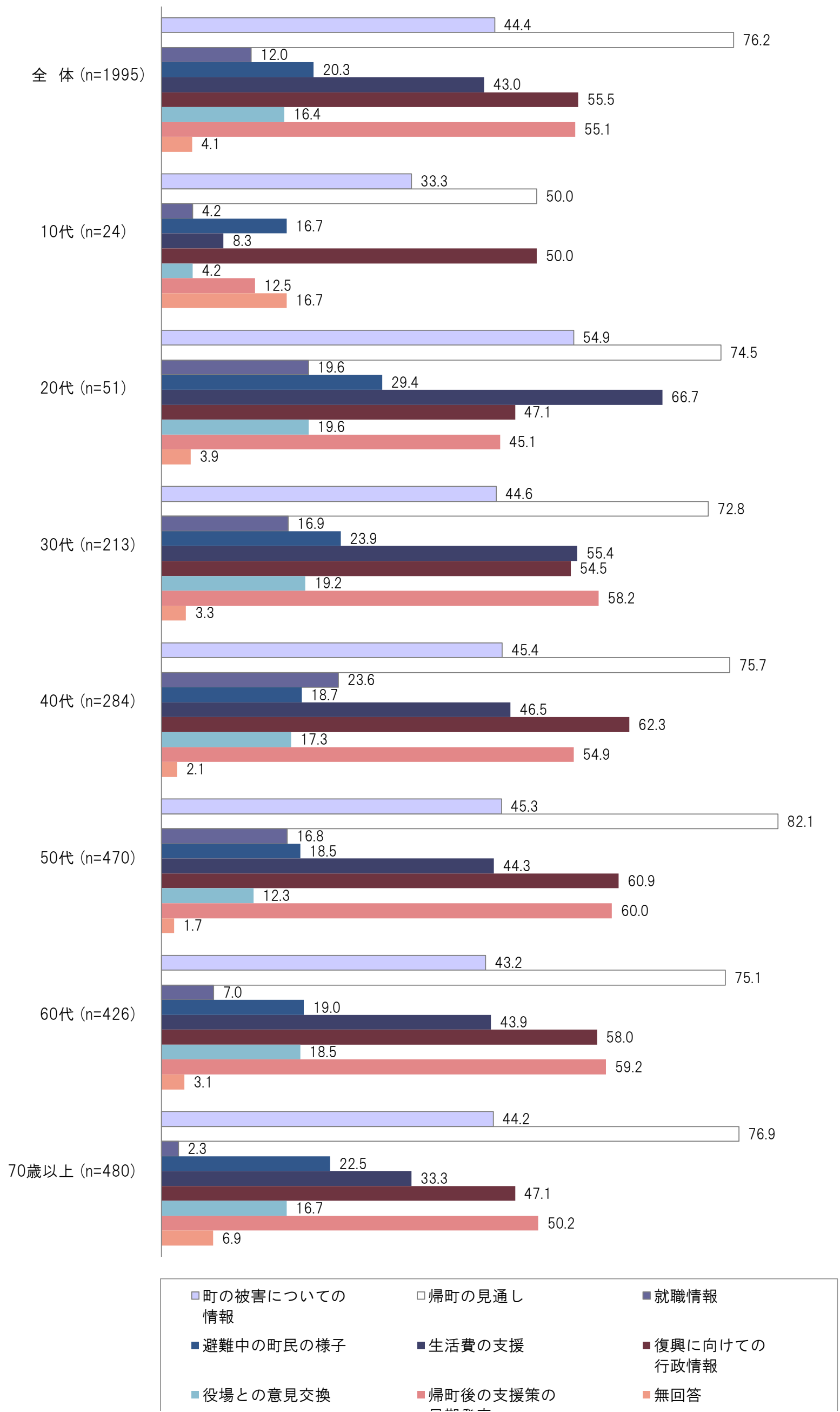
◆ 単純集計結果

（単位：％）



◆ 回答世代別集計結果

(単位：％)



◆ 集計表

	全 体	町 の 被 害 に つ い て の 情 報	帰 町 の 見 通 し	就 職 情 報	避 難 中 の 町 民 の 様 子	生 活 費 の 支 援	復 興 に 向 け て の 行 政 情 報	役 場 と の 意 見 交 換	帰 町 後 の 支 援 策 の 早 期 発 表	無 回 答
全 体	1995 100.0	885 44.4	1520 76.2	240 12.0	404 20.3	857 43.0	1108 55.5	327 16.4	1099 55.1	82 4.1
10代	24 100.0	8 33.3	12 50.0	1 4.2	4 16.7	2 8.3	12 50.0	1 4.2	3 12.5	4 16.7
20代	51 100.0	28 54.9	38 74.5	10 19.6	15 29.4	34 66.7	24 47.1	10 19.6	23 45.1	2 3.9
30代	213 100.0	95 44.6	155 72.8	36 16.9	51 23.9	118 55.4	116 54.5	41 19.2	124 58.2	7 3.3
40代	284 100.0	129 45.4	215 75.7	67 23.6	53 18.7	132 46.5	177 62.3	49 17.3	156 54.9	6 2.1
50代	470 100.0	213 45.3	386 82.1	79 16.8	87 18.5	208 44.3	286 60.9	58 12.3	282 60.0	8 1.7
60代	426 100.0	184 43.2	320 75.1	30 7.0	81 19.0	187 43.9	247 58.0	79 18.5	252 59.2	13 3.1
70歳以上	480 100.0	212 44.2	369 76.9	11 2.3	108 22.5	160 33.3	226 47.1	80 16.7	241 50.2	33 6.9

2. 2. 2 檜葉町への帰町

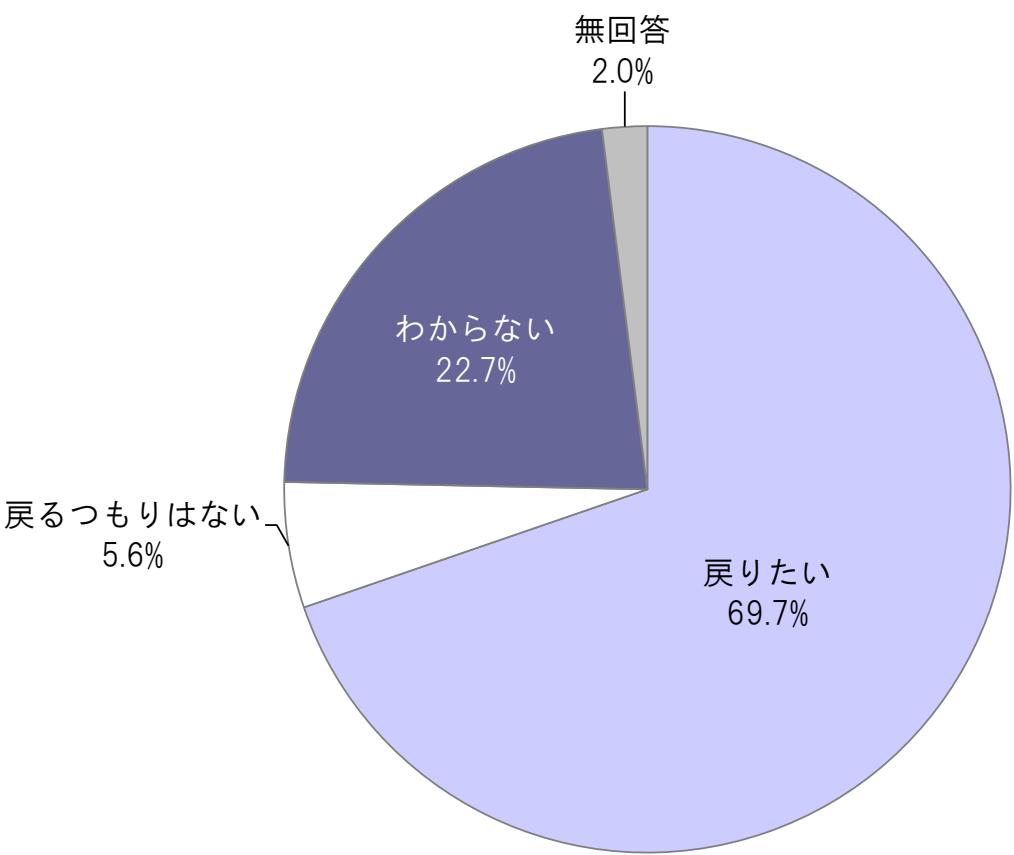
【設問】

問15 あなたは、檜葉町へ戻ろうと考えていますか。(1つに○印)

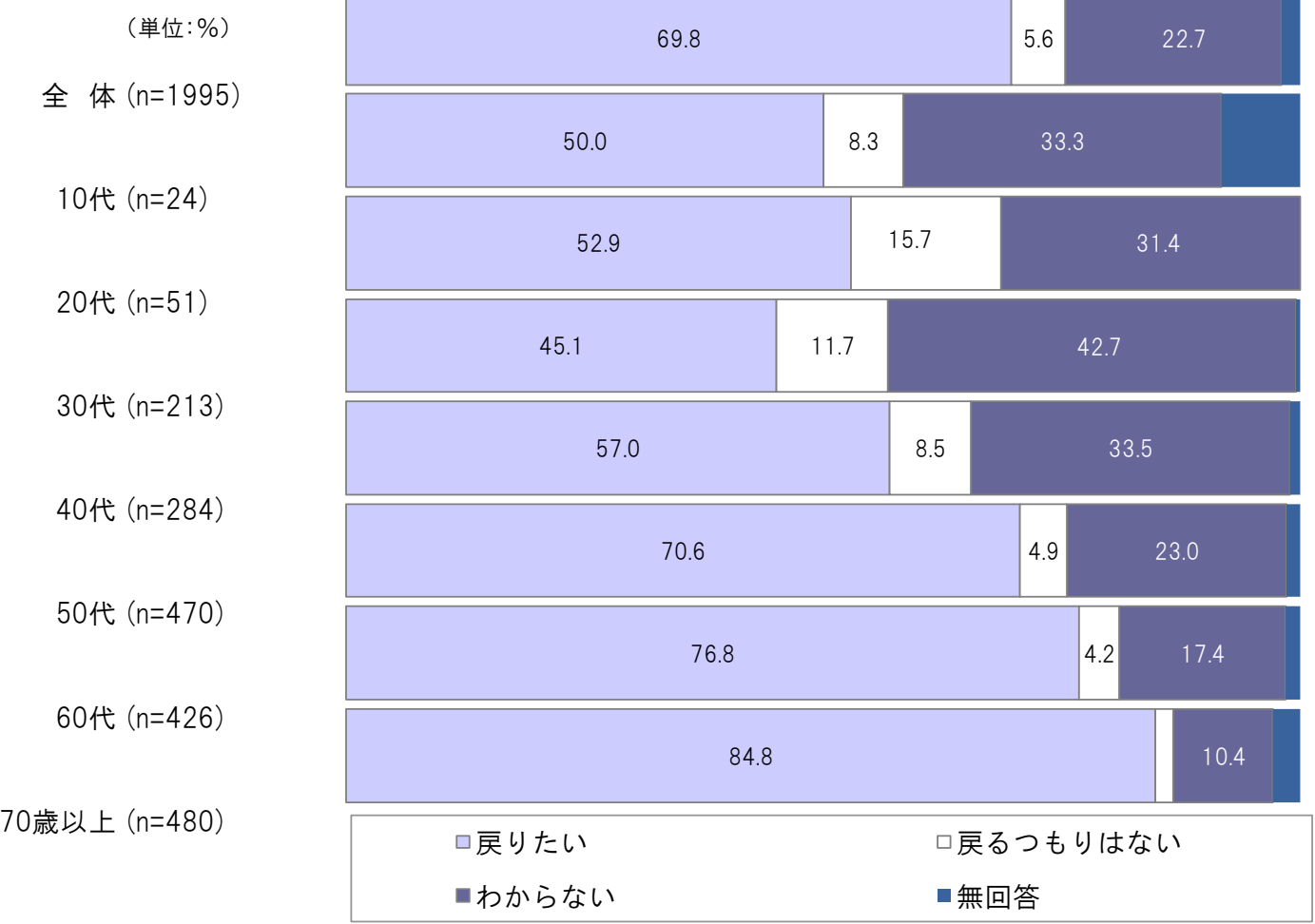
■ 結果の概要

- ・「戻りたい」という回答は約7割と最も多く、「戻るつもりはない」という回答は約6%にとどまっている。しかし、2割を超える世帯が「わからない」としており、現状では意思決定できない状況にあることが伺える。
- ・年齢別に見ると、20代、30代、40代の比較的若い世代において、「わからない」「戻るつもりはない」とする回答が多くなっている。一方、50代以上の世帯については、いずれの年代も7割以上が「戻りたい」と回答し、特に70代以上では約85%を占めている。

◆ 単純集計結果

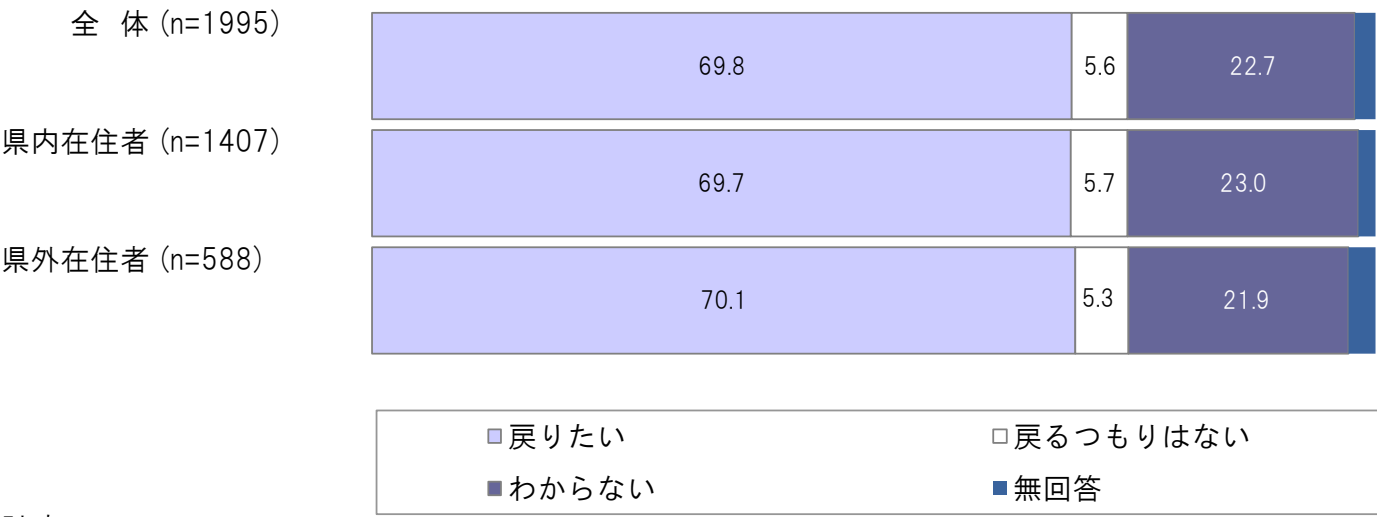


◆ 回答世代別集計結果



◆ 現在の住まい(県内/県外在住者)別集計結果

(単位:%)



◆ 集計表

	全 体	戻 り た い	戻 る つ も り は な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	1995 100.0	1392 69.8	111 5.6	452 22.7	40 2.0
10代	24 100.0	12 50.0	2 8.3	8 33.3	2 8.3
20代	51 100.0	27 52.9	8 15.7	16 31.4	- -
30代	213 100.0	96 45.1	25 11.7	91 42.7	1 0.5
40代	284 100.0	162 57.0	24 8.5	95 33.5	3 1.1
50代	470 100.0	332 70.6	23 4.9	108 23.0	7 1.5
60代	426 100.0	327 76.8	18 4.2	74 17.4	7 1.6
70歳以上	480 100.0	407 84.8	9 1.9	50 10.4	14 2.9

クロス集計(【帰町意思】×【現在の住まい(県内/県外在住者)】)

	全 体	戻 り た い	戻 る つ も り は な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	1995 100.0	1392 69.8	111 5.6	452 22.7	40 2.0
県内在住者	1407 100.0	980 69.7	80 5.7	323 23.0	24 1.7
県外在住者	588 100.0	412 70.1	31 5.3	129 21.9	16 2.7

【設問】

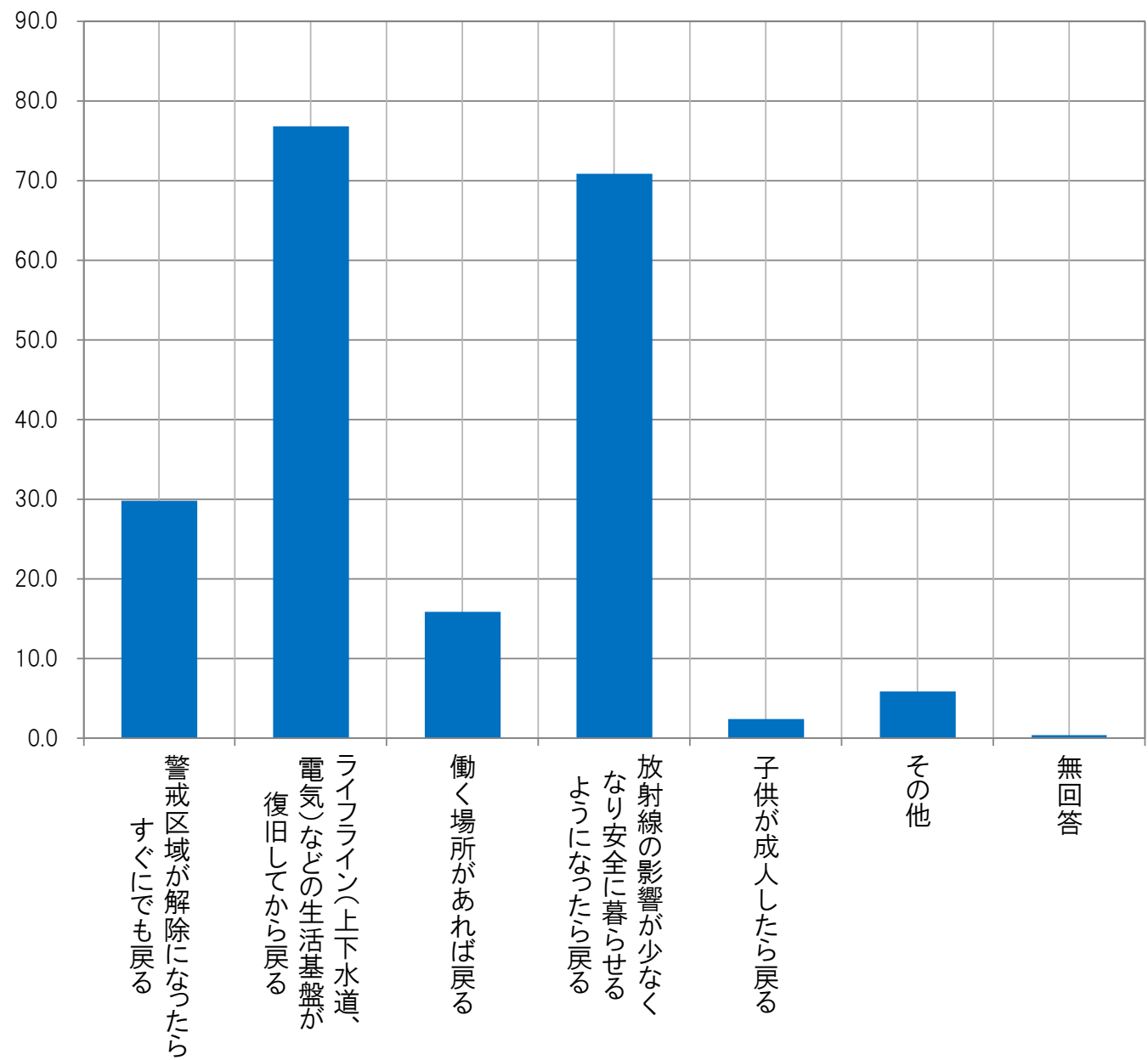
問16 問15で「戻りたい」と答えた方にうかがいます。あなたは、櫛葉町がどのような状況になったら戻ろうと考えていますか。（複数回答可）

■ 結果の概要

- ・「ライフライン（上下水道、電気）などの生活基盤が復旧してから戻る」「放射線の影響が少なくなり安全に暮らせるようになったら戻る」を選ぶ割合がともに7割を超えている。また、「その他」の自由記述には、役場、病院、学校、高齢者福祉施設等の機能回復を挙げている回答が目立つ。これらのことから、放射線の影響低減とともに、ライフラインをはじめとする生活基盤の機能回復が、帰町的前提であると考えられる。
- ・年齢別に見ると、70歳以上の世代では約4割が「警戒区域が解除になったらすぐにでも戻る」を選び、他の世代よりも早期に戻りたいと考える人が多い。

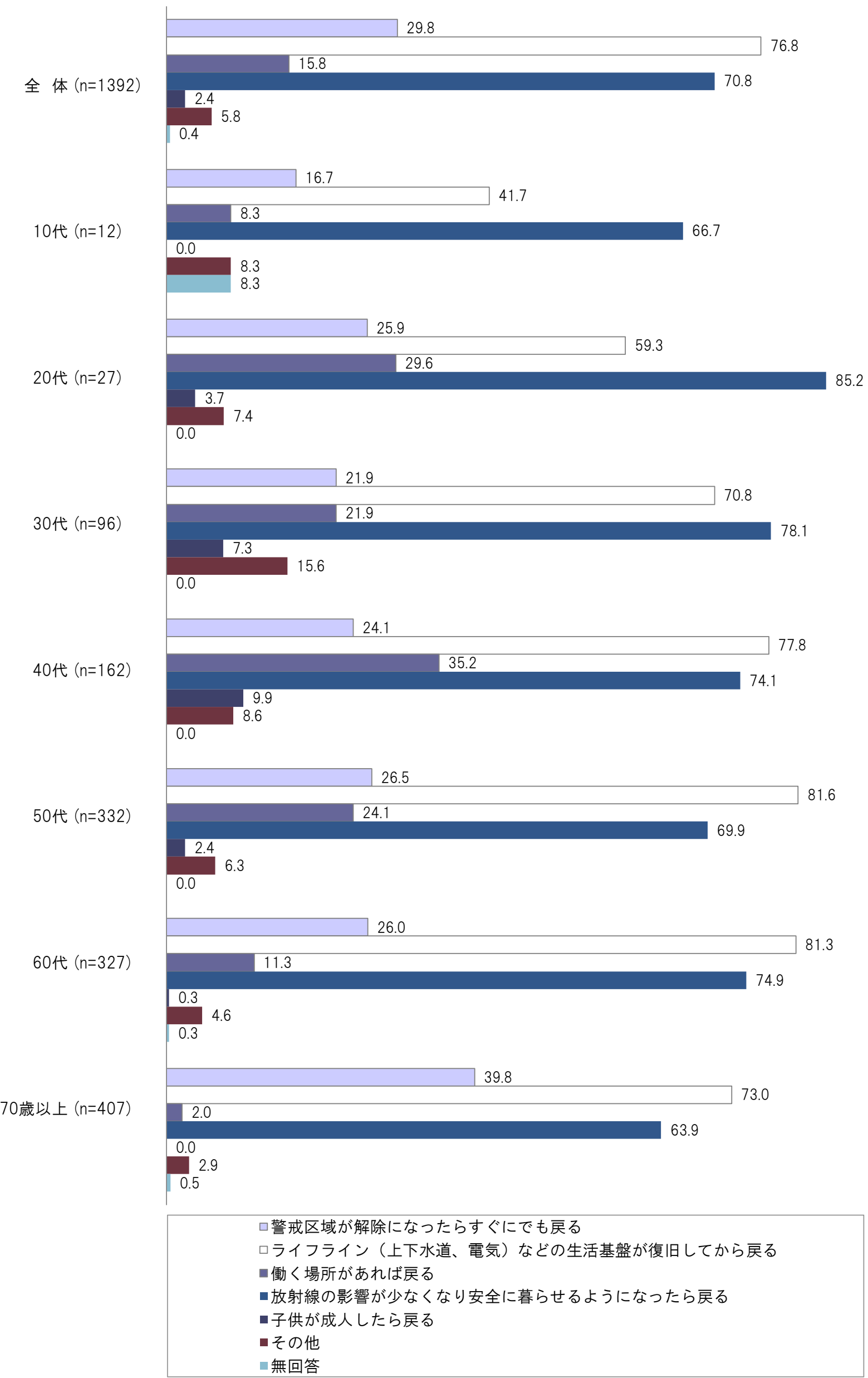
◆ 単純集計結果

（単位：％）



◆ 回答世代別集計結果

(単位: %)



◆ 集計表

	全 体	警 戒 区 域 が 解 除 に な っ た ら す ぐ	気 候 な ど の 生 活 基 盤 が 復 旧 し て	働 く 場 所 が あ れ ば 戻 る	放 射 線 の 影 響 が 少 な く な る に 戻 る	子 供 が 成 人 し た ら 戻 る	そ の 他	無 回 答
全 体	1392 100.0	415 29.8	1069 76.8	220 15.8	985 70.8	33 2.4	81 5.8	5 0.4
10代	12 100.0	2 16.7	5 41.7	1 8.3	8 66.7	- -	1 8.3	1 8.3
20代	27 100.0	7 25.9	16 59.3	8 29.6	23 85.2	1 3.7	2 7.4	- -
30代	96 100.0	21 21.9	68 70.8	21 21.9	75 78.1	7 7.3	15 15.6	- -
40代	162 100.0	39 24.1	126 77.8	57 35.2	120 74.1	16 9.9	14 8.6	- -
50代	332 100.0	88 26.5	271 81.6	80 24.1	232 69.9	8 2.4	21 6.3	- -
60代	327 100.0	85 26.0	266 81.3	37 11.3	245 74.9	1 0.3	15 4.6	1 0.3
70歳以上	407 100.0	162 39.8	297 73.0	8 2.0	260 63.9	- -	12 2.9	2 0.5

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 (なし)
【20代の回答者】 ・被災前と同じ状態になったら
【30代の回答者】 ・学校など再開できる環境になったら(3件) ・震災前と同等レベルの安全にそして不安がなくなったら。 ・商店、銀行、コンビニ等の民間の店が再開するとき ・放射線の影響がなくなったら、安全・安心になったら ・原発に頼らない町になったら ・町の機能が回復したら ・原発が永久に稼働しなくなったら
【40代の回答者】 ・すぐにでも戻りたいが学校が始まらないと ・病院、電車、学校、お店等が依然に近い状態 ・会社が地元で再開したら ・農地を耕作できるようになった時 ・学校が安全な状態で再開できるようになったら ・会社が檣葉の近くになれば ・子供が住んでも問題なしとなってから ・以前の生活、環境、健康が補償されると確約されたとき ・店、病院が戻ったとき ・第2原発が稼働している間は抵抗感がある
【50代の回答者】 ・学校が再開したら(2件) ・家をなおしてから(2件) ・放射能がある時は戻らない ・家の修理代の補償 ・議会・行政がまともになったら ・10年後に戻ることを目標とする ・役場がもどり病院等が動くようになったら ・安全であるならば月1でも家の管理ができる程度でよいので戻りたい ・自営業の為、多くの住民が戻らないと仕事が成り立たない ・家を建て直さなければならない ・夫婦だけで帰る ・家、土地の除染をしてから ・子供は戻したくない(以前と同じ放射線量になるまで) ・田畑に耕作できるようになったら ・家が流されたので住宅があれば

- ・いわき市に一時的に住み、土日に樫葉に帰る
- ・自分は解除になったらすぐに。家族は放射能の影響がなくなってから。

【60代の回答者】

- ・二重生活あるいは町へ通っても良い。早く帰りたい
- ・入院中なので病気が回復したら
- ・除染次第
- ・元の環境になったとき
- ・津波で家屋をなくしたので、宅地を確保、新築したら
- ・孫の学校が再開したら
- ・小中学校が戻れるようになったら
- ・会社が安定したら

【70代以上の回答者】

- ・完全に除染されれば(2件)
- ・老人施設が利用できるようになったら
- ・以前のように農業ができてそれが売れるようになったら
- ・リリー園の再開
- ・老人施設が利用できるようになったら
- ・田畑で作物がつかれるようになれば
- ・安心、安全な生活ができること
- ・町の人に戻ったら
- ・第二原発が廃炉になり安全になったとき
- ・子供は戻れないと思う

【設問】

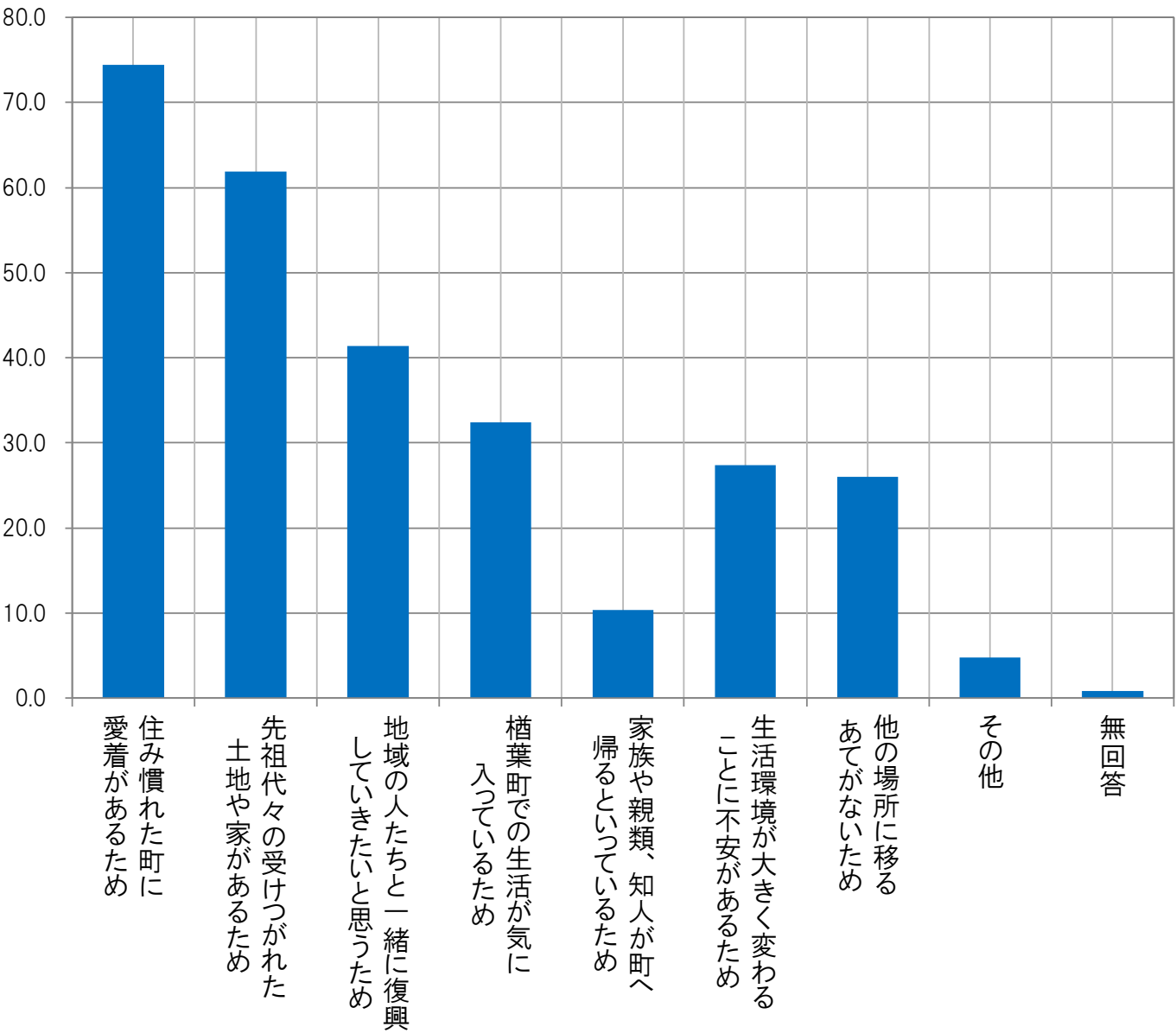
問17 問15で「戻りたい」と答えた方にうかがいます。檜葉町へ戻りたい理由を教えてください。（複数回答可）

■ 結果の概要

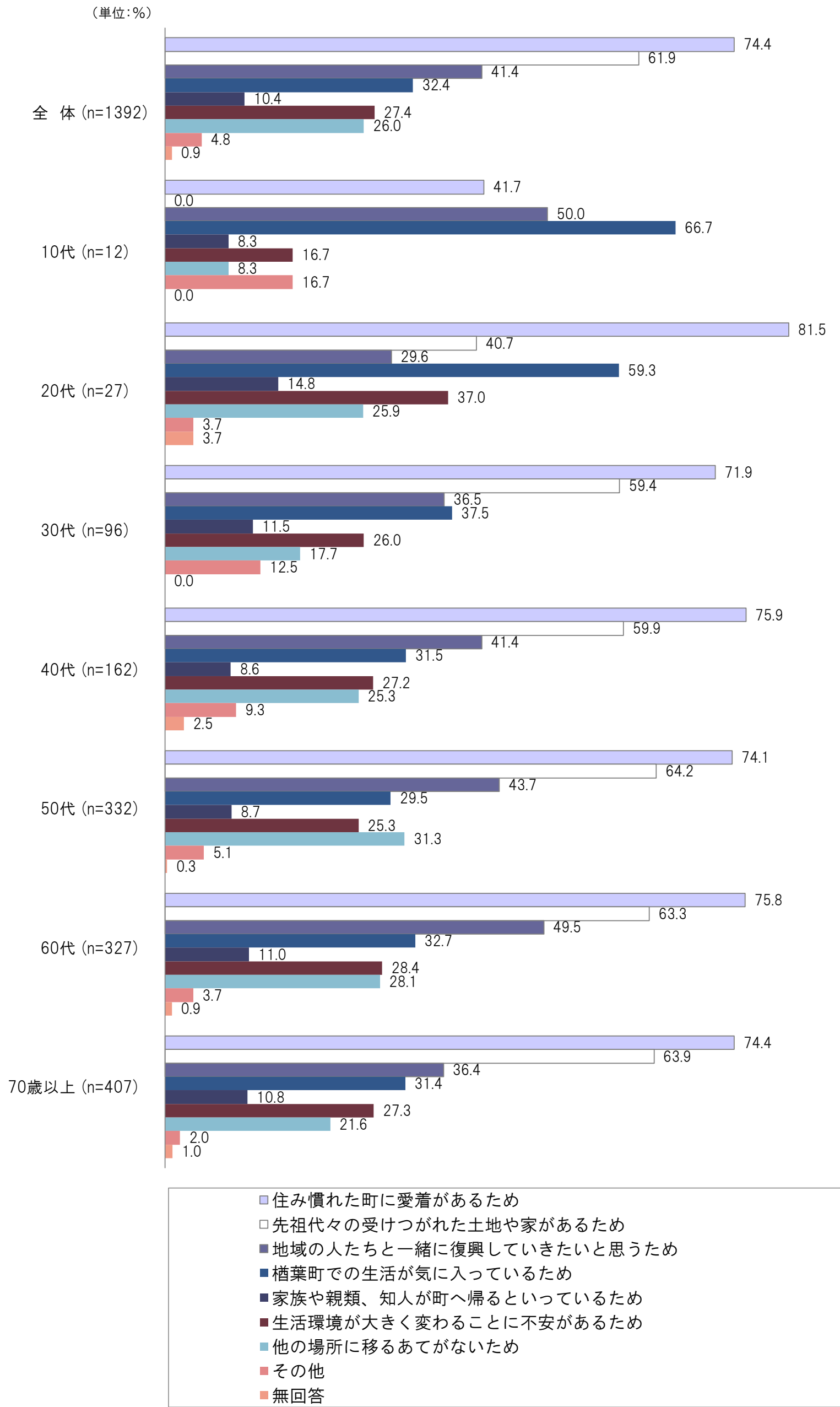
- ・「住み慣れた町に愛着がある」が7割強、「先祖代々の受けつがれた土地や家がある」の回答が6割強を占めており、「その他」の自由記述にも、住み慣れた町や家への愛着を訴える意見が多くある。
- ・さらに、「地域の人たちと一緒に復興していきたいと思う」「檜葉町での生活が気に入っている」などと答える回答もそれぞれ3割を超える。
- ・一方で、「生活環境が大きく変わることによる不安がある」「他の場所に移るあてがない」の回答が1/4程度あり、町を離れることが難しいと指摘する層が各世代に存在する。
- ・「その他」の自由記述の中では、30代～50代の各世代において、職業や勤務先に関する記述があるほか、住宅ローンに関する指摘も見られた。

◆ 単純集計結果

（単位：％）



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	住 み 慣 れ た 町 に 愛 着 が あ る た め	家 先 祖 代 々 の 受 け つ が れ た 土 地 や	地 域 の 人 た ち と 一 緒 に 復 興 し て い き た い と 思 う た め	植 葉 町 で の 生 活 が 気 に 入 っ て い る た め	家 族 や 親 類 、 知 人 が 町 へ 帰 る と い っ て い る た め	生 活 環 境 が 大 き く 変 わ る こ と に 不 安 が あ る た め	他 の 場 所 に 移 る あ て が な い た め	そ の 他	無 回 答
全 体	1392 100.0	1035 74.4	861 61.9	576 41.4	451 32.4	145 10.4	381 27.4	362 26.0	67 4.8	13 0.9
10代	12 100.0	5 41.7	- -	6 50.0	8 66.7	1 8.3	2 16.7	1 8.3	2 16.7	- -
20代	27 100.0	22 81.5	11 40.7	8 29.6	16 59.3	4 14.8	10 37.0	7 25.9	1 3.7	1 3.7
30代	96 100.0	69 71.9	57 59.4	35 36.5	36 37.5	11 11.5	25 26.0	17 17.7	12 12.5	- -
40代	162 100.0	123 75.9	97 59.9	67 41.4	51 31.5	14 8.6	44 27.2	41 25.3	15 9.3	4 2.5
50代	332 100.0	246 74.1	213 64.2	145 43.7	98 29.5	29 8.7	84 25.3	104 31.3	17 5.1	1 0.3
60代	327 100.0	248 75.8	207 63.3	162 49.5	107 32.7	36 11.0	93 28.4	92 28.1	12 3.7	3 0.9
70歳以上	407 100.0	303 74.4	260 63.9	148 36.4	128 31.4	44 10.8	111 27.3	88 21.6	8 2.0	4 1.0

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 ・JFAアカデミー福島として出発した土地だから ・自分の家に帰りたい
【20代の回答者】 (なし)
【30代の回答者】 ・目標があるため ・自分の親を捨てて、嫁いだ為。 ・家もローンもあるから ・会社が植葉に戻れば戻る ・職場が近いため ・ペットを早く保護したい ・持家があるから ・今後子供たちの進学のことを考えて ・自然の中のびのびと暮せていたから
【40代の回答者】 ・家のローンが残っているから(4件) ・持家があるから(2件) ・建てて10年もたってない家がある ・障害を持った子供を育てるのは自宅がベスト ・会社が植葉に近い ・子供が帰りたいといっている ・戻れると思っているので
【50代の回答者】 ・家があるから(4件) ・先祖代々植葉町に住み、お墓を守りたい ・お父さんが眠っているのでそばに行きたい ・自分の家、ペットがいる ・家を新築しまだ1年、このままではあまりにも情けなくこの先どうしたら良いのかわからない ・ローンが残っている自宅があるから ・1500万で購入した土地なので ・家を建て替えて7年。借金がある。 ・植葉に家を建てたので ・生徒がいるから ・今後新しい家を建てる資金が無く自宅に愛着がある ・同居している親(70代、80代)は戻りたがっており、現在のままでは精神的に落ち込んでしまいそうなので。
【60代の回答者】 ・家があるから(2件) ・自然があふれている ・庭をきれいにし、花・犬・猫とし静かに暮らしたい ・先祖の墓がある

- ・僧侶だから
- ・仕事のため
- ・母が檜葉に戻り死にたいといっているの
- ・当たり前だろう。（静かに生活していきたい。）

【70代以上の回答者】

- ・いつ死ぬかしない其の前に
- ・家があるから
- ・帰る場所は檜葉しかない
- ・先祖代々ではないが、土地家がある。
- ・娘たちに迷惑をかけたくない
- ・戻りたいのは山々ですが、家が全壊だそうです町役場では被災証明書を出してくれない。
- ・先祖の墓を守りたい

【設問】

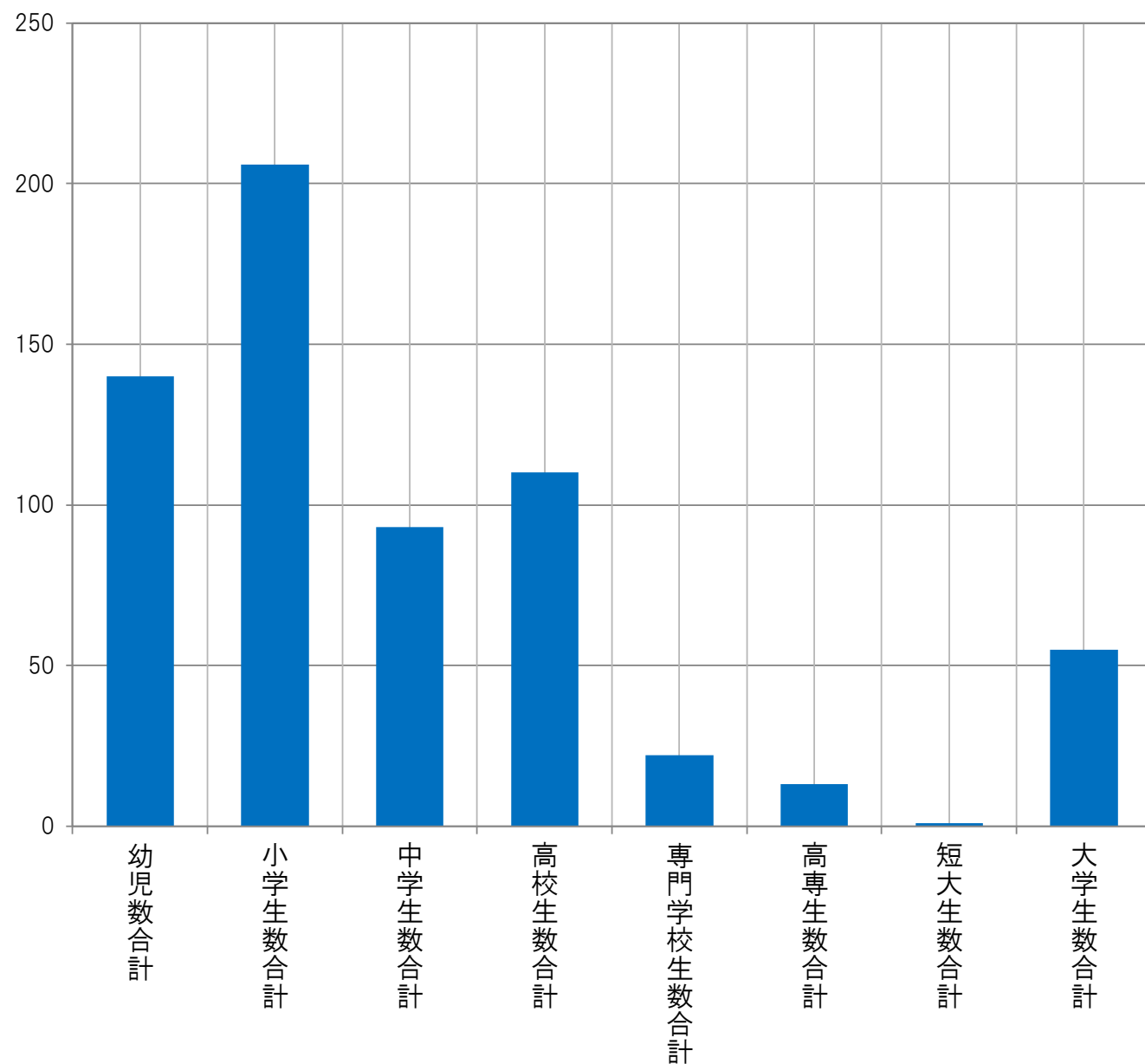
問18 問15で「戻りたい」と答え、且つお子さんがいる方にうかがいます。あなたの家族に、就学しているお子さんはいますか。
（こども園含む）該当する区分番号を○で囲み、区分ごとの人数をご記入ください。また、該当する学年等を○で囲んでください。
（1つに○印）

■ 結果の概要

- ・「戻りたい」と回答した世帯における子供（就学している児童・生徒等）の人数は、幼児140人、小学生206人、中学生93人、高校生110人などとなった。

◆ 単純集計結果

（単位：人）



◆ 集計表

(i) 全体

合 計	幼児 数合 計	小学 生数 合計	中学 生数 合計	高校 生数 合計	専門 学校 生数 合計	高専 生数 合計	短大 生数 合計	大学 生数 合計
640	140	206	93	110	22	13	1	55
100. 0	21. 9	32. 2	14. 5	17. 2	3. 4	2. 0	0. 2	8. 6

(ii) 詳細

幼児 数合 計	0 歳 児	1 歳 児	2 歳 児	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
140	13	15	11	41	23	37
100. 0	9. 3	10. 7	7. 9	29. 3	16. 4	26. 4

小学 生数 合計	小学 1 年	小学 2 年	小学 3 年	小学 4 年	小学 5 年	小学 6 年
206	26	20	37	34	46	43
100. 0	12. 6	9. 7	18. 0	16. 5	22. 3	20. 9

中学 生数 合計	中学 1 年	中学 2 年	中学 3 年
93	27	32	34
100. 0	29. 0	34. 4	36. 6

高校 生数 合計	高校 1 年	高校 2 年	高校 3 年
110	31	41	38
100. 0	28. 2	37. 3	34. 5

専門 学校 生数 合計	専門 学校 1 年	専門 学校 2 年
22	9	13
100. 0	40. 9	59. 1

高専 生数 合計	高専 1 年	高専 2 年	高専 3 年	高専 4 年	高専 5 年
13	2	0	2	6	3
100. 0	15. 4	0. 0	15. 4	46. 2	23. 1

短大 生数 合計	短大 1 年	短大 2 年
1	1	0
100. 0	100. 0	0. 0

大学 生数 合計	大学 1 年	大学 2 年	大学 3 年	大学 4 年
55	14	14	14	13
100. 0	25. 5	25. 5	25. 5	23. 6

【設問】
問１９ 問１５で「わからない」と答えた方にうかがいます。あなたは、どのような状況になったら楢葉町への帰町が判断できますか。（自由記述）

■ 結果の概要

- ・ 楢葉町への帰町の判断要素として「除染や放射線量の水準」という意見が全体の約28%であった。判断の基準は「放射線量が震災前と同じ水準になったら」という回答が最も多かった。
- ・ 「復興の状況」を帰町の判断要素とする意見が全体の約20%であった。判断の基準は「安全・安心が確保できたら」という回答が最も多く、「町民の帰町の状況」や「双葉郡全体が帰れるようになったら」という周囲の住民行動を踏まえて判断するという回答も見られた。
- ・ その他の回答として、「信用できない状況では判断しかねる」「まだ考えられない」という回答や、今後の状況等を踏まえて判断するという回答も見られた。

◆意見の分類

自由意見の回答者数は258人で365件の意見があった。これらを以下の「意見の分類」に基づき10種に分類した。これらの意見の主なものを「主な自由記述」に示す。主な自由記述は回答を要約している。

意見の分類	件数	割合
原発の状況	42	11.5%
復興の状況	74	20.3%
ライフライン・公共施設等の整備	49	13.4%
除染や放射線量の水準	102	27.9%
子どもへの対応	25	6.8%
雇用・産業の再生	27	7.4%
補償	8	2.2%
住宅再建	9	2.5%
災害時要援護者への配慮	5	1.4%
その他	24	6.6%
合計	365	100.0%

◆主な自由記述

○原発の状況（意見数：42） ・ 原発の状況が安定して冷却できるようになったら ・ 警戒区域の解除 ・ 原発の安全性が100%と保障されれば ・ 完全に原発が収束したら ・ 第一原発の廃炉完了 ・ 第二原発の廃炉完了
○復興の状況（意見数：74） ・ 安全、安心がしっかりと確保できるようになったら ・ 以前と同じ状況にもどったら ・ 次世代が安心して暮らしていける環境が整い生活できる状況 ・ 住んでた土地に住める状態になった時 ・ 楢葉町に未来があると見える状況になったら ・ 自ら働くという意味を持った町民に戻っているなら ・ 復興の見通しが立ったら ・ 人口の2／3以上が戻り、町としてのうるおいが保てるようになれば ・ 自給自足ができて若者が街に戻ったら ・ 行政の健全化（原発の金に頼らない） ・ 以前と同様な生活が確約されれば ・ 町としての機能が戻ったら ・ 町の皆さんが戻られる時 ・ 楢葉町だけでなく双葉郡全体が帰れるようになったら ・ 最終処分場を福島県に設置しないこと
○除染や放射線量の水準（意見数：102） ・ 放射線量が事故以前の水準まで下がったら ・ 放射線量が絶対に安全であると確認されたとき ・ 除染が終わってから ・ 汚染が完全に除去されたら ・ 人体への影響がなくなったら ・ 田、畑、山間部の放射能が100%除去できた時

- ・水道水の安全が完全に確立されたら
- ・町で農作物が生産できる土壌汚染レベルになったら
- ・全員が放射能の恐怖にさらされなく生活できる状態
- ・一戸にひとつ線量計が配布されたら
- ・家が放射能に汚染されてなければ
- ・全域の除染と自然の回復
- ・放射線量が基準以下に下がれば
- ・10年後、20年後に病気が発病しないと分かったとき
- ・海や山が安全になったら

○子どもへの対応（意見数：25）

- ・子どもの健康への心配がなくなったら
- ・子供が安心して育てられる環境になったら
- ・子供たちが外で遊べるとわかったら
- ・子供が大きくなったら
- ・子供の学校があれば
- ・子や孫達が暮らせるようになったら
- ・幼児・小中学生の子供が震災前の人口に戻れば
- ・子供と一緒に暮らせるのであれば

○ライフライン・公共施設等の整備（意見数：49）

- ・ライフラインが復旧したら
- ・鉄道が開通したら
- ・買い物が近くでできるようになったら
- ・医療機関の整備が整えば
- ・健康被害を常に把握できる行政の体制と医療体制が整ったとき

○雇用・産業の再生（意見数：27）

- ・Jヴィレッジでの活動が可能になり、アカデミー活動が再開できる時期がきたら
- ・職場の営業再開の目途が立ったら
- ・会社が楢葉に戻ったら
- ・物流が正常になったら
- ・仕事が確保できれば
- ・帰って商売が成り立つのか判断できたら

○補償（意見数：8）

- ・慰謝料を含む賠償金に納得できた時
- ・東電で補償してくれれば
- ・子供が高校を卒業するまでに借り上げ制度が無くなったとき

○住宅再建（意見数：9）

- ・損壊した屋根など生活のめどが立ったとき
- ・家の地盤修理ができれば

○災害時要援護者への配慮（意見数：5）

- ・健康状態が良くなったら
- ・自分が身体が動けるうちに帰町できたら
- ・入居していた施設が再開されれば

○その他（意見数：24）

- ・信用できない状況では判断しかねる
- ・まだ考えられない
- ・完全な状態にならないとわからない
- ・借家住まいで解約してしまったため帰る場所がない

2. 2. 3 津波による被災状況（津波により家屋等が被災された方を対象）

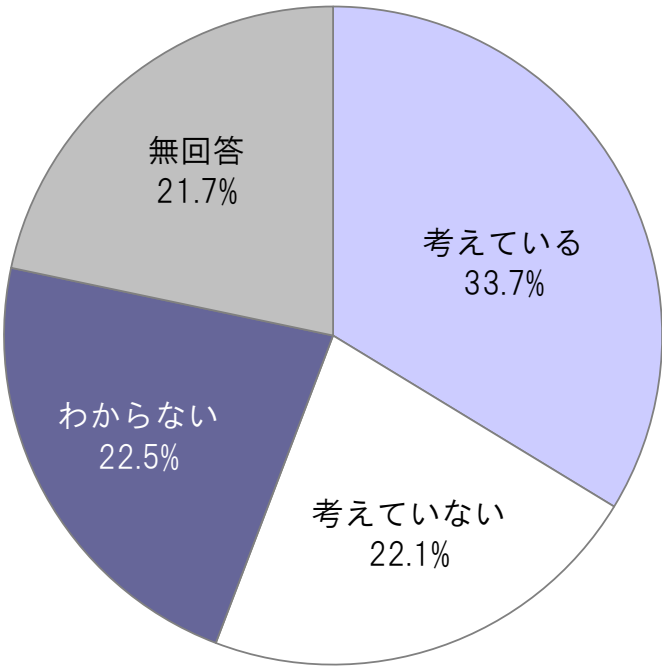
【注】以下、問20～22については、「津波により家屋等が被災された方」を対象とした設問であるが、他の設問などから設問対象者を特定することができないため、これら3問のうち1問でも回答のあった回答者をすべて対象とし、回答率算出時の母数とした。

【設問】
問20 今後、住宅を再建する時は移転を考えていますか。（1つに○印）

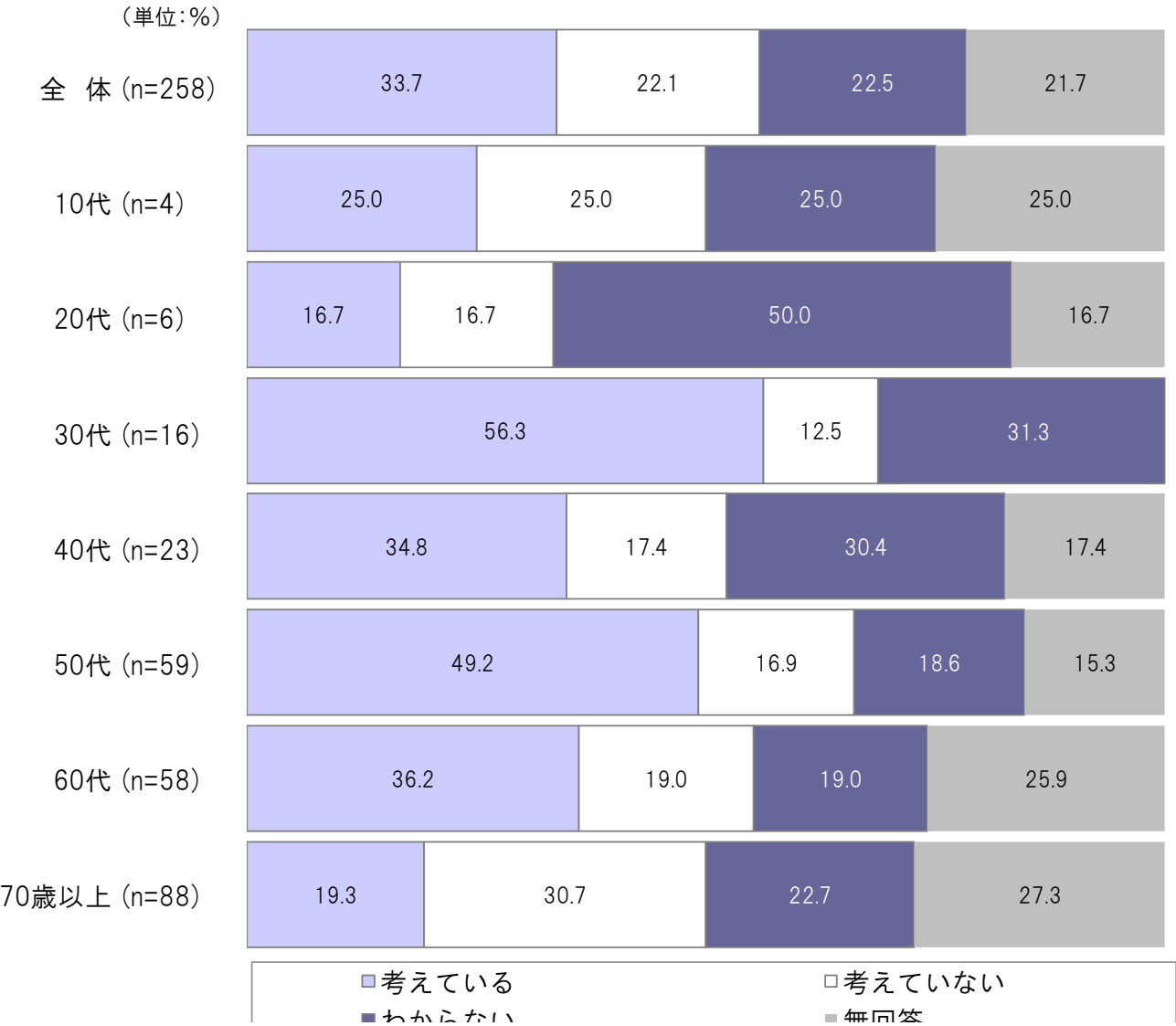
■ 結果の概要

- ・「（移転を）考えている」被害世帯は約1/3を占め、「考えていない」「わからない」「無回答」がいずれも約2割と回答が分かれる結果になった。
- ・年齢別に見ると、比較的母集団の大きい50代、60代、70代以上においては、年齢が高くなるにつれて「（移転を）考えていない」世帯が多くなり、特に70代以上では、「考えていない」世帯が「考えている」世帯を上回る結果となっている。
- ・全体として、「わからない」「無回答」が約2割ずつあることから、今後の見通しや移転の必要性・選択肢などに関する情報提供を通じて、それぞれの意向決定を支援・促進していくことが重要と考えられる。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

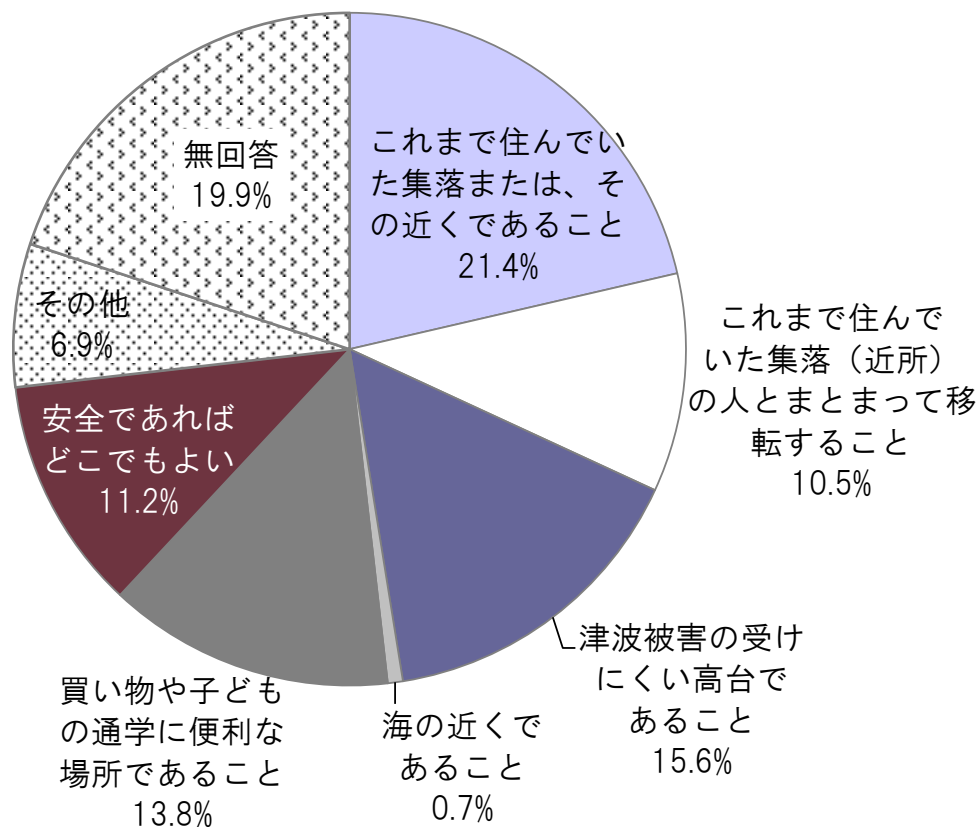
	全 体	考 え て い る	考 え て い な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	258 100.0	87 33.7	57 22.1	58 22.5	56 21.7
10代	4 100.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0
20代	6 100.0	1 16.7	1 16.7	3 50.0	1 16.7
30代	16 100.0	9 56.3	2 12.5	5 31.3	- -
40代	23 100.0	8 34.8	4 17.4	7 30.4	4 17.4
50代	59 100.0	29 49.2	10 16.9	11 18.6	9 15.3
60代	58 100.0	21 36.2	11 19.0	11 19.0	15 25.9
70歳以上	88 100.0	17 19.3	27 30.7	20 22.7	24 27.3

【設問】

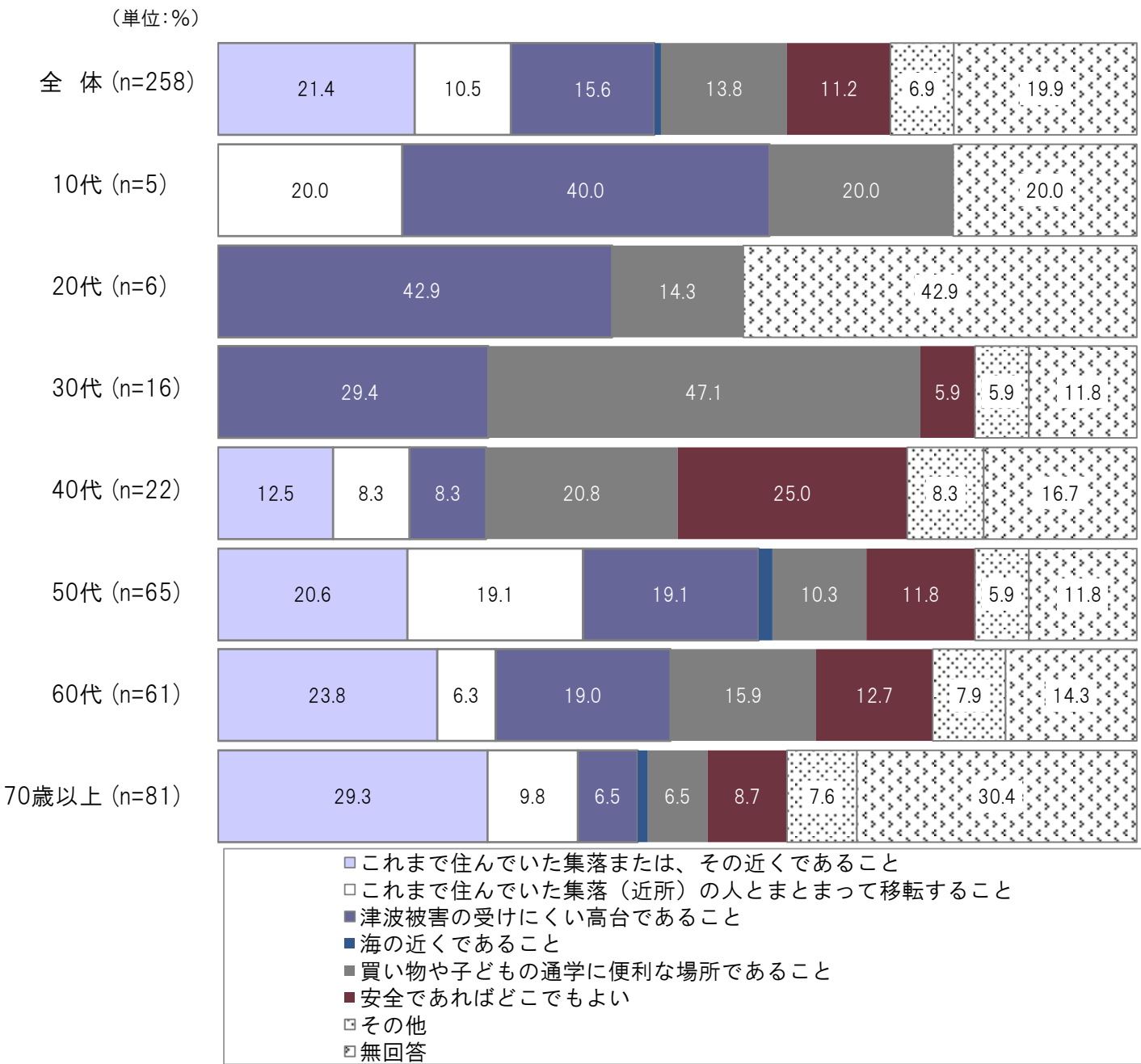
問21 住宅の再建するうえで、どのようなことが重要と考えますか。（1つに○印）

- ・「これまで住んでいた集落または、その近く」との回答が約2割と最も多く、次いで「津波被害の受けにくい高台」と「買い物や子どもの通学に便利な場所」がそれぞれ15%前後、さらに「安全であればどこでもよい」「これまで住んでいた集落（近所）の人とまとまって移転」が各10%強となっている。
- ・年齢別で見ると、「これまで住んでいた集落または、その近く」もしくは「これまで住んでいた集落（近所）の人とまとまって移転」という回答は、50代以上で多い傾向があり、年齢が高くなるにつれて従前コミュニティを重視していることがうかがえる。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果



◆ 集計表

	全 体	は、こ れま でそ の近 くで ある こと	こ れ ま で 人 と ま と ま つ て 移 転 す る こ と	津 波 被 害 の 受 け に く い 高 台 で あ る こ と	海 の 近 く で あ る こ と	買 い 物 や 子 ど も の 通 学 に 便 利 な 場 所 で あ る こ と	安 全 で あ れ ば ど こ で も よ い	そ の 他	無 回 答
全 体	258 100.0	59 21.4	29 10.5	43 15.6	2 0.7	38 13.8	30 11.2	19 6.9	38 19.9
10代	5 100.0	-	1 20.0	2 40.0	-	1 20.0	-	-	1 20.0
20代	6 100.0	-	-	3 42.9	-	1 14.3	-	-	2 42.9
30代	16 100.0	-	-	5 29.4	-	8 47.1	1 5.9	1 5.9	1 11.8
40代	22 100.0	3 12.5	2 8.3	2 8.3	-	5 20.8	5 25.0	2 8.3	3 16.7
50代	65 100.0	14 20.6	13 19.1	13 19.1	1 1.5	7 10.3	8 11.8	4 5.9	5 11.8
60代	61 100.0	15 23.8	4 6.3	12 19.0	-	10 15.9	8 12.7	5 7.9	7 14.3
70歳以上	81 100.0	27 29.3	9 9.8	6 6.5	1 1.1	6 6.5	8 8.7	7 7.6	17 30.4

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 (なし)
【20代の回答者】 (なし)
【30代の回答者】 ・家族一緒に住めればどこでもいい
【40代の回答者】 ・汚染されているので分からない
【50代の回答者】 ・津波の被害が受けにくく、原発から離れてること
【60代の回答者】 ・安全であって生活するのに便利なところ ・檜葉町以外に居住する
【70代以上の回答者】 ・屋根かわらその他を修理するとすめる ・住み慣れたふるさと ・自宅 ・駅に近いところ ・町内で安全なところ ・文化レベルが高く安全なところ ・再建する余裕がありません。

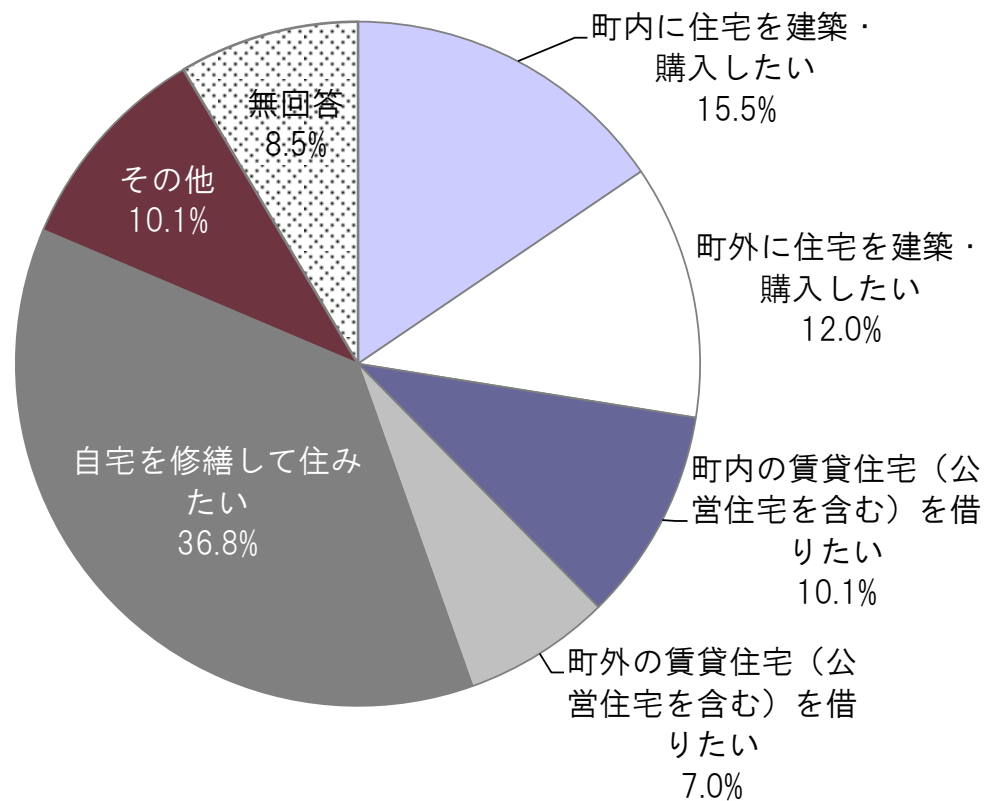
【設問】

問22 今後の住宅の再建について、どのようにお考えですか。（1つに○印）

■ 結果の概要

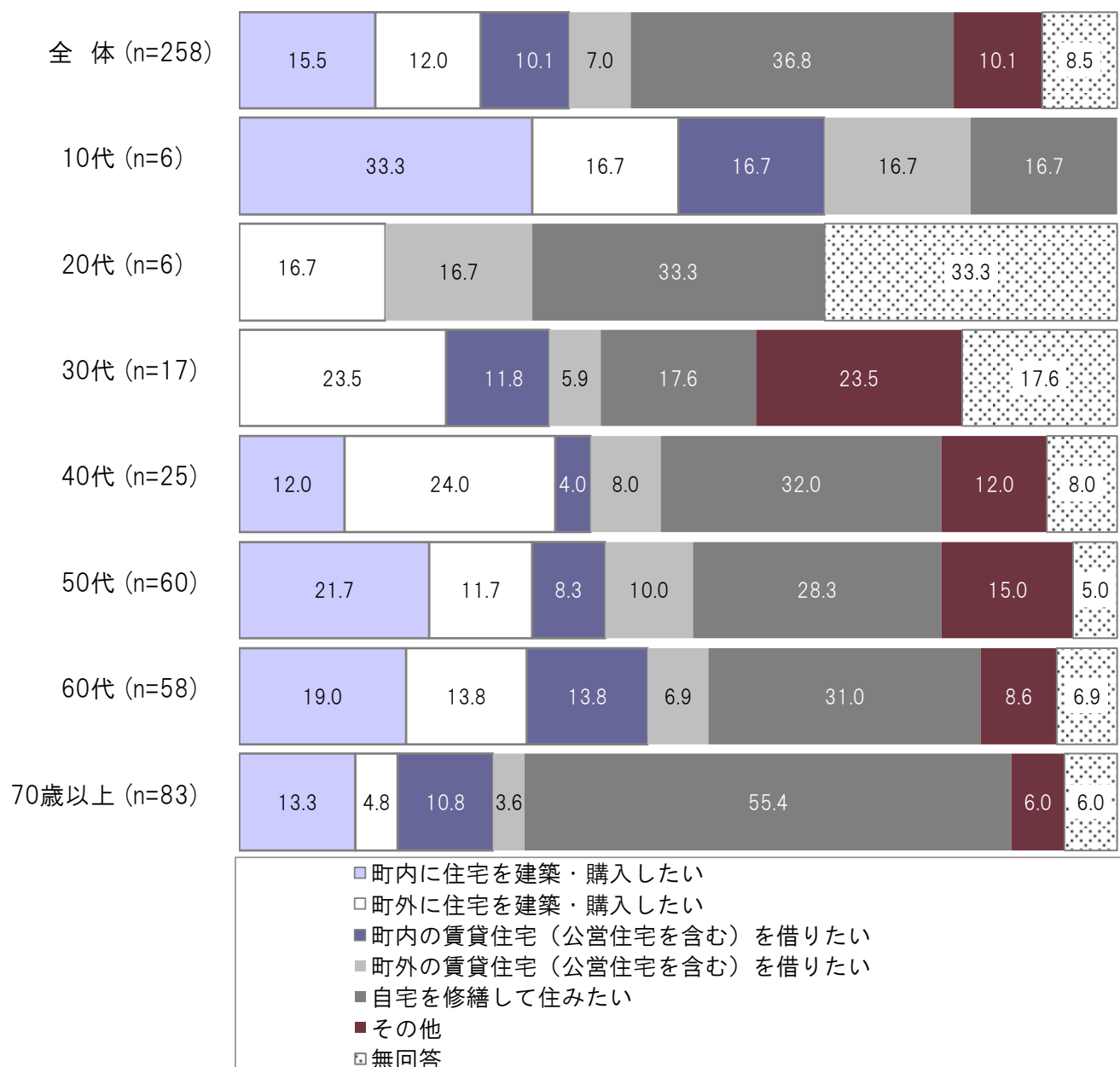
- ・「自宅を修繕」という回答が約37%と最も多く、「町内に住宅を建築・購入」（15.5%）、「町内の賃貸住宅（公営住宅含む）」（10.1%）を合わせると、全体の6割以上が町内での住宅再建を明確に意思表示している。一方、「町外に住宅を建築・購入」「町外の賃貸住宅（公営住宅含む）」と、町外での住宅再建を希望する回答者も計19%に上っている。
- ・年齢別に見ると、特に70歳以上において、「自宅を修繕」とする回答が55%を超えていることが目立つ。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果

（単位：%）



◆ 集計表

	全 体	町 内 に 住 宅 を 建 築 ・ 購 入 し た い	町 外 に 住 宅 を 建 築 ・ 購 入 し た い	町 内 の 賃 貸 住 宅 （ 公 営 住 宅 を 含 む ） を 借 り た い	町 外 の 賃 貸 住 宅 （ 公 営 住 宅 を 含 む ） を 借 り た い	自 宅 を 修 繕 し て 住 み た い	そ の 他	無 回 答
全 体	258 100.0	40 15.5	31 12.0	26 10.1	18 7.0	95 36.8	26 10.1	22 8.5
10代	6 100.0	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	- -	- -
20代	6 100.0	- -	1 16.7	- -	1 16.7	2 33.3	- -	2 33.3
30代	17 100.0	- -	4 23.5	2 11.8	1 5.9	3 17.6	4 23.5	3 17.6
40代	25 100.0	3 12.0	6 24.0	1 4.0	2 8.0	8 32.0	3 12.0	2 8.0
50代	60 100.0	13 21.7	7 11.7	5 8.3	6 10.0	17 28.3	9 15.0	3 5.0
60代	58 100.0	11 19.0	8 13.8	8 13.8	4 6.9	18 31.0	5 8.6	4 6.9
70歳以上	83 100.0	11 13.3	4 4.8	9 10.8	3 3.6	46 55.4	5 6.0	5 6.0

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 (なし)
【20代の回答者】 (なし)
【30代の回答者】 ・まずは汚染がなくならなければ再建はありえない ・分からない ・「今の自宅を修繕して住みたい」だが、地震で打撃を受けた家を修繕するのは、新築するぐらい費用がかかるので不安。
【40代の回答者】 ・今後の状況により検討したい ・今の状況では予定は立てられない ・汚染されているので分からない
【50代の回答者】 ・放射能があるうちは建築したくない、生活もしたくない ・自宅を修繕して住みたいがローンもあるため、修繕費まで出す余裕がない ・どうしていいかわからない ・住宅を購入した ・原発に買い上げて欲しい
【60代の回答者】 ・今の場所以外に住宅を作りたい
【70代以上の回答者】 ・駅に近いところ ・もう自力で再建は無理 ・移転の補償があれば町外へ出たい

【設問】

問23 津波被災地の再建のあり方についてどうお考えですか。ご自由にお書きください。（自由記述）

■ 結果の概要

- ・津波で被災した場所への再建については反対する意見が多く、高台への移転等再度被災しない安全な場所への再建を求める意見が多く挙げられている。
- ・津波で被災した土地については、国・町が買い上げ、住宅建築を制限するいという意見が多く挙げられている。また、買い上げた土地については、海浜公園として造成し、将来的な観光の起爆剤を目指すとの意見もあった。
- ・津波被災地の再建を考えると同時に、原発事故の収束や、除染、放射線量の低減策を踏まえた意見が多く挙げられており、津波による災害と原子力災害の双方の観点から被災地の再建に関する意見が多く見られた。

◆ 主な自由記述

- 再度被災しない安全な場所への再建を求める意見（意見数：5）
- ・今度の津波は特に大きかったと思っていますが、流されたところは低い土地なので今後の再建には今までより高台及び海より遠い所に住居を移してほしいです。
 - ・安全な場所に土地を確保して欲しい。
 - ・町で良い条件の土地を提供して欲しい。
- 高台への移転に関する意見（意見数：9）
- ・海岸から離れた山沿いに新しくニュータウンのようなものをつくり、部落全体を移動する。
 - ・高台10m以上のところがよい・津波被災地は居住禁止にして高台へ移る
 - ・津波被害を受けた場所の住宅の建設は二度と繰り返さないよう、高台がよいと思う。
 - ・できれば浜の人たちは下小墻の上の原に山を持っている方が結構いますので造成する場合は町としても何らかのご協力をしてもらいたいと思っています。他人事ではありません。
 - ・波倉海岸はゴミの海岸でなんの利益もない海だ。高いとことに移転して津波や地震に安心して生活できる所。井出浜海岸も同様に高い所に住む住宅をつくること。木戸川周辺と山田浜もなんの取り柄もない。只環境が良いだけでここも津波と地震に強い高台に転移することが良いと思う。
- 元の場所への再建に関する意見（意見数：2）
- ・津波地にもう一度建てる。津波が再来したら諦める。
 - ・浜で被災に合われた方々多分に何軒かは元の場所に家を建てると思っています。怖いけど別のとちに移り住むことはもっと勇気がいること。
- 津波で被災した場所への再建に反対する意見（意見数：8）
- ・被害にあった場所は将来的にも人が暮らすには過充分な程の対応をしないと住んではならないと思う後世に暮らす者達を見据えた復興であってほしい
 - ・住居は津波被害のなかったところへ限定して建てる、安全に町を再建して欲しい
 - ・津波被害の場所への再建築は認めてはいけない
 - ・津波被害のあった場所には住宅を建てない
 - ・山田浜地区にはまた津波が来るかもしれないので再建は考えられない
 - ・海の近くでの分譲地を規制してもよいと思う。橋を渡らなくても良いところで、高い避難場所を地域や区域に分けて作るとよいと思う。
- 被災した土地の買い上げに関する意見（意見数：5）
- ・被災にあった土地を国に買い上げてもらい、代替え地を高台に集団移転を希望
 - ・津波被害のあった地域を買い上げ
 - ・津波の跡地を国に買い取ってもらい、ソーラー発電地域に開発してください
 - ・沿岸はなるべく町有地に
 - ・また津波被災地については国の方で買い取っていただき、代外地を準備なり補償していただく。
- 防波堤や防潮堤、河川堤防などの防災施設の整備に関する意見（意見数：9）
- ・防波堤の強化、今回の津波の高さより高く作るとか
 - ・多重の堤防
 - ・海岸線沿いを高台にして松・杉を植え、高台に避難を兼ねた道路を作り、木戸側の堤防も2段階に高くする
 - ・防波堤として町道を整備し、住宅まで津波が押し寄せないようにする
 - ・海にテラポットを高く積み海岸の堤防を高く築き、その内側に土の堤防を築き少しでも波の力を弱める
- 防潮林の整備に関する意見（意見数：2）
- ・樹木の植え付け
 - ・木戸川に人工川を作り、松林にする。
- 被災農地の復旧に関する意見（意見数：4）
- ・農地については区画整理し再配分・買取など
 - ・農地の買い上げと大規模農業への転換
 - ・農作物が栽培できる
 - ・今後田畑ができるか心配
- 職場の再建・仕事の再開に関する意見（意見数：10）
- ・以前の会社の再建、働き口の有無
 - ・仕事再開の目処がついた時
 - ・会社が再営業しなければ無理
 - ・第三次産業が営業できるようになったら。

○道路・鉄道・ライフラインの復旧に関する意見（意見数：12）

- ・放射性物質の安全宣言とライフライン整備
- ・電車が開通したら（通学）
- ・特に道路は安心安全なところに
- ・避難道路の変更

○防災対策の強化に関する意見（意見数：4）

- ・最低限、今回の災害を想定した防災をして欲しい
- ・防災無線の充実
- ・防災無線が当時全く聞こえなかった。他の考えをしたほうがよい。
- ・災害に強い安心安全な町づくり

○避難場所の見直しに関する意見（意見数：2）

- ・津波対策委員会などで下井出集会所が避難所に指定されていたが、津波警報が出ているのに本釜橋を渡り指定の場所に向かうのは危険なので、避難所指定場所の見直し。
- ・避難場所としていた場所が橋を渡らなければならない所だった。津波の避難ではありえないと思う。

○暮らしやすいまちづくりに関する意見（意見数：6）

- ・若者が職につけて生活基盤がしっかりしているところ
- ・年老いて暮らしに不安。安心して暮らせる住環境（老人ホーム等）が整ったら帰町したい。
- ・病院や買い物ができるようになれば
- ・榎葉町だけでなく富岡など生活範囲が復旧すること
- ・生活できる商店 病院
- ・商店・病院・交通が戻ったら

○以前の暮らしの回復に関する意見（意見数：8）

- ・3/11以前の生活ができるようになったら
- ・以前のように住める環境になったら
- ・以前のような環境になれば良いが・・・移住を考えている
- ・原発事故以前の榎葉町になれば
- ・震災前と変わらない状態またはそれに近い状態になったと判断したとき
- ・生活基盤が完全に復旧し元の生活ができるようになったら
- ・戻れるようになって若い人たちが戻らなければ生活できない。
- ・元とおりになったら

○住宅再建資金に関する意見（意見数：4）

- ・家の建設に対して補助金が必要
- ・榎葉に移住し4年。まだ借金が残っている。再建したいが資金面から厳しい。
- ・家屋の修理費用他経済状況の判断ができた時
- ・津波で家を流され、ローンだけが残った。これから家を建てようとしても前に進めない。

○町からの情報提供を求める意見（意見数：6）

- ・何事も早く連絡が欲しかった。そうすれば皆と一緒にいられたのに、バラバラにならなくてすんだのに。
- ・町はどう考えているのか。行政案をまず出すべき。でないと町民が言いたい放題
- ・土地はどうなるのか・・・早期に決めてもらわないと見通しが立たない
- ・行政の対応が不平等なところがある。公平を保つためいろいろな面で情報を公開して欲しい。
- ・現状判断できる情報が少なすぎる。もっと光の見える情報が欲しい
- ・町の情報が入らないので判断できない

○原発事故の収束や、除染、放射線量の低減、安全確保に関する意見（意見数：66）

- ・津波被災より先に放射能について考えるべき。放射能があるうちは住民は戻らないし人が少なれば生活が成り立たない。放射能を受けながら生活はできない
- ・放射線の影響がなくならなければ、再建はない
- ・除染もしない土地に再建は無理。
- ・原発事故以前の環境、全ての双葉郡民が安心できる場所
- ・原発事故が収束しない限りは安心して榎葉に帰れない。
- ・放射線がとまらない状態で再建はありえない。
- ・放射線量が基準値まで下がれば考えられる
- ・放射線がなくなれば
- ・町全体が、年間積算量1ミリシーベルトになったら戻る

○子どもの安全や学校の再開に関する意見（意見数：15）

- ・子供が帰らなければ復興はない。
- ・土地、家があるので帰りたいが、2人の子供のリスクを考えると安心できない。
- ・学校関係が再開したとき

○その他の意見（意見数：35）

- ・今の状況ではわからない、自然を相手にするので難しい
- ・榎葉町の津波の状況はわからない
- ・10年後、20年後は想像できないので
- ・元の場所に戻り、今後どんな生活になるのかわからない
- ・今までしていた商売が風評被害で維持できるかどうかわからない。判断基準をどこに置いたら良いのか。
- ・被災前に住んでいた宅地の敷地ぐらいいは欲しい。
- ・瓦礫の撤去を町（東電）等ですて貰わないと路地に家を再建できるか不安である。立ち入りできないので被害が大きくなっていると思う。
- ・帰町より資産を国有化し、住民の安全のためにいわき市などと合併を考えるべき。
- ・以前の榎葉町と同じ環境になってもその年月と共に自分の寿命が重なってしまい戻れないかも
- ・ライフライン、除染、ビジョン等が決まってからのアンケートにすべきではなかったのか
- ・高齢なので戻れないと思うと悲しい
- ・塩害の調査、ソーラーパネル・風力発電の設置

- ・以前と同じ櫓葉ではだめ、無駄遣いをやめる、中学校は作らなくていい、道路は作らなくていい
- ・今回の津波を忘れず、教訓として今後の災害等に対して防止策を政治・行政・工事関係者等の検討
- ・未来を見据えて津波に会った土地を皆でいったん国に信託すればどうか。国はこうした沿海部に大きな海浜公園を作って、多大な損害を被った観光産業の起爆剤にして現在加工工場周辺は壊滅的状况になっているので、豊かな川、海、目の前にあるこの自然の宝さえあればいつか必ず復興する。
- ・1日も早く帰って再建にかかりたい

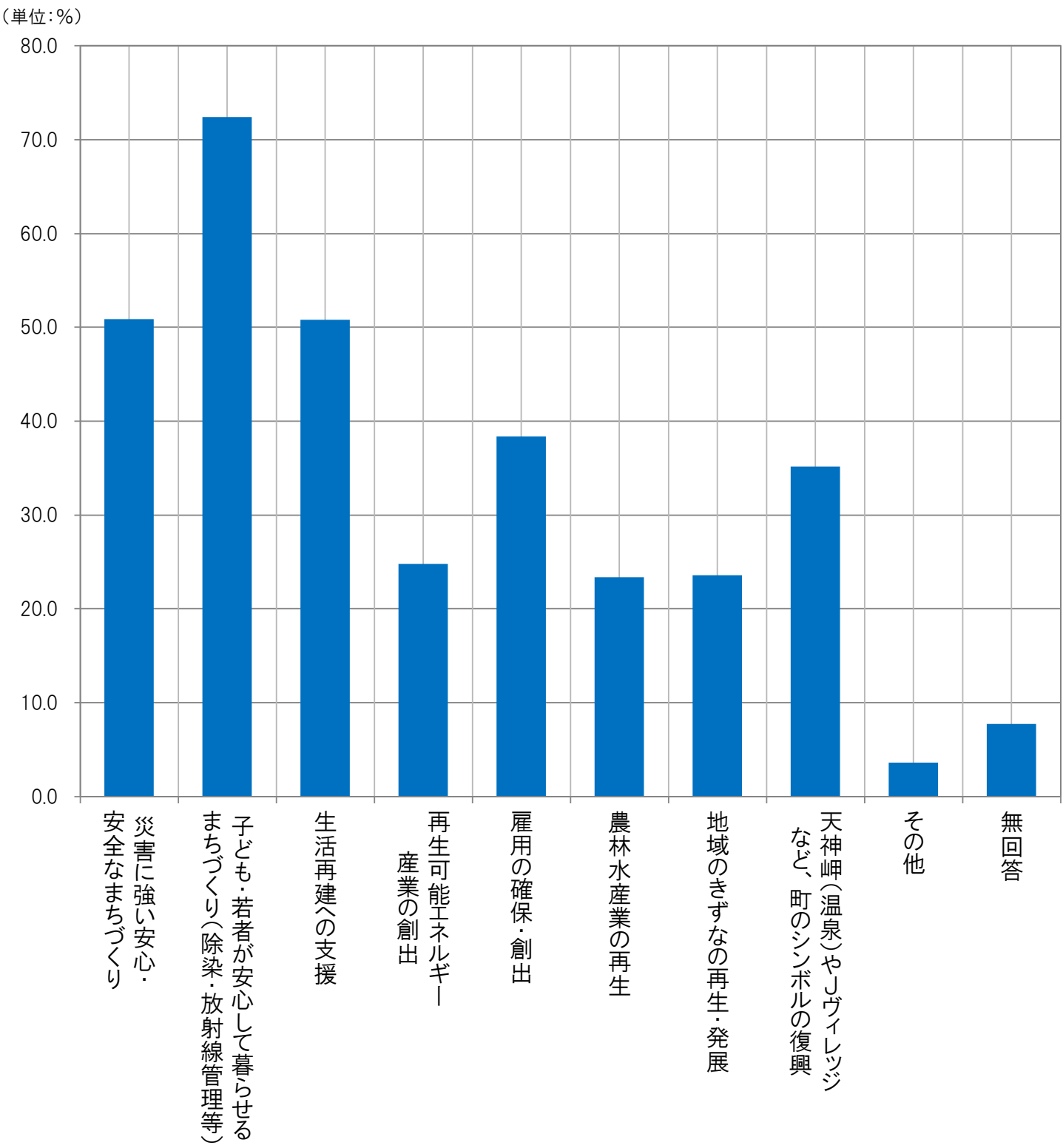
2. 2. 4 町の復興

【設問】
問24 今後、町の復興にどのようなことを希望されていますか。（複数回答可）

■ 結果の概要

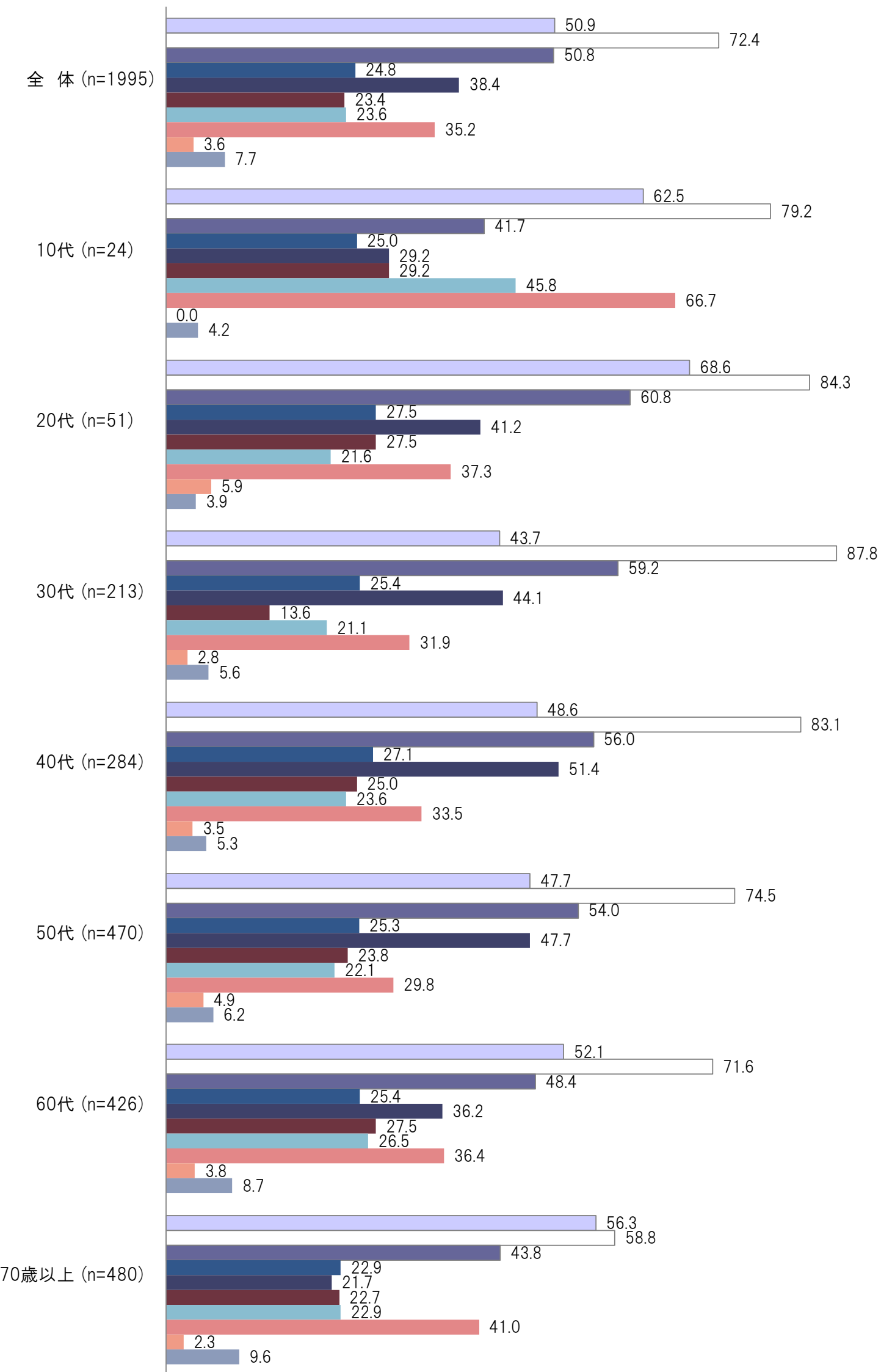
- ・ 全体の7割が、「子ども・若者が安心して暮らせるまちづくり（除染・放射線管理等）」を選択しており、最も多い回答となっている。これは、年齢別に見ても各世代ともに最も多い回答である。また、「災害に強い安心・安全なまちづくり」「生活再建への支援」という選択肢に対しても、いずれも約半数が選択している。
- ・ また、「その他」の自由記述を見ると、各年齢層ともに「脱原発」「原発に頼らないまちづくり」などという意見が目立っている。
- ・ 年齢別に見ると、特に20代～50代の勤労世代において、「雇用の確保・創出」という回答が4～5割に上っていることが特徴的である。

◆ 単純集計結果



◆ 回答世代別集計結果

(単位:%)



- 災害に強い安心・安全なまちづくり
- 子ども・若者が安心して暮らせるまちづくり（除染・放射線管理等）
- 生活再建への支援
- 再生可能エネルギー産業の創出
- 雇用の確保・創出
- 農林水産業の再生
- 地域のきずなの再生・発展
- 天神岬（温泉）やJヴィレッジなど、町のシンボルの復興
- その他

◆ 集計表

	全 体	く災害に強い安心・安全なまちづくり	子ども・若者が安心して暮らせるまちづくり（除染・放射線管理等）	生活再建への支援	再生可能エネルギー産業の創出	雇用の確保・創出	農林水産業の再生	地域のさずなの再生・発展	天神岬（温泉）やJヴィレッジなど、町のシンボルの復興	その他	無回答
全 体	1995 100.0	1015 50.9	1445 72.4	1014 50.8	495 24.8	766 38.4	467 23.4	471 23.6	703 35.2	71 3.6	153 7.7
10代	24 100.0	15 62.5	19 79.2	10 41.7	6 25.0	7 29.2	7 29.2	11 45.8	16 66.7	- -	1 4.2
20代	51 100.0	35 68.6	43 84.3	31 60.8	14 27.5	21 41.2	14 27.5	11 21.6	19 37.3	3 5.9	2 3.9
30代	213 100.0	93 43.7	187 87.8	126 59.2	54 25.4	94 44.1	29 13.6	45 21.1	68 31.9	6 2.8	12 5.6
40代	284 100.0	138 48.6	236 83.1	159 56.0	77 27.1	146 51.4	71 25.0	67 23.6	95 33.5	10 3.5	15 5.3
50代	470 100.0	224 47.7	350 74.5	254 54.0	119 25.3	224 47.7	112 23.8	104 22.1	140 29.8	23 4.9	29 6.2
60代	426 100.0	222 52.1	305 71.6	206 48.4	108 25.4	154 36.2	117 27.5	113 26.5	155 36.4	16 3.8	37 8.7
70歳以上	480 100.0	270 56.3	282 58.8	210 43.8	110 22.9	104 21.7	109 22.7	110 22.9	197 41.0	11 2.3	46 9.6

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 (なし)
【20代の回答者】 ・原発に頼らない町づくり
【30代の回答者】 ・町長を変える ・原発に頼らない町づくり ・原発をなくしてほしい ・役場職員の監視。コネで入った人を切る。 ・未だに収束していない原発、これから安心な檜葉町ではないと思います。なので国が土地や暮らしの保障を新しい生活を送れるようにいち早く願う。 ・上記に丸を付けたが、本気で再生できるとは思っていない
【40代の回答者】 ・脱原発(7件) ・原発の無い場所での復興 ・原発、災害に対する町の方針を明確にする ・脱原発を目指し再生エネルギーの本格議論をして欲しい
【50代の回答者】 ・脱原発(10件) ・介護関係の施設ができること ・緊急時の避難計画や職員体制 ・東電に頼らない発電産業 ・町長以下が町民のために動いてくれる ・8は後回しでもいい ・町長が代われれば良い ・無税 ・町が復興するイメージが浮かばない ・第二原発の再稼動(雇用) ・新たな生活設計ができる街づくり

【60代の回答者】
・脱原発(3件) ・若い家族が住みたくなる町 ・老人のケアサービス ・合併、移住を考えるべき ・道を作らず、町中をきれいにしたい ・国、県、東電による新しい町づくりの支援 ・義捐金を捻出したい ・原子力の無い、安心して暮らせる町づくり ・広野・楡葉・富岡・川内の合併 ・未来も望みもない ・老人が安心して戻れる福祉 ・原発があるかぎり町に戻ることは判断できない
【70代以上の回答者】
・脱原発(3件) ・老人ホームの再開(2件) ・原発事故の早期収束 ・町の中にスーパー等の誘致 ・危険産業の無い静かな町づくり ・合併で街づくり

【設問】

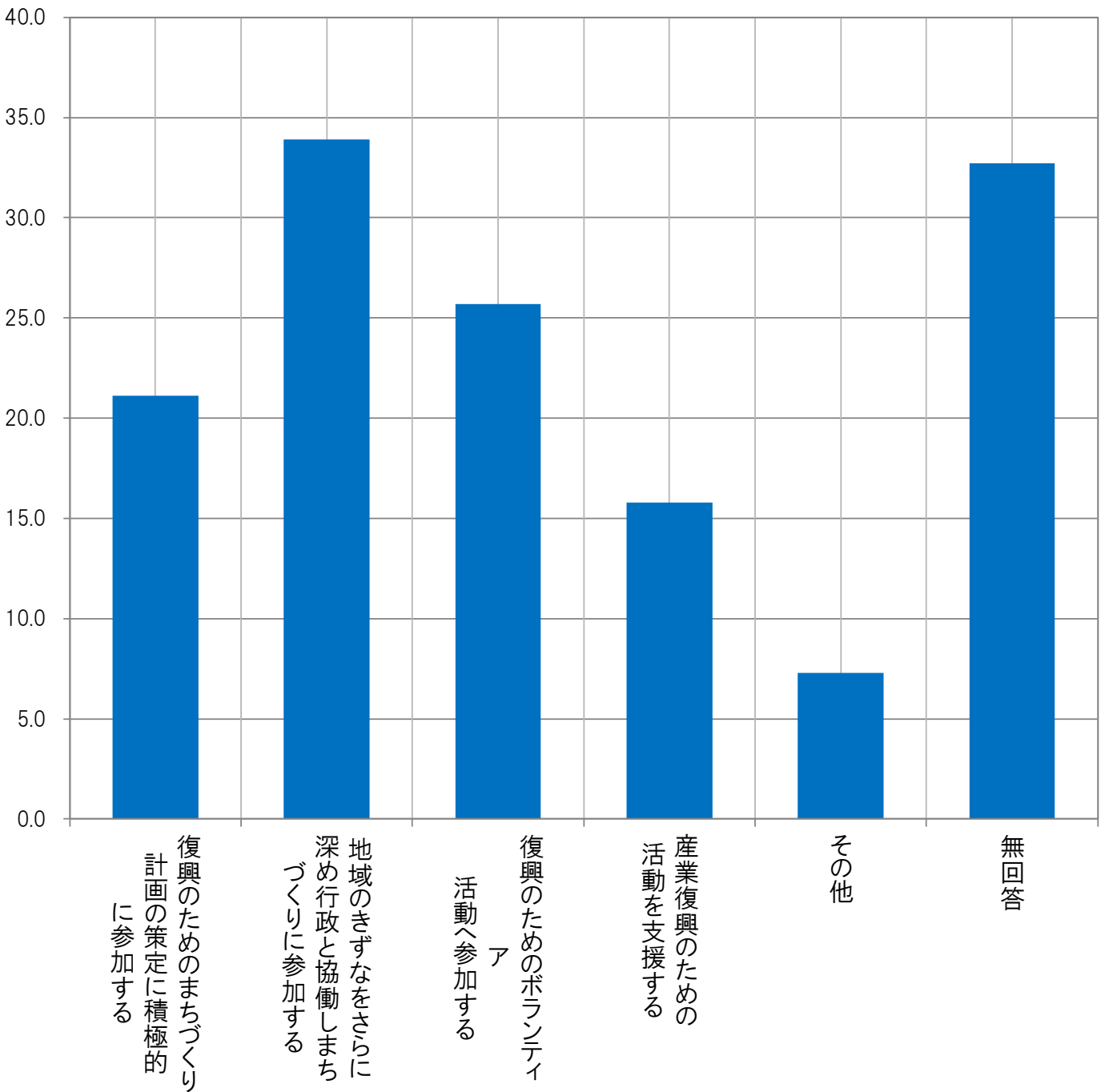
問25 あなたは町の復興のために何をすることができますか。（複数回答可）

■ 結果の概要

- ・「地域のきずなをさらに深め行政と協働しまちづくりに参加」が1/3を占め、次いで「復興のためのボランティア活動へ参加」（約26%）、「復興のためのまちづくり計画の策定に積極的に参加（約21%）」「産業復興のための活動を支援（約15%）」の順となった。
- ・年齢別に見ると、20～60代までのいずれの世代でも「復興のためのまちづくり計画の策定に積極的に参加」という回答が2割を超えており、各世代に復興計画策定に参加意欲を持つ町民が一定の割合で存在することがわかる。

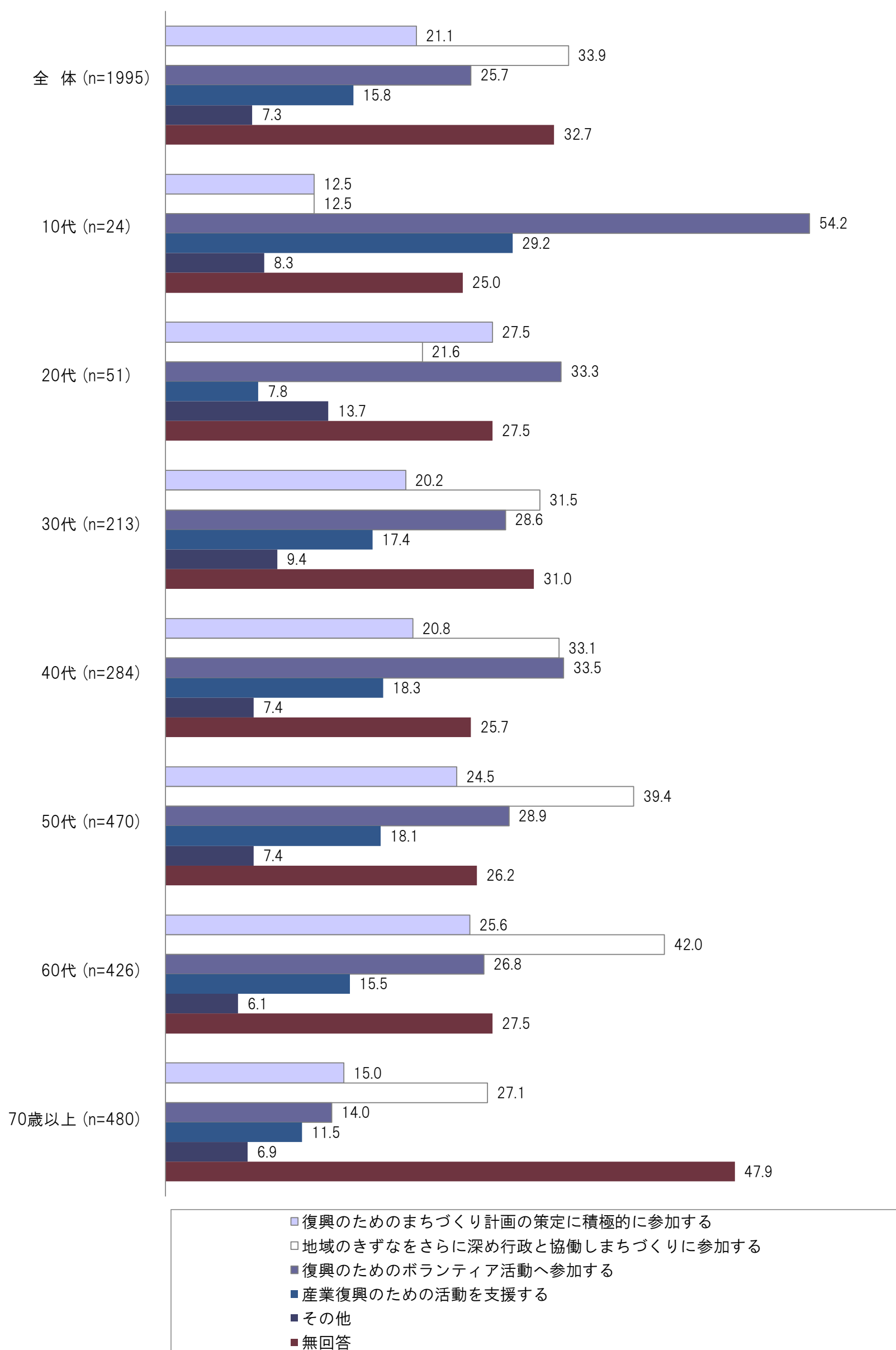
◆ 単純集計結果

（単位：％）



◆ 回答世代別集計結果

(単位:%)



◆ 集計表

	全 体	策復 定興 にの 積た 極め 的の ま ち づ く り 計 画 の	と地 協域 働の しま ず な を さ ら に 参 加 め る 政	へ復 参興 加の すた めめ のボ ラン ティ ア活 動	る産 業業 復興 のた めの 活動 を支 援す	そ の 他	無 回 答
全 体	1995 100.0	421 21.1	676 33.9	512 25.7	316 15.8	146 7.3	653 32.7
10代	24 100.0	3 12.5	3 12.5	13 54.2	7 29.2	2 8.3	6 25.0
20代	51 100.0	14 27.5	11 21.6	17 33.3	4 7.8	7 13.7	14 27.5
30代	213 100.0	43 20.2	67 31.5	61 28.6	37 17.4	20 9.4	66 31.0
40代	284 100.0	59 20.8	94 33.1	95 33.5	52 18.3	21 7.4	73 25.7
50代	470 100.0	115 24.5	185 39.4	136 28.9	85 18.1	35 7.4	123 26.2
60代	426 100.0	109 25.6	179 42.0	114 26.8	66 15.5	26 6.1	117 27.5
70歳以上	480 100.0	72 15.0	130 27.1	67 14.0	55 11.5	33 6.9	230 47.9

◆ 「その他」における自由記述

【10代の回答者】 ・将来社会人になったらふるさと納税できるよう小さな力でも継続する
【20代の回答者】 ・今の状況では無理 ・アンケート回答くらいなら可能 ・檜葉町を大切に思うこと ・帰れるならできることはする
【30代の回答者】 ・わからない(4件) ・ごみの処分方法をすでに考えてある。 ・協力を求められれば積極的に協力する ・祈っています ・檜葉町民が一人でも多く檜葉に戻ってくるような良い仲間とのコミュニケーション ・何をしたら復興か分からない ・除染に協力する ・自分のことで精一杯 ・若い世代が住みたくなる街づくり ・自分ができる範囲で ・復興のために寄付 ・もとの檜葉の地では無理だと思う。他の地での復興ならば十分理解できる。
【40代の回答者】 ・現段階ではわからない(.3件) ・自分のことで精一杯(2件) ・子供たちへの教育 ・選挙で新しい町づくりにふさわしいリーダーを
【50代の回答者】 ・自分のことで精一杯(3件) ・できない、気力がない ・能力がないのでできない ・現時点では考えられない ・町長が先頭に立つことが条件 ・仕事のため無理 ・県外避難のため直接参加はできない ・できない。復興のためには元に戻すこと ・自分にできることがあれば ・体が不自由なので分からない ・今は分からないが復興のための協力は惜しまない ・仕事があれば生活基盤が成立しない ・ライフラインの確保 ・今はまだ何としても町に帰りたいという意欲がない ・考え付かない ・脱原発

【60代の回答者】 ・わからない(3件) ・年齢的に無理(2件) ・身体が弱い為できる範囲で協力する ・仕事を通して楢葉町の発展に尽くしたい ・60代も終わりだが、なるべく参加したい ・行政次第です。 ・自分の家族で精一杯 ・やれることがあれば何でも ・第二原発を稼働し雇用場を作る ・家の状況が安定したら協力したい ・すべて原発問題 ・町に戻ってから考える ・原発がなければ希望がないこともない
【70代以上の回答者】 ・年齢的に無理(5件) ・自分に出来ることがあれば参加したい。 ・年齢的に無理だかできることはしたい ・健康でいられれば何にでも参加できる ・高齢なので精神的な支援しか出来ない ・高齢のため相応の協力。 ・高齢のため被災前の活動ができるかと思う ・原発の安全 ・迷惑をかけないようにしたい ・若者に任せる

【設問】

問 2 6 現在お困りのこと、今後の町の復興に関する意見や要望など、ご自由にお書きください。（自由記述）

◆主な自由記述

（１）避難生活への各種支援について（意見数：４５１）

○避難所や仮設住宅以外の被災者にも公平な支援を（９５）

- ・借上げ住宅にも支援物資等を
- ・県外への避難者にも支援物資等を
- ・親戚・知人宅への避難者にも支援を
- ・避難所や仮設住宅以外では支援に関する情報が遅れる
- ・他の町村と比べて支援が不十分
- ・仮設でも借上げ住宅でもない者には殆んど支援がない
- ・仮設が決まっているのに入居しない人などの自立を
- ・借上住宅を自県他県共に認めるべき
- ・借り上げではなく支援（補助）金に変更してほしい

○町からの情報不足、遅れなどについて（８１）

- ・町の情報不足、遅れがある
- ・インターネット、パソコンが利用できない人への配慮を
- ・借上げ住宅等での町の情報不足
- ・町と町民がコミュニケーションを図れる仕組みが必要
- ・避難地域での町当局との定期的会合を

○仕事・生計への支援要望（８０）

- ・事故で仕事・収入が無くなった、収入が減った
- ・仕事がない
- ・一時保育などにより就職活動の支援を
- ・住宅ローンがどうなるのか不安
- ・税金の免除を
- ・避難生活が長期化しても支援の継続を
- ・家賃負担が重い
- ・二重生活で出費が大きい
- ・交通費や生活用品購入など事故がなければ払う必要の無かった支出が増えた
- ・医療費の免除証明書がほしい
- ・米や野菜も買う生活になった

○要介護者、障がい者、病弱者のいる世帯等への支援（４４）

- ・リリー園の再建を、リリー園にもどりたい
- ・介護のためには住宅が狭い、バリアフリーが必要
- ・遠隔介護が大変
- ・介護用品の支援を
- ・施設入所費用への支援、県外避難者への支援を
- ・施設入所措置の遅れへの不満
- ・高齢者の独居生活不安、苦勞
- ・障がい者対応、精神的障害の悪化への対応などを
- ・病気や障がい者だけの世帯、病人を抱えて不安など

○一時帰宅について（１５１）

- ・もう一度行きたい
- ・自家用車で行きたい
- ・植葉は線量が少ないのでもっと自由に行きたい
- ・自宅の内部や周辺の片付けなどができる様、ある程度の時間の余裕のある一時帰宅を
- ・季節が変わるたびに買ったものはたまり、借家は狭く物の置き場に困っている
- ・季節がかわって不必要になったものは持ち帰れるような配慮も
- ・袋での制限はやめてほしい、持ち出せる量を世帯人数に応じて考慮してほしい
- ・タイヤ、冬物衣服等を取りに行きたい
- ・家の片付け、風通しなどしたい
- ・自動車の持ち出し、トラクターの持ち出しをしたい
- ・浪江町に置いて来た車を出したい。
- ・連絡がこない、遅い、順番に不公平感、
- ・牛が約２０頭いてとても怖かった
- ・防護服で往復し、熱中症になりかけた
- ・１６才以上の一時帰宅の場合、高校等を公欠扱いにしてほしい

（２）生活環境への各種支援について（意見数：１５１）

○住宅の確保

- ・いわきでの住まいの確保を
- ・一時提供住宅の入居期限後の対応が不安
- ・借上げ住宅の申請期間延長を
- ・家族が多い家庭や子供が多い家庭に優先してほしい
- ・社宅にいつまでいられるのか不安
- ・ペットがいて住宅が確保できない

・住宅提供の対応が遅い
○仮設住宅の改善要望 ・買い物や医療バス等の運行町民タクシーのような交通網を ・駐車場がない、足りない ・玄関の呼鈴設置、テレビの配線の増加、庇の設置等を ・通路の整備 ・狭い、収納場所が無い ・集会所（ミニコミュニティセンター）の設置を
○借上げ住宅の環境改善、転居要望 ・借り上げ住宅での極悪環境の生活を改善してもらうにはどうしたら良いですか？ ・エアコン等の冷、暖房器具が購入・取付けできない。熱中症の危険がある。 ・現在の住宅が狭くて、あつい！、人数にあった住宅をお願いしたい。 ・長期で暮らすには無理が有る住宅です。欠陥住宅の症状が表れて来ている。
○ふれあいの機会確保 ・会話の機会確保等 ・知人の連絡先情報等の入手 ・会話の機会（近所の人達と語りあいたい、友人、知人には直ぐにも逢いたい。） ・一泊などでの行政区単位の集会の実施を ・会話のない1日、1日はとってもつらい ・独居の不安
○その他避難生活での困り事等 ・知らない土地で不安 ・独居の不安 ・周辺施設情報がほしい ・避難先付近で健康診断を希望 ・納骨、お墓参り、法要等に困っている ・会津の冬の生活、寒さ対策への不安 ・自立した暮らし、気持ちの切替をしたい ・写真、位牌等の津波で流され保存されているものを早く公開して ・どこかにリトル檜葉町を作り、集まって暮らしてはどうか ・檜葉町民での成人式を
（３）警戒区域の解除や帰町への懸念について（意見数：２７７）
○東京電力による補償について（６２） ・東京電力に対して町民の意見を強く伝えてほしい ・東京電力の生活支援が遅い ・東京電力との交渉の際の支援を ・今頃、記録を提出といわれても困る ・家屋や土地の買上を ・買い上げ等のスケジュールを知りたい
○自宅の被害拡大防止について（２３） ・応急処置を早く実施してほしい ・戻っても住めるかどうか不安 ・動物被害があり、動物駆除を ・修理等が遅い、不公平感があるなどの不満
○警戒区域内の対応について（２４） ・泥棒被害が心配（盗難、防犯措置） ・現在町で復興・復旧作業はどの程度まで進んでいるのか知りたい ・放射線のモニタリングはやっているのか ・現在の町の状況を、数値、写真等で細かく公表してほしい ・家の状況が知りたい。 ・ペットがどうしているか知りたい。 ・雑草への対応、動物の糞の始末が必要
○解除の条件等 ・安全になるまで戻れない、戻るべきではない ・町全体を除染しなければ、内部被曝する ・全てを除染は不可能、森林から地下水に影響する懸念 ・最低でも安全、安心して農作物が作れる状態に ・畑や庭いじりが安心してできるように ・Ｊビレッジや廃棄物処分など放射能汚染された物を処分する場所の近くには住めない ・原発の状況が心配 ・防災対策、緊急避難情報等の確実な伝達の仕組みが必要
○戻りたい ・放射線量の低い所は警戒区域から解除するように ・汚染度によって、大字、字、単位で戻れるように ・避難が何年も続くようなら檜葉の自宅に帰りたい ・二年も手入れしなかったら畑が荒れてだめになる

・町は指示を待ってないで、自分達で動きはじめるべき
○警戒区域の解除等の判断 ・子ども、若い世代を中心に多くが戻らず高齢者だけになる懸念 ・警戒区域の解除等には、安易に妥協せず、慎重な判断を ・世代間の差があり、これを一体化させる事は、不可能 ・警戒区域の解除は、より慎重な判断を求めるよう国へ求めるべき ・警戒区域解除は防犯上の問題もあるので慎重に ・学校のことを考えて、町民が町へ戻るタイミングを4月以前に ・東京電力、県、国に対し、き然とした態度を ・“絶対嘘をつかない”ことを約束として取りつけてほしい
○帰還後の不安（生活環境全体の回復が必要） ・働く場所の確保が不可欠 ・双葉郡の町村が復興しなければ戻っても雇用や生活環境に問題 ・生活用品の確保が困難・役場、会社、お店、仕事、家族、学校、病院、介護施設が回復するのか ・車のない人達が買い物、通院、難民になるのでは、足の確保が必要 ・町が機能しなくなるので警戒区域縮小に当っては楢葉町を分断しないで ・畑で野菜を作っても食べられるか不安 ・代々の土地を守る農家の長男、農地所有者が大変 ・水道水がのめるのか不安 ・友達が帰ってくるか、不安 ・もどる時には引っ越しの支援を
○健康や医療 ・健康診断・検査、内部被曝の検査を ・被災（放射線）手帳の配付を ・将来影響が出た場合の対策を ・病院、医療の充実を ・心のケアを ・放射線影響のモルモットの存在になる懸念
○住宅再建について ・住宅再建に不安 ・住宅再建支援（住宅の確保支援）の明確化を ・住宅の無償提供を ・宅地被害への対応を ・津波被災地の再建について同じ所に再建できるのか判断を
○戻れない、戻らない世帯への支援 ・解除後も戻れないと判断をした世帯へ継続支援を ・戻らなかった住民への対応を知りたい
（４）帰還準備や帰還後の除染・モニタリングについて（意見数：８４）
○放射線の影響などに関する正しい知識の必要性など（１６） ・放射線が人体にあたえる影響、特に妊婦や胎児への影響などを知りたい ・放射線・放射能について、注意すること守ることを知るため勉強会の開催を ・危険か安全かの判断を各個人ができるということが復興、町帰還への近道 ・事故の本当の経過を知りたい
○詳細な測定と公表を ・各地区の汚染状況、各家屋周辺の詳細な汚染状況の綿密な測定を ・農地・土壌、地下水、海水への汚染状況の確認と公表を ・町による測定の実施、町は町民を守るために独自の活動を ・モニタリングポストの情報の公開を ・嘘のない数値を公表してほしい
○各家庭への線量計の配布を（２０）
○除染の実施に関する情報提供を ・誰が、いつまでに、どの範囲をどのような手法で除去していくのかの工程表を提示すべき ・進ちょく状況とその結果（測定結果）について情報提供を ・上水道機能に放射能の除染能力はあるのか ・屋敷回りの除草、代木等についてはどのように対処するのか ・自宅周辺の除染をどこまで実施してくれるのか ・汚染されている車内のマットや床を買い取りはないのか
○放射性廃棄物の保管や処理 ・町内での放射性廃棄物の保管や処理には反対、町を放射性物質の処理地にしない ・除染終了まで長期間放置されたゴミ、使えなくなったものの東電による回収処分を ・楢葉町長が最終処分場に手を上げたと聞きました、本当でしょうか。 ・南双葉ゴミ処理センターでの発電所からのゴミ焼却の安全性などについて周辺の人々への対応を
○その他 ・放射能を監視する機関の設置を

・汚染除去のための町アドバイザーコーチ（指導者）の確保を ・他町村と産・学と連携したあらゆる方法による除染を ・放射線の洗浄は素人はしないで玄人（プロ）に任せるべき ・60才以上は早く帰して、除染のボランティア活動に参加させてはどうか ・植物を使った除染に取り組んではどうか
（５）子ども・女性への対応（意見数：５０）
☐ 小学校、子供の園の情報 ・もっと子供達のこと考えるべき ・これからの教育の考え方についての情報がない ・意見など、もっと早くに聞いてほしかった ・子供の学校をどうしたらいいのか ・子供の転校で、心配はつきない ・こども園の子供達の交流をふやして ・子どもが自由に遊べる室内施設などがあるか ・なるべく転校させたくないが受験をどう考えればよいか
☐ 町としての学校園設置 ・榎葉町の児童園児等をまとめられないか ・町として幼稚園、小学校、中学校を再開してほしい ・保育園が空きのない状態、保育園または一時保育を始めて欲しい ・早く子ども園的なものを運営してほしい、また、その経済的な支援を ・榎葉の子を知っている教職員がいる今年度中に学校再建・開校の道筋を
☐ 警戒区域解除と学校再開 ・警戒区域解除と中学校再開はどうか ・警戒区域が解除は防犯の為に一斉に ・離れた放射線量の少ない学校にバスで通学というようにできないか
☐ 将来的影響や差別・偏見への懸念 ・子どもへの健康影響、将来の不安 ・子どもへの将来的な差別や偏見の不安
☐ その他 ・子供の送迎、スクールバスの運行を ・平成23年度榎中1年生の入学がないのが残念 ・子宮頸がん予防ワクチン費用の助成を ・子供が友達が少なく休みの日に、引きこもる様になってしまった
（６）帰還の意思、帰還に関する意見・コメント（意見数：１８０）
☐ 先が見えない等（６９） ・先が見えない ・町の方針や計画を知りたい ・現在の取組状況や先の見通しを知りたい
☐ 早く帰りたい ・とにかく早く帰りたい。 ・高齢の親をつれて帰れるか心配 ・早く、元の生活にもどりたい ・今すぐでも帰り育った所で死にたい ・高齢なので田舎で残り少ない人生を送りたい ・子供を榎葉中学校に通わせたいと思っているし、子供も同じ気持ち ・生活の基盤が復旧して３年後には榎葉町に戻りたい ・まわりの町はどんどん復興していき、いつまでとりのこされていくのかなと悲しくなる
☐ 頑張ろう、あきらめない ・帰れるよう頑張ろう ・地域のきずな深めてがんばろう ・年寄りも“必ず榎葉に帰るんだ”という思いでいるので、希望が持てるような事を望む
☐ 美しかった榎葉町へ戻りたい ・榎葉町のきれいな山 木戸川 海、安心して住める榎葉町で仕事がしたい ・必ずあの美しかった榎葉町へ戻るんだ、と強い気持を持ち続けたい ・町の美しさ、農業はじめ酪農業等の盛んさを改めて認識、このまま立入禁止地区にしてはいけない ・私の回りで誰一人榎葉町を嫌いだと言った人を見たことがない
☐ 安全になったら戻る、戻れるように安全にして、安全にならないと戻れない ・今すぐには無理なので残念でしかたがない ・帰町は第1原発の安定化を第一に考えている ・原発の先行きがきちんと出ない以上復興は無理 ・放射線の無い住居の場所を見付けてほしい
☐ 帰りたくない、戻らない ・放射能がこわい、帰りたくないのが本音

・住まいの買い上げ等のスケジュールを知りたい ・町に戻りたくない場合は『戻らなくていい』という連絡を早急に ・自宅を直す費用もなく家の回りも草で覆われ、そんなことを考えると、戻りたくない
○戻らない場合の支援を ・帰れないなら家や土地を買上げて ・町に戻らないと判断しても生活や仕事の支援はしてほしい
○その他 ・榎葉町に戻るか、新天地で生きていくか、思案中 ・大きな荷物をとりに帰りたい、きちんと引っ越しをしたい ・今回の事故で家族間の考え方の違いが強く出て困っている ・榎葉町へ戻れたらボランティアで協力したい ・町長や町の役員は、本気で戻りたいと思っているのか ・損害賠償について詳しく知りたい ・なぜ今までもっと危機管理をしてこなかったのか
(7) 原発の存続・廃止（意見数：73）
○第一、二原発の廃止、第二原発再稼働反対、脱原発を（60） ・第二原発の下には活断層があるとも言われ不安 ・働いている人には申し訳ないが絶対に廃炉に ・東京電力の事故の原因はいつわかるのか ・第二原発の再稼働は大反対 ・町長の第二原発の再稼働を求める発言はいかがなものか ・日本国内及び双葉郡から「原発」をなくす ・とにかく原発依存はやめて下さい。 ・東電、原発に依存しないまちづくり ・原子力エネルギーの開発の再考を ・こんな思いまでして原子力は必要なのか ・原発の状態を隠さずに伝えて欲しい
○再開、徐々に転換を ・これからも東電第二原発と共存共栄の道を ・町民と一緒に東電の安全と復興を一日も早く ・今、原発をなくして社会や経済は成り立たない ・原発が必要であり、原子力関連事業、施設を集約した一大地域作りを ・原発なくして町（双葉郡内全町村）の復興はできるのか疑問 ・世論の大勢が脱原発とは思わず、耐用年数に達したもののから順次運転停止するのがいい
○どちらとも言えない、町民の意見で方向性を ・東京電力があったからこそ雇用があったのも事実で、安易に反対・支持といえない ・全町民の意見で方向性を ・第二原発についてのアンケートはやらないのか
○その他 ・津波による第二原子力の被害報告はあったのか
(8) 復興計画、復興への取組等（意見数：212）
○目標・課題等 ・被災前と同じく町民みんながいきいきとくらせる町に ・小さい子供達を守って生活出来る町づくりを ・2年、3年かかっても若者が戻ってくる方法を考える必要 ・原発不稼働による町財政の貧窮化 ・新たな企業、産業の誘致、雇用の確保 ・海岸線の復興に関して災害防止と観光開発の観点から先を見越した対策を ・除染し、子供が生活していくうえで安心な町づくりを ・生活環境の場（自分の家、土地、田、畑）の除染が前提 ・鉄道など交通機関が遅れると「過疎の町榎葉」になる ・国から良い事、悪い事の全てを聞き、現実を受止めて町民が色々な選択肢を出来る様に ・避難指示の出し方や避難所への足の確保等に関する反省と検討 ・復興よりも、現時点の避難している人達の考慮を検討すべき
○復興への取組姿勢、方針（全般） ・現在は戻りたくないという人達も廃炉後に戻ってこれる魅力的な町づくり ・1人でも多くの町民が帰ってこれる様な生活基盤の再建 ・国が県がと云うのではなく、もっと強く町の考えを前面に出すべき ・何一つ欠けても生活は成り立たないので、町民全員と一緒に戻れる町を前提の町づくりを ・戻る事をいそぐあまり方向を誤らないこと、じっくりと町、町民の将来を考え「正しい道」を ・チェルノブイリで何が起きているかを勉強し、住むことをあきらめる選択も示すことが必要 ・全世界で注目をしており、榎葉町の将来を自分達で描き、つくることができるチャンス ・町民もやれることに取り組み、その姿を見せて国県を動かしていくことが早期の復興に必要 ・復旧、復興、切り捨て等の選択肢など、いくつかのフェーズに分けてシミュレーションを ・町民一人ひとりが協力してゼロからのスタートを ・一時の「復興」交付金で自立できるのか疑問であり、自分で何とかしようと思う人を大事に

・行政だけではなく避難者代表や関係者等で政府に働きかけをすべき ・政府の示す「復興」を丸呑みする様な復興は禁物 ・550年後100年後の子孫から評価される復興を考えたい ・今すぐすべきことと、将来を考えて今から準備することを分けて計画すべき ・国や県の指導や他町村の参考意見を活かし、檜葉町独自のアイディアで取り組みを ・現状を把握できない人たちに発想は生まれないので、国、県に振り回されないように ・小さな一言やつぶやきにも大きなヒントがあるので、声の大きい人の意見に偏らないように ・原発事故の検証結果を待ち、第2原発の検証が必要 ・20km圏内は国有化を ・津波対策の構築が必要
○復興への取組姿勢、方針（双葉郡が連携・合併して取り組む） ・双葉郡が一つまたは、南北に二つにまとまって知恵と力を出し合うことが必要 ・全く戻る事のできない町もあるので、近くで、新しい町の再建を ・新生檜葉町を双葉郡内の町村合併で実現させよう ・いわき市等と合併し、文化レベルの向上した次世代住民を育成すべき
○復興への取組姿勢、方針（別の場所に） ・安全の確保ができない場合、町全体を別の処に移転する ・国に町ごと買いあげてもらい、別な場所に町を再建してほしい。 ・檜葉町を新天地（代替地）での再建、全国に分散 ・原発のない場所で新たに再建をする事が若い人達の為
○復興への取組手順等 ・町職員の英知とアイデアを結集し、エリア8町村に先がけて復興ビジョン作成に着手を ・帰れた場合の工程を今のうちに計画、根まわし等を行なっていく ・町の復興プランを早目に住民に提案し、住民と共に復興に向けた取り組みを ・町の復興計画は、国、県の復興計画を骨子として実状にあった計画を策定し、年次計画で実施 ・町の防災計画の見直しを行うことが必要 ・警戒区域の縮小される時期を待たず、その時期が到来した時に迅速に動き出せる体制を ・今から、ライフライン復興をいち早く行えるような計画を ・帰らない事には町の復興はあり得ないので、まずは早くライフラインを回復させる ・早期な復興ビジョン創りに取り組まないと、特に壮年者、青年者の帰還率が低下する ・原発収束後の安全宣言 ・復興への配慮も必要であり、安全（除染、放射線管理等）の担保が先決 ・行政機能は先んじて元に戻し、地元から避難に対処対応すべき ・帰還できる事を前提にライフライン復旧などに着手する ・立入が出来るようになったら先に大人達がまず帰町し、町民の手で放射線量の測定、除線作業を ・ライフライン復旧、緊急時の避難道路整備などについての明確な時期の提示を
○復興に向けた各種取組・アイデアの提案（順不同） ・花のある町、きれいな町であれば、よろしいんじゃないでしょうか。みんなで、ひまわりや菜の花を植えましょう ・若い人が戻るまで住民の人々と檜葉町にも山ひとつ花見山を作れると嬉しい ・小中学校・役所等に自家発電機やバッテリー等を備えては。 ・大型スーパー、ファミリーレストラン・ダイソー店等、日常生活が楽しくできる町に ・商業の拠点となるべく協同組合型式のテナント店舗はどうか ・道路が整備されているので、自動車よりバスを使えるように ・日常の生活ができるための、買い物（スーパー等）、病院等、総合的な町づくりを ・電車が通って、幼・小・中学校に通える状況で、みんな元気に外で遊べるように ・各家にや第一、第二発電所にソーラーを ・多くの町民が長くお世話になった下郷町などと友好関係を結び双方の発展に寄与すべき ・経済特区として優遇税制等で新規企業誘致と既存企業の活性化を ・特区制度を利用し新エネルギー分野の産業により雇用の創出を ・自然エネルギーで町中に風車を建てるのはやめて ・新エネルギー開発に対する研究所等大規模な企業誘致を国に要求すべき ・木戸川、井出川、農業用用水堀に流れている水を利用した小型水車の開発、設置 ・木戸川をいかした産業はできないか ・温泉の熱帯魚 ・Jビレッジが復興のシンボルとして立ち上がれば希望が見えそう ・Jビレッジの機能を福島第二に移動させれば檜葉町民は全員戻れる ・井出地区の商店街の道路が狭く、今度のような災害があった時の避難に懸念 ・耕作放棄、放棄地が増えるので、それらを法人化して特産物など創出。 ・風評被害を予防できる安全宣言を効率的、効果的に実施 ・6号線を通れるように
○復興に向けた各種取組・アイデアの提案（津波被災地域） ・海岸地帯津波被災地域にソーラーパネルを設置 ・浜街道の整備を防災堤防と合わせてできるか考えるべき ・津波による被災地を記念公園に ・河川の堤防の補強とかさ上げ、護岸の補強を
○復興計画づくりへの情報提供や住民参加手段の提供 ・町が今後どのような復興していくかの情報が発信を ・復興計画を「広報ならは」に ・ならは議会報に帰宅対策、町の展望等々の議論の状況を開示して

・復興作業の金額や業者を公表すべき ・全住民参加の町再生にして欲しい ・全てを公表しなくとも多少の情報を知らせてほしい ・直接参加できない人にも、参加できるよう窓口を（意見箱等） ・何よりも、これから檜葉町を背負う若い人、子供達に意見を聞く ・有識者などだけでなく幅広く、これまで行政に口を出していなかった人達からも意見を聴取 ・このようなアンケート等は定期的に ・区長等各行政区の代表を集めて意見交換すべき ・ビジョン創りには20?40代前半の年令層の意見を最大限取り入るべき ・意見交換するためにはワークショップの開催も必要 ・住民との協議、対談の場を設ける ・町全体集会の場を設ける ・福島大学「うつくしま福島未来センター」に復興構想などを講演してもらう
○復興への取組体制 ・若い人達が町の中心となり復興に努力すること ・将来を担う人の育成に力を注いでほしい ・町の有識者や専門家の意見などを幅広く吸い上げ近代的な町造りを ・避難地域自治体と足並を揃えること ・テーマ別復興会議を設置し意見集約を図るべき ・町議員が中心になり積極的に動きだしてほしい ・行政に頼るだけでなく復興プロジェクト委員会を作り復興に取り組んで行きたい
○その他（復興への支援の必要性） ・長期的な国、県及び東電の支援が必要 ・農家の力は弱いので県をはじめとした行政の指導力に期待 ・原子力事故に対して国への補償を強くアピール ・復興は政府が国策として動かないと無理。檜葉を蘇らせるのは新しい町をゼロから創るより大変 ・仕事（職）については、国から協力を得て、新しい産業を作ることが必要
○その他 ・国、県に振り回されずに、前向きに生きることを考えよう ・受け身ではなく、自分が何をできるか、自身が生きて行けるか？やろう！いこう！の決意で
（９）その他、アンケートや町の取組状況等（意見数：２０８）
○アンケートについて（２３） ・この調査結果の公表を（１２） ・生活状況、収入も世帯主とちがうので個人別に調査した方がいい ・問15で、戻らないと答えた人の意見は聞かないのか？町としての姿勢が信じられなくなる ・問25で1を選択した人にだけ役場の連絡があるのは不公平ではないか？ ・このアンケートが届くことだけで、近々に帰れるのではないかという期待感をあおる ・今後原発に対してどのような考えをもっているか質問すべきではなかったか ・アンケートの内容をどの位、反映してもらえるのか？既成事実を作るためのアンケートに感じる ・今現在の情報を提供しつつアンケートした方が、よりの確な考えを（意見）求める事ができる ・このアンケートが本当に役に立つのか、この事に本気で向きあう役員がいるか不安
○町長、町議への要望、不満など（６７） ・町長・町議の動きが見えない ・町民の声を聞きに来てほしい、町民へメッセージを ・町長・町議に不満 ・もっとメディアでアピールを
○町機能の改善、職員対応などへの要望など（３４） ・役場機能の主体を会津美里町からいわき地区に ・窓口対応が統一されていない ・報道と職員情報の乖離がある ・態度や言葉遣い、対応の遅さ ・相談・問い合わせに返事がない ・近隣市町村との連携を
○町・町職員への慰労・感謝（５５）
○その他 （東電・国会議員への苦情等） （アカデミー関係より、励ましや協力意思） （災害後の生活状況等） （提出遅れへの謝意等）